第Ⅱ部　調査結果

１　町民意識調査

１－１　回答者の属性

問１　あなたのことについて、お尋ねします。

性別、年代別、居住地区別、居住年数別、世帯構成別、同居家族別、職業別及び通勤･通学地別の回答者の割合は以下のとおりです。

図表 1-1-1　性別

区分	回答数(人)	割合(%)
男性	584	44.3%
女性	718	54.5%
無回答	16	1.2%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-2　年代

区分	回答数(人)	割合(%)
１０歳代	58	4.4%
２０歳代	81	6.1%
３０歳代	94	7.1%
４０歳代	195	14.8%
５０歳代	208	15.8%
６０歳代	279	21.2%
７０歳代	304	23.1%
８０歳以上	92	7.0%
無回答	7	0.5%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-3　居住地区

区分	回答数(人)	割合(%)
北山区	137	10.4%
中山区	54	4.1%
下門区	60	4.6%
馬場区	137	10.4%
市場区	27	2.0%
上ケ区	85	6.4%
小迎区	31	2.4%
玉東区	83	6.3%
玉西１区	95	7.2%
玉西２区	82	6.2%

区分	回答数(人)	割合(%)
原田区	14	1.1%
緑区	34	2.6%
大足区	119	9.0%
富貴区	99	7.5%
富貴市場区	61	4.6%
東大高区	82	6.2%
市原区	6	0.5%
新田区	8	0.6%
わからない	0	0.0%
無回答	104	7.9%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-4　居住年数

区分	回答数(人)	割合(%)
２年未満	26	2.0%
２年以上５年未満	49	3.7%
５年以上 10 年未満	53	4.0%
10 年以上 20 年未満	204	15.5%
20 年以上 30 年未満	179	13.6%
30 年以上	797	60.5%
無回答	10	0.8%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-5　世帯構成

区分	回答数(人)	割合(%)
単身世帯（一人暮らし）	120	9.1%
夫婦のみ世帯	402	30.5%
親と子からなる世帯（２世代家族）	615	46.7%
親・子・孫（３世代家族）	131	9.9%
親・子・孫・ひ孫（４世代家族）	4	0.3%
その他	21	1.6%
無回答	25	1.9%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-6　同居家族（複数回答）

区分	回答数(人)	割合(%)
６歳未満の子	47	3.6%
６歳以上１８歳未満の子	251	19.0%
６５歳以上の方	668	50.7%
介護を要する方	72	5.5%
無回答	408	31.0%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-7　職業

区分	回答数(人)	割合(%)
農業	14	1.1%
会社員・団体職員	335	25.4%
自営業	54	4.1%
公務員	45	3.4%
学生	74	5.6%
パート・アルバイト	207	15.7%
主婦・主夫	195	14.8%
求職中	10	0.8%
無職	350	26.6%
その他	20	1.5%
無回答	14	1.1%
計	1,318	100.0%

図表 1-1-8　通勤･通学先

区分	回答数(人)	割合(%)
武豊町内	255	19.3%
名古屋市	60	4.6%
半田市	179	13.6%
常滑市	65	4.9%
武豊町・半田市・常滑市以外の知多地域	111	8.4%
その他愛知県内	60	4.6%
愛知県外	10	0.8%
通勤・通学していない	330	25.0%
無回答	248	18.8%
計	1,318	100.0%

１－２　武豊町の暮らしやすさ

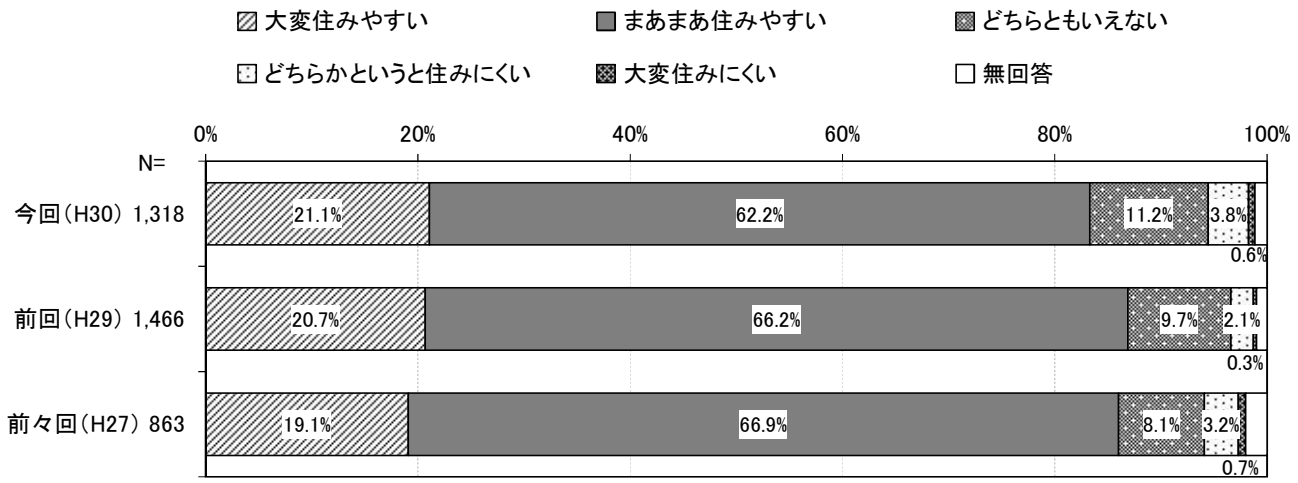
（１）住みごこち

問２　武豊町の住みごこちはどう思いますか。（１つに○印）

「大変住みやすい」が 21.1%、「まあまあ住みやすい」が 62.2%であり、両者をあわせると 83.3%となります。８割以上の方が武豊町は『住みやすい』と評価しています。一方、「大変住みにくい」は 0.6%、「どちらかというと住みにくい」は 3.8%と少数でした。

前回調査（平成 29 年）では、「大変住みやすい（20.7%）」と「まあまあ住みやすい（66.2%）」をあわせた割合は 86.9%でした。また前々回調査（平成 27 年）では、「大変住みやすい（19.1%）」と「まあまあ住みやすい（66.9%）」をあわせた割合は 86.0%でした。住みやすいとの評価は前回調査、前々回調査と比べるとわずかながら低下しています。

図表 1-2-1　住みごこち（過去調査との比較）



以下、回答者の属性別に「大変住みやすい」と「まあまあ住みやすい」をあわせた回答の割合で傾向をみていきます。

性別	○「大変住みやすい」と「まあまあ住みやすい」をあわせた割合は、男性で 83.7%、女性で 83.6%であり、顕著な差異はみられません。
年代	○10 歳代は 89.6%、20 歳代は 88.9%で、これら 10 歳代・20 歳代といった若い世代で住みやすいとの評価が高くなっています。 ○このほか、50 歳代が 85.6%、30 歳代が 84.1%、40 歳代が 83.6%、70 歳代が 83.2%と続いており、60 歳代は 81.0%、80 歳以上は 80.4%と低くなっています。
居住地区	○武豊小学校区は 86.2%、衣浦小学校区は 85.2%、緑丘小学校区は 85.0%と比較的高い割合を示しています。一方、富貴小学校区は 79.3%で他の３地区と比べると 5.0 ポイント以上低くなっています。
居住年数	○居住年数 20 年以上 30 年未満は 86.5%と最も高く、次いで居住年数 10 年以上 20 年未満が 85.3%となっています。 ○一方、居住年数 10 年未満は 80.5%で、居住年数 10 年以上 20 年未満、20 年以上 30 年未満と比べると低くなっています。また、「大変住みやすい」の割合も 10 ポイント以上低くなっていることが特徴的です。
世帯構成	○３世代家族等が 88.1%と最も高く、次いで、２世代家族の 85.4%、夫婦のみ世帯の 82.8%となっています。 ○単身世帯は 73.3%と低く、全体でみたときの 83.3%を 10 ポイント下回っています。
同居家族	○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では 92.0%と他と比べ高い割合を示しています。
職業	○パート・アルバイトの 87.9%、自営業の 87.1%、公務員の 86.7%が比較的高い割合を示しています。 ○無職は 79.2%で、唯一８割を下回っています。
通勤 通学地	○知多地域に通勤通学する者は 86.2%、武豊町内に通勤通学する者は 85.1%に対して、名古屋市に通勤通学する者は 78.4%、その他愛知県内に通勤通学する者は 76.7%で、通勤通学地が遠い人にとっては住みやすいとの評価が低くなっています。

※居住地区に関しては、18 の区を以下の通り小学校区に分けて示しています。

緑丘小学校区……北山区、中山区、玉西１区、緑区

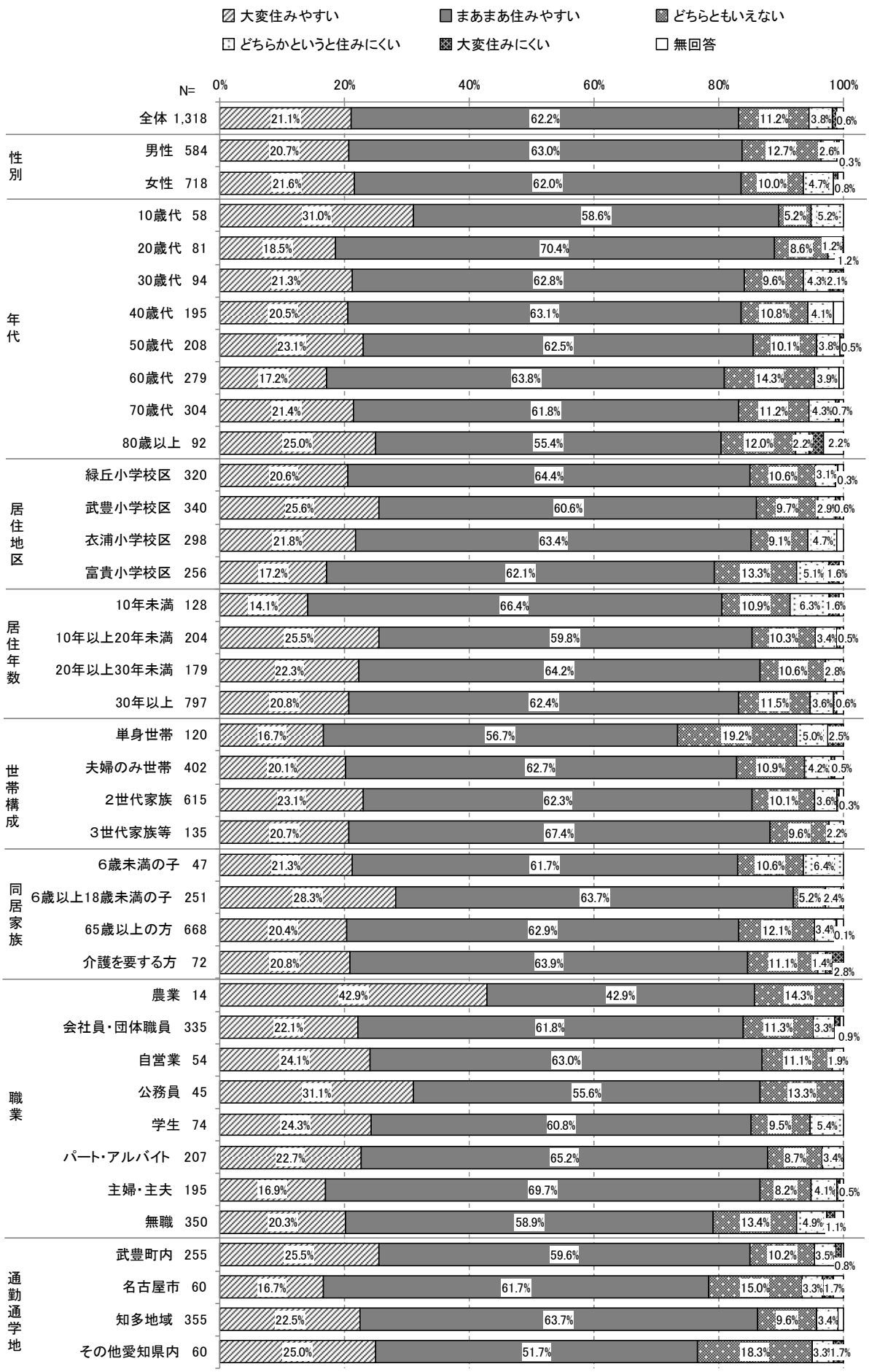
武豊小学校区……下門区、馬場区、市場区、上ケ区、小迎区

衣浦小学校区……玉東区、玉西２区、原田区、大足区

富貴小学校区……冨貴区、冨貴市場区、東大高区、市原区、新田区

※通勤通学地に関しては、「半田市」、「常滑市」、「武豊町・半田市・常滑市以外の知多地域」をまとめて「知多地域」としています。

図表 1-2-2　属性別、住みごこち



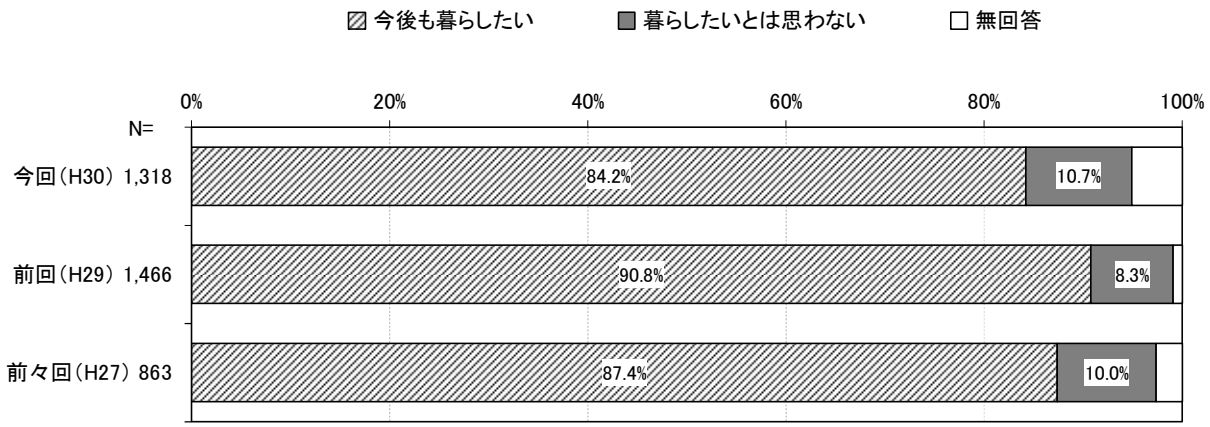
（２）今後の居住意向

問３　今後も武豊町で暮らしたいと思いますか。（１つに○印）

「今後も暮らしたい」は 84.2%で、「暮らしたいとは思わない」の 10.7%を大きく上回っています。

前回調査（平成 29 年）では「今後も暮らしたい」は 90.8%であったので、今回調査では 6.6 ポイント低下しています。また前々回調査（平成 27 年）では「今後も暮らしたい」は 87.4%であり、これと比べても低くなっています。

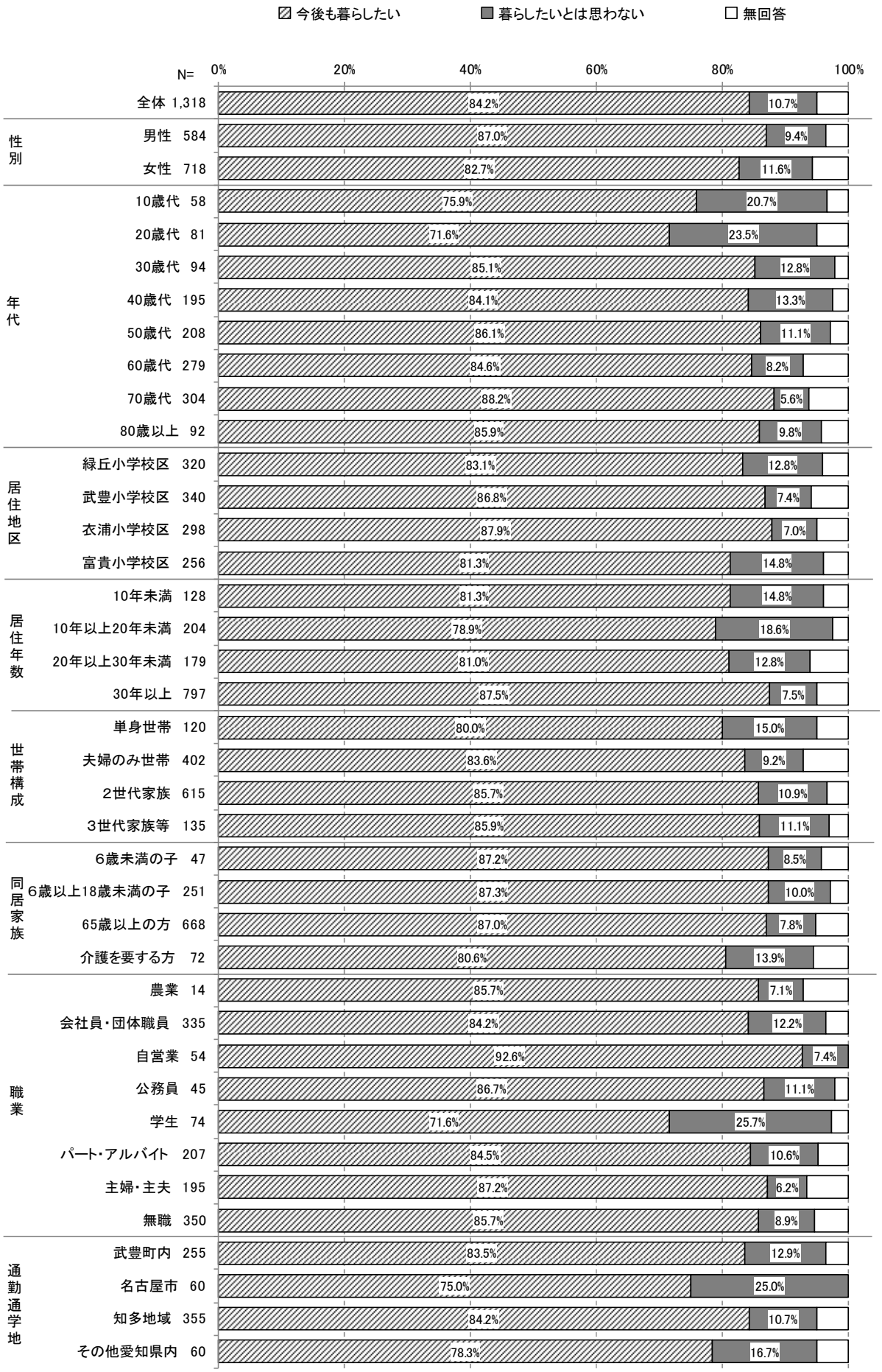
図表 1-2-3　今後の居住意向（前回調査比較）



以下、回答者の属性別に「今後も暮らしたい」の回答割合で傾向をみていきます。

性別	○男性で 87.0%、女性で 82.7%であり、男性の方が高くなっています。
年代	○20 歳代が 71.6%、10 歳代が 75.9%で、これら 10 歳代・20 歳代といった若い世代で相対的に割合が低くなっています。この年代では「暮らしたいとは思わない」がともに 20%を上回っています。
居住地区	○衣浦小学校区が 87.9%、武豊小学校区が 86.8%でやや高く、一方、富貴小学校区は 81.3%、緑丘小学校区は 83.1%で相対的に低くなっています。
居住年数	○居住年数 30 年以上では「今後も暮らしたい」が 87.5%と高くなっています。居住年数 10 年未満、10 年以上 20 年未満、20 年以上 30 年未満は 80%前後で大きな違いは見られません。
世帯構成	○単身世帯は 80.0%で、他と比べ低い割合を示しています。
同居家族	○介護を要する方がいる世帯は 80.6%で、他と比べ低い割合を示しています。
職業	○自営業は 92.6%と高い割合を示しています。 ○学生は 71.6%と特に低い割合となっています。「暮らしたいとは思わない」が 25.7%あり、４分の１はいずれ武豊町を出たいと考えています。
通勤通学地	○名古屋市に通勤通学する者が 75.0%、その他の愛知県内に通勤通学する者が 78.3%となっており、町内に通勤通学する者の 83.5%、知多地域に通勤通学する者の 84.2%と比べ低い割合となっています。通勤通学地が遠い人の定住意向はやや低くなっています。

図表 1-2-4　属性別、今後の居住意向



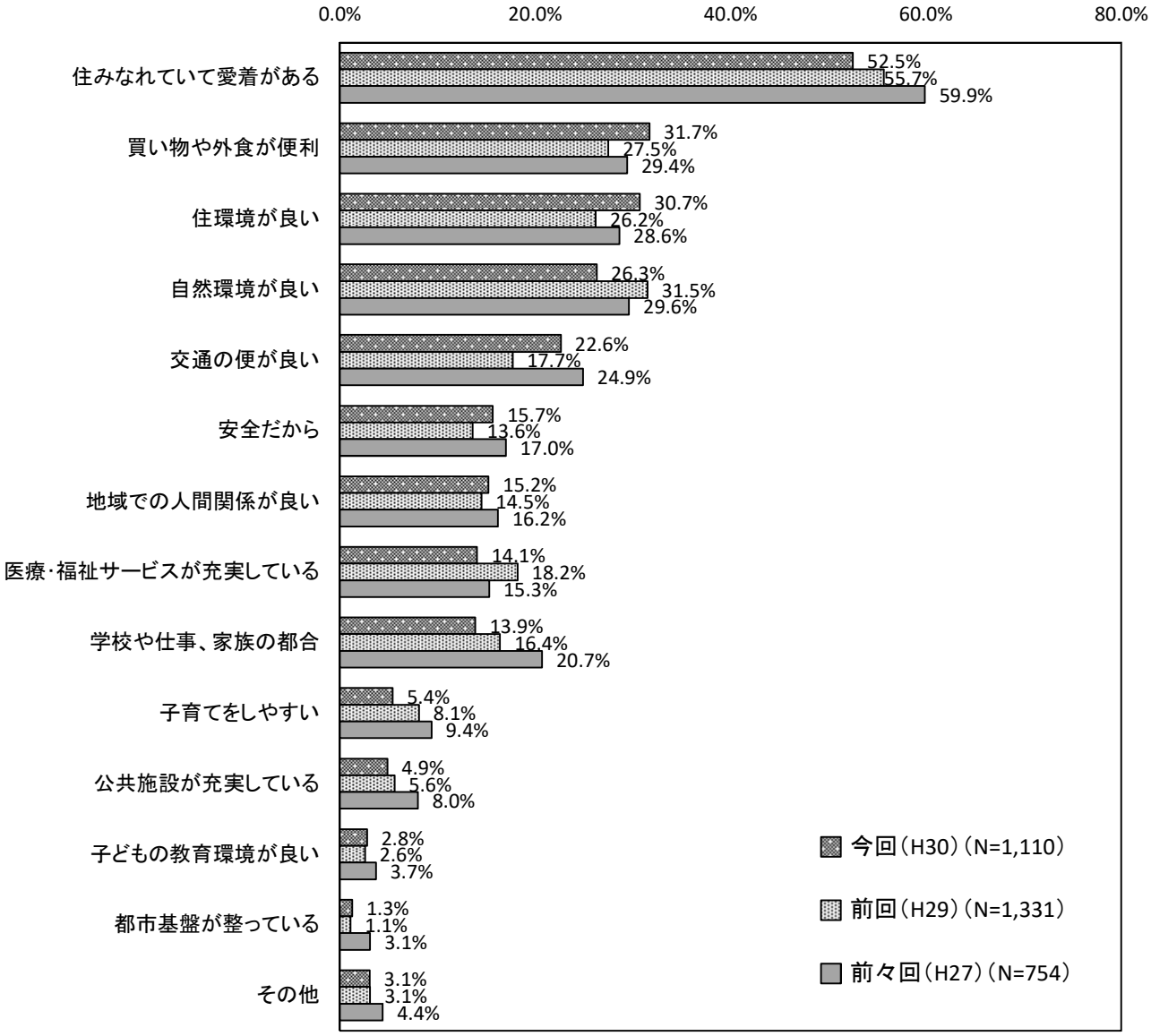
（３）武豊町で暮らしたい理由

問３-１　武豊町で暮らしたいと思う理由は何ですか。（３つまでに○印）

「今後も暮らしたい」と回答した 1,110 人にその理由をたずねたところ、「住みなれていて愛着がある」が 52.5%と最も高く、次いで「買い物や外食が便利」が 31.7%、「住環境が良い」が 30.7%となっています。

前回調査（平成 29 年）、前々回調査（平成 27 年）と比較すると、「住みなれていて愛着がある」は 59.9%から 55.7%、52.5%と順に低下しています。前々回調査との比較では 7.4 ポイントの低下となっています。「買い物や外食が便利」、「住環境が良い」、「自然環境が良い」については調査年により多少のばらつきはみられますが、経年的な顕著な変化はみられません。

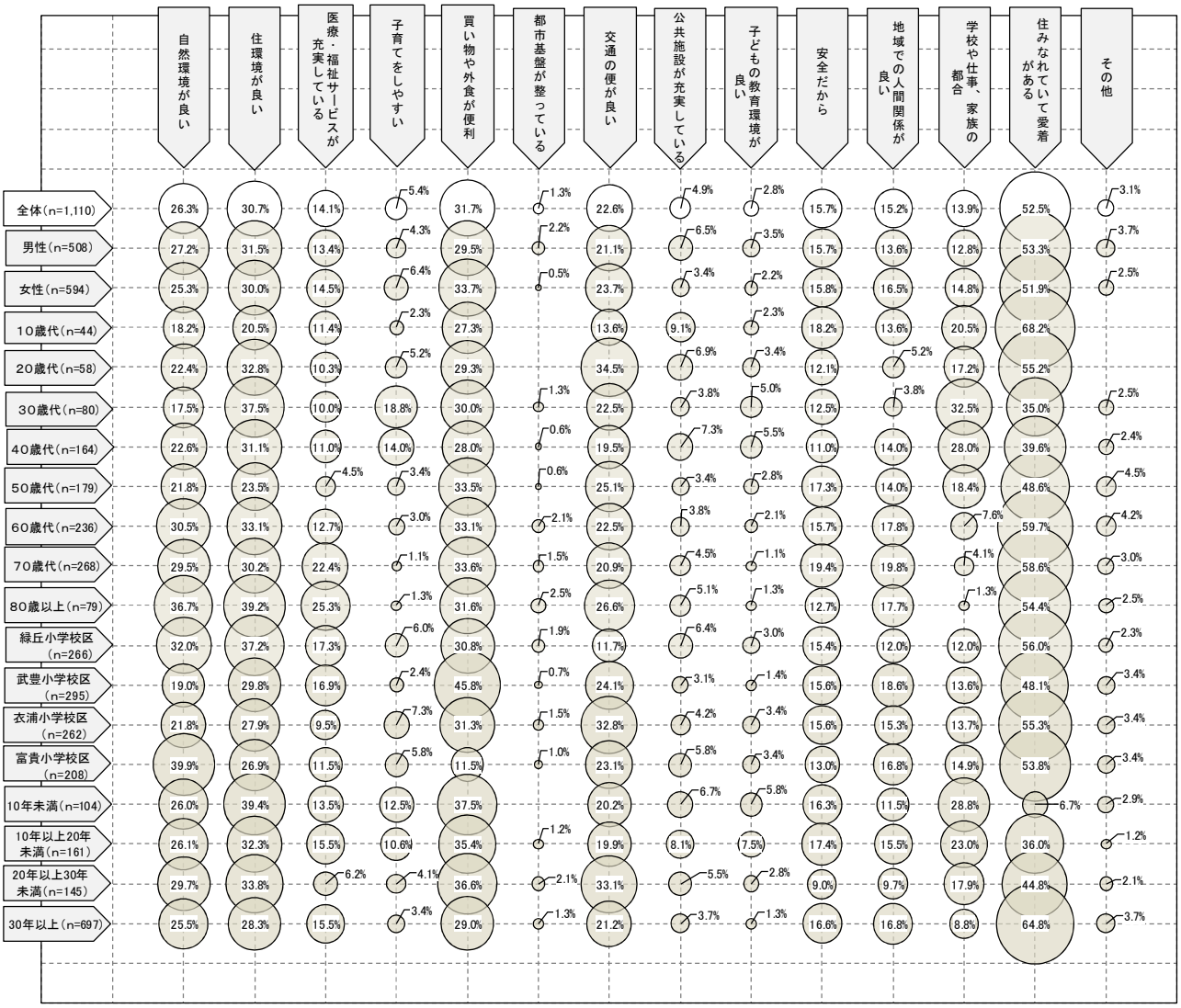
図表 1-2-5　武豊町で暮らしたい理由（過去調査との比較）



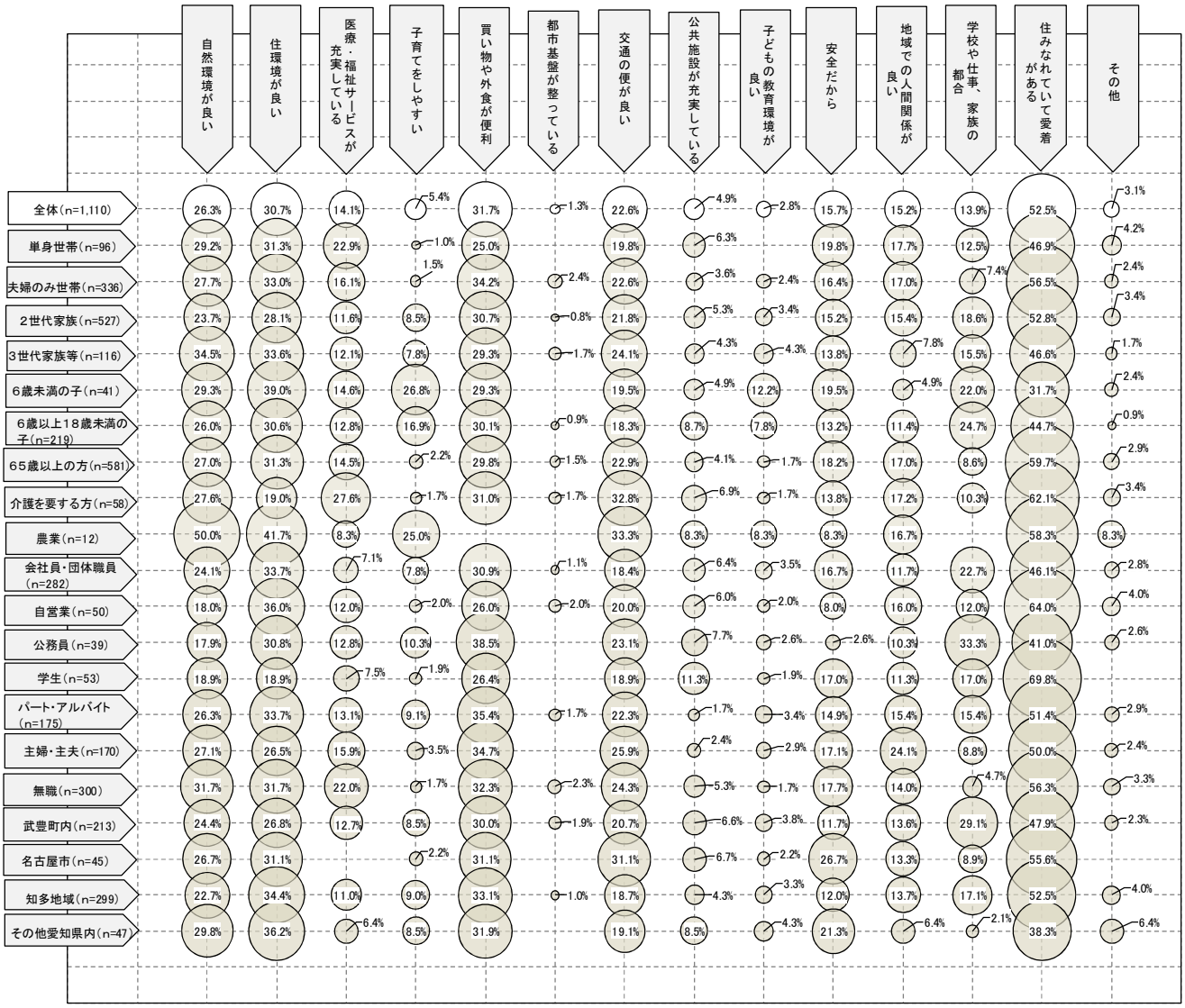
以下、回答者の属性別に「今後も暮らしたい」理由の傾向をみていきます。

性別	○性別による顕著な差異はみられません。
年代	○「住みなれていて愛着がある」は 10 歳代で 68.2%と最も高く、20 歳代でも 55.2%と高くなっています。30～50 歳代で一旦下がった後、60 歳代から再び高くなる傾向があります。 ○20 歳代では「交通の便が良い」が 34.5%で他の世代よりも高くなっています。 ○30 歳代では、「住環境が良い」が 37.5%、「学校や仕事、家族の都合」が 32.5%で、やや高くなっています。
居住地区	○武豊小学校区では「買い物や外食が便利」が 45.8%で、全体の 31.7%を 14.1 ポイント上回っています。 ○富貴小学校区では、「自然環境が良い」が 39.9%で、全体の 26.3%を 13.6 ポイント上回っています。
居住年数	○「住みなれていて愛着がある」は居住年数が長くなるほど高くなる傾向が顕著で、30 年以上では 64.8%となっています。 ○「買い物や外食が便利」は、居住年数が短い 10 年未満が最も高くなっています。 ○10 年未満や 10 年以上 20 年未満では、「学校や仕事、家族の都合」がそれぞれ 28.8%、23.0%と全体の 13.9%を大きく上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「医療・福祉サービスが充実している」が 22.9%で、全体の 14.1%を 8.8 ポイント上回っています。 ○３世代家族等では、「自然環境が良い」が 34.5%で、全体の 26.3%を 8.2 ポイント上回っています。
同居家族	○「６歳未満の子」のいる世帯では、「子育てをしやすい」が 26.8%で、全体の 5.4%より 21.4 ポイントも上回っており特徴的です。「住環境が良い」も 39.0%で全体を 8.3 ポイント上回っています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「交通の便が良い」が 32.8%、「医療・福祉サービスが充実している」が 27.6%で、いずれも全体より 10 ポイント以上高くなっています。
職業	○「住み慣れていて愛着がある」は、学生の 69.8%、自営業の 64.0%が特に高くなっています。 ○農業では、「自然環境が良い」の 50.0%、「住環境が良い」の 41.7%が高くなっています。 ○公務員では、「学校や仕事、家族の都合」が 33.3%と高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は「交通の便が良い」が 31.1%で、相対的に高い評価となっています。 ○町内に通勤通学する者は「学校や仕事、家族の都合」が 29.1%あり、他と比べやや高くなっています。

図表 1-2-6　属性別、武豊町で暮らしたい理由　（1／2）



図表 1-2-6　属性別、武豊町で暮らしたい理由　（2／2）



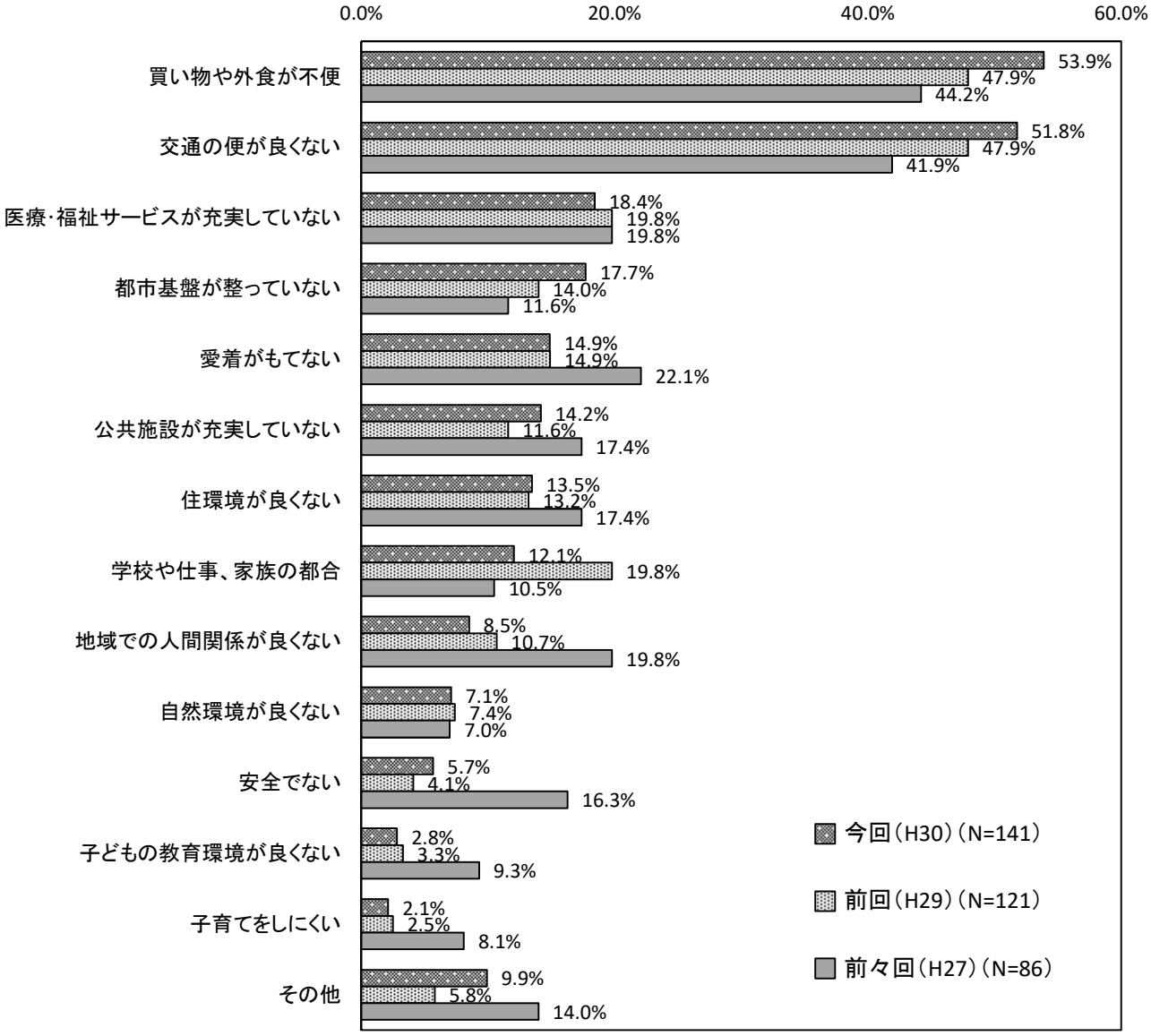
（4）武豊町で暮らしたくない理由

問３-２　武豊町で暮らしたいとは思わない理由は何ですか。（３つまでに○印）

「暮らしたいとは思わない」と回答した 141 人にその理由をたずねたところ、「買い物や外食が不便」が 53.9%、「交通の便が良くない」が 51.8%で、この両者がともに 50%を超えて特に高い割合を示しています。次いで「医療・福祉サービスが充実していない」の 18.4%、「都市基盤が整っていない」の 17.7%が続いています。

前回調査（平成 29 年）、前々回調査（平成 27 年）と比較すると、「買い物や外食が不便」は 44.2%から 47.9%、53.9%と順に増加しています。前々回調査との比較では 9.7 ポイントの増加となっています。「交通の便が良くない」も同様で、41.9%が 47.9%となり今回は 51.8%となりました。前々回調査との比較では 9.9 ポイントの増加となっています。

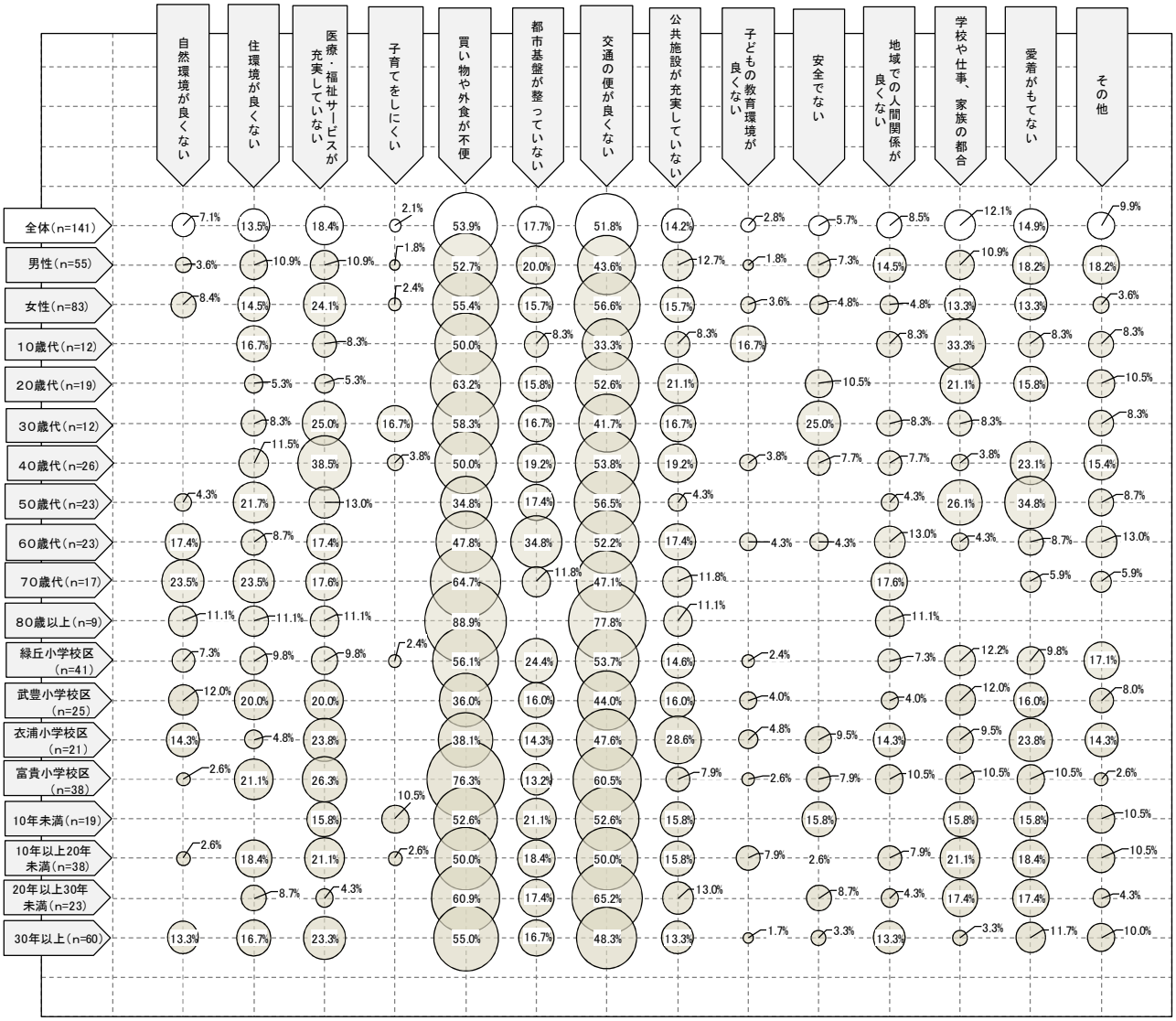
図表 1-2-7　武豊町で暮らしたくない理由（過去調査との比較）



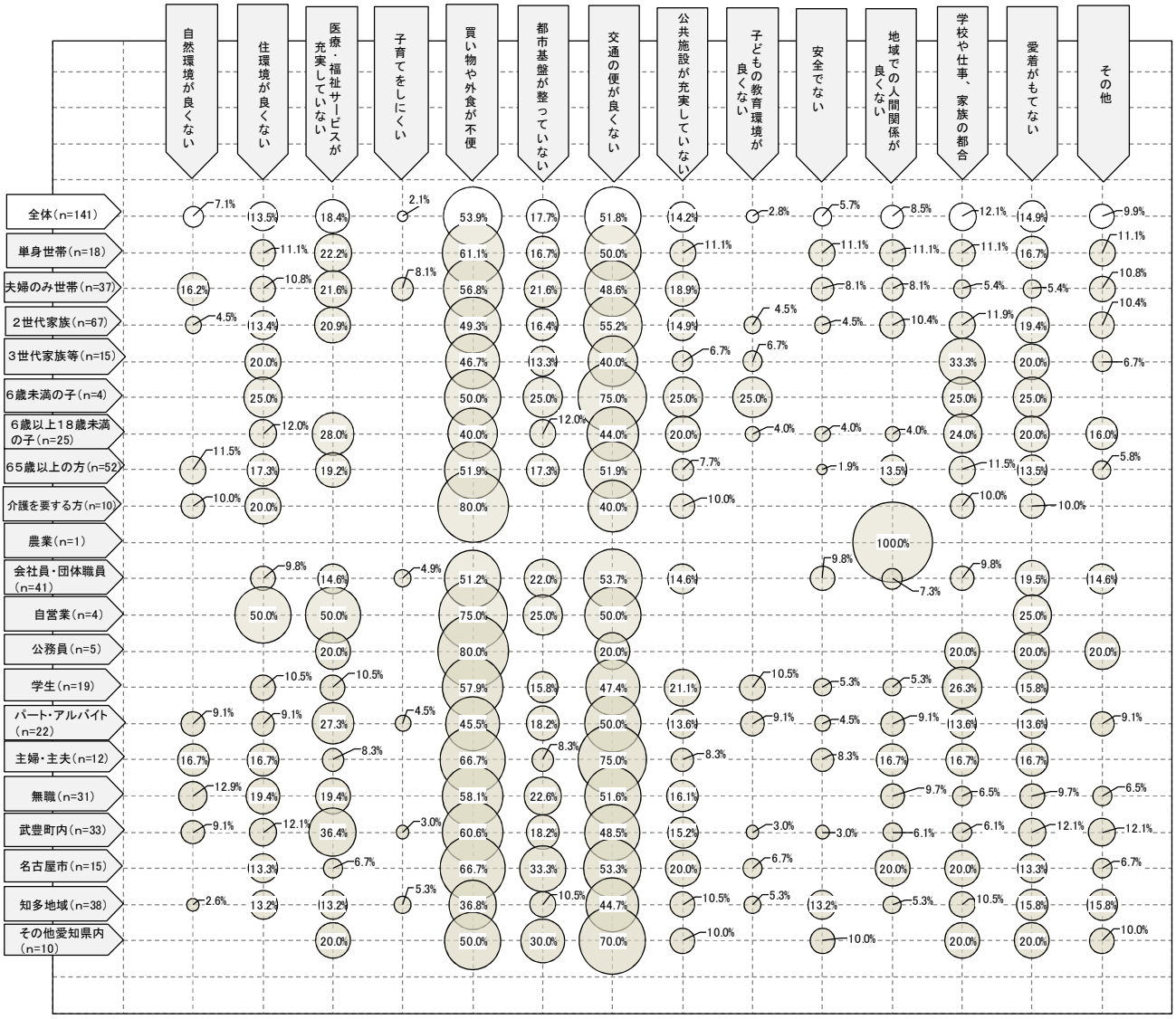
以下、回答者の属性別に「今後も暮らしたくない」の理由をみていきます。

性別	○男性に比べて女性の方が、「交通の便が良くない」で 13.0 ポイント、「医療・福祉サービスが充実していない」で 13.2 ポイント上回っています。
年代	○「買い物や外食が不便」は、80 歳以上の 88.9%、70 歳代の 64.7%、20 歳代の 63.2%が高くなっています。 ○「医療・福祉サービスが充実していない」は、40 歳代の 38.5%、30 歳代の 25.0%で特に高い割合を示しています。 ○他では、50 歳代では、「愛着が持てない」が 34.8%あり、他の年齢層よりも高い割合を示しているところが特徴的です。
居住地区	○富貴小学校区で、「買い物や外食が不便」が 76.3%、「交通の便が良くない」が 60.5%を示しており、相対的に両者が高い割合を示しています。
居住年数	○20 年以上 30 年未満では、「交通の便が良くない」が最も多く 65.2%、次いで、「買い物や外食が不便」が 60.9%となっており、ともに相対的に高くなっています。
世帯構成	○３世代家族等よりも２世代家族が、２世代家族よりも夫婦のみ家族や単身世帯の方が「買い物や外食が不便」の割合が高くなる傾向がみられます。
同居家族	○「６歳未満の子」のいる世帯では、「交通の便が良くない」が 75.0%と高くなっています（ただし母数が少ないので比較には耐えません）。 ○介護を要する方がいる世帯では、「買い物や外食が不便」が 80.0%と高くなっています。
職業	○主婦・主夫では、「交通の便が良くない」が 75.0%、「買い物や外食が不便」が 66.7%で、ともに相対的に高くなっています。
通勤 通学地	○町内に通勤通学する者は「買い物や外食が不便」の 60.6%、「交通の便が良くない」の 48.5%に次いで、「医療・福祉サービスが充実していない」が 36.4%を示しており、全体の 18.4%を 18.0 ポイントも上回っています。

図表 1-2-8　属性別、武豊町で暮らしたくない理由　（1／2）



図表 1-2-8　属性別、武豊町で暮らしたくない理由　（2／2）



（5）武豊町に居住して「良かったこと」、「改善が必要なこと」

※　これまでに武豊町以外に居住されたことがある方にお尋ねします。

問４　武豊町に居住されて「よかったこと」、「改善が必要なこと」など、感じられたことがありましたら 100 字程度でご記入をお願いします。どんなことでも結構です。

これまでに武豊町以外に居住されたことがある方を対象に、武豊町に居住されて「よかったこと」、「改善が必要なこと」など、感じられたことを自由回答いただきました。

第５次武豊町総合計画後期戦略プランの体系（７つの基本目標・22 のめざすべきまちの姿）に沿って、意見を整理すると回答数は以下の通りとなりました。具体的な意見は別添の参考資料に記します。

図表 1-2-9　武豊町に居住して「良かったこと」、「改善が必要なこと」

基本目標１　ともに創るまち［行政経営］	
めざすべきまちの姿	件数
１－１　住民がまちづくりに参画しやすいまち	2
１－２　情報が相互に発信されているまち	1
１－３　住民に満足される行政サービスが行われているまち	0
１－４　健全に行財政が運営されているまち	11
計	14
基本目標２　安全に暮らせるまち［安全環境］	
めざすべきまちの姿	件数
２－１　徒歩や自転車で安全に道路を通行できるまち	34
２－２　道路や公共交通を利用して気軽に移動できるまち	65
２－３　災害への備えや日常生活の安全性が確保されているまち	22
計	121
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］	
めざすべきまちの姿	件数
３－１　集い・憩える魅力的な場所があるまち	33
３－２　誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できるまち	4
３－３　地域活動が活発に行われているまち	12
計	49
基本目標４　子どもが健やかに育つまち［次世代育成］	
めざすべきまちの姿	件数
４－１　安心して子どもを生み育てることができるまち	9
４－２　働きながらでも子育てをしやすい環境が整っているまち	12
４－３　子どもが楽しく学校生活を送っているまち	7
計	28
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］	
めざすべきまちの姿	件数
５－１　楽しく健康づくりができ、安心して医療を受けられるまち	12
５－２　高齢者や障がい者がいきいきと暮らしているまち	6
５－３　みんながお互いを理解しやさしい心を持っているまち	1
計	19

基本目標６　自然環境と生活環境が調和したまち［生活環境］	
めざすべきまちの姿	件数
６－１　みんなが自然環境を大切にしているまち	9
６－２　環境へ負荷をかけない生活環境になっているまち	26
６－３　快適で豊かな住環境が整っているまち	95
計	130
基本目標７　活力に満ち誇りをもてるまち［地域活性］	
めざすべきまちの姿	件数
７－１　中心市街地がにぎやかに活気づいているまち	28
７－２　産業が活性化しているまち	10
７－３　住民が誇りを持って生活しているまち	15
計	53
その他	
計	8

合計	422

１－３　日常生活におけるあなたの行動・意識

（１）日常生活における行動・意識

問５　第５次総合計画では、将来像「心つなぎ　みんな輝くまち　武豊」の実現を目指して、７つの基本目標を設定して取組を進めています。 以下の項目について、あなたの日常生活における行動や意識として、『はい』の場合は１、『いいえ』の場合は２に、それぞれ〇印をつけてください。

日常生活における意識について、第５次総合計画の７つの基本目標ごとに、「日常生活における行動や意識」について、『はい』、『いいえ』で回答を求めました。

日常生活における行動・意識について、『はい』と回答した割合が高いものを順にみていくと、「ごみの分別をきちんとしていますか」が 95.6%で最も高く、次いで「ご家族との関係は良好ですか」の 91.0%となっています。

さらに、「食生活に満足していますか」の 86.3%、「普段から健康に心がけていますか」の 83.9%、「省エネルギーやリサイクルに心がけていますか」の 83.8%、「武豊町に愛着はありますか」の 80.2%が続いています。

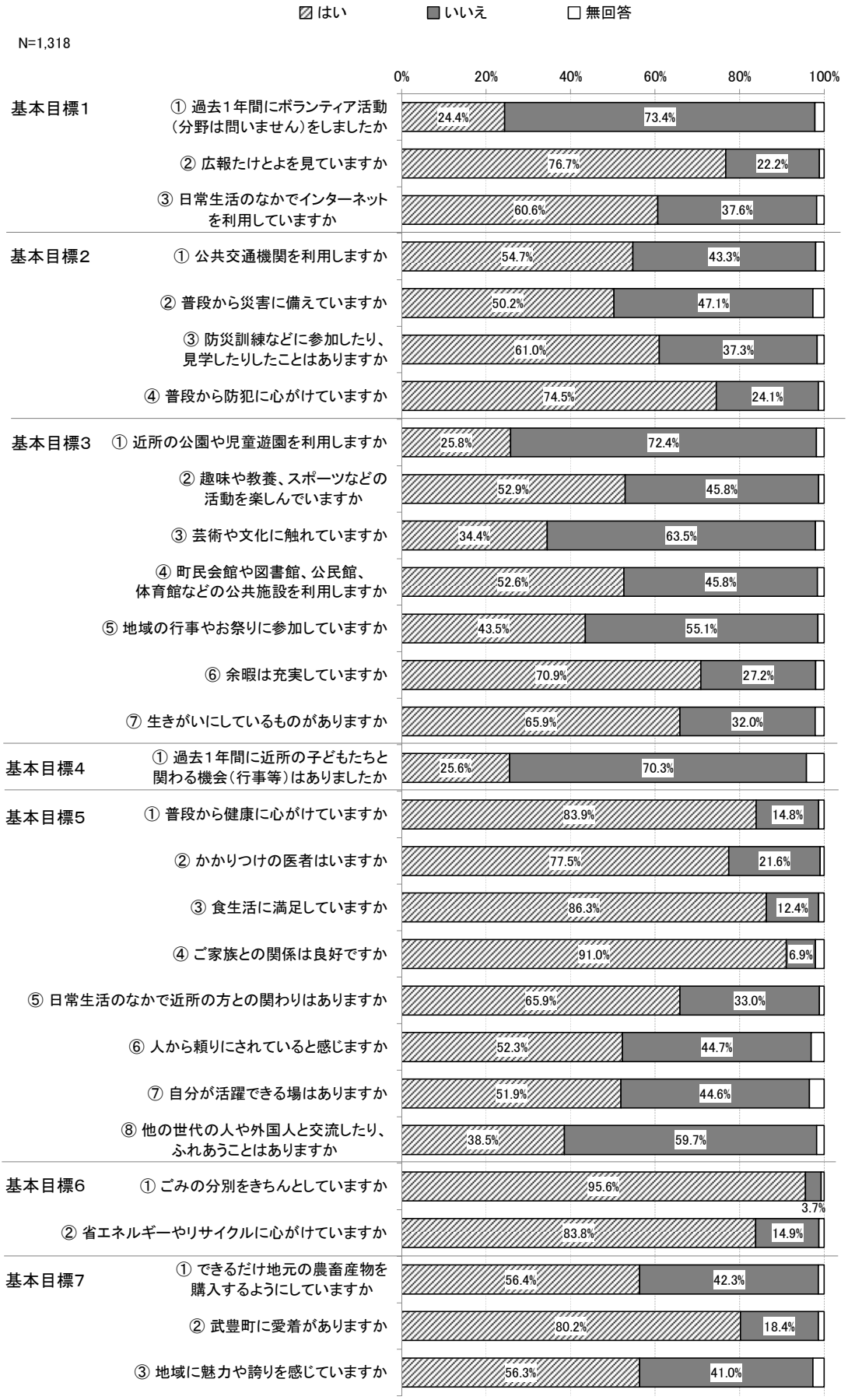
逆に、『はい』と回答した割合が低いものは、「過去 1 年間にボランティア活動をしましたか」の 24.4%で、次いで「過去１年間に近所の子どもたちと関わる機会（行事等）はありましたか」、の 25.6%、「近所の公園や児童公園を利用しますか」の 25.8%となっています。

前回調査（平成 29 年）、前々回調査（平成 27 年）と比較すると、「公共交通機関を利用しますか」では、『はい』が 48.0%から 48.4%、54.7%と増加する傾向があり、前々回調査との比較で 6.7 ポイント増加しています。また、「日常生活の中でインターネットを利用していますか」についても増加の傾向を示しています。増加の傾向を示しているのはこの２項目が顕著です。

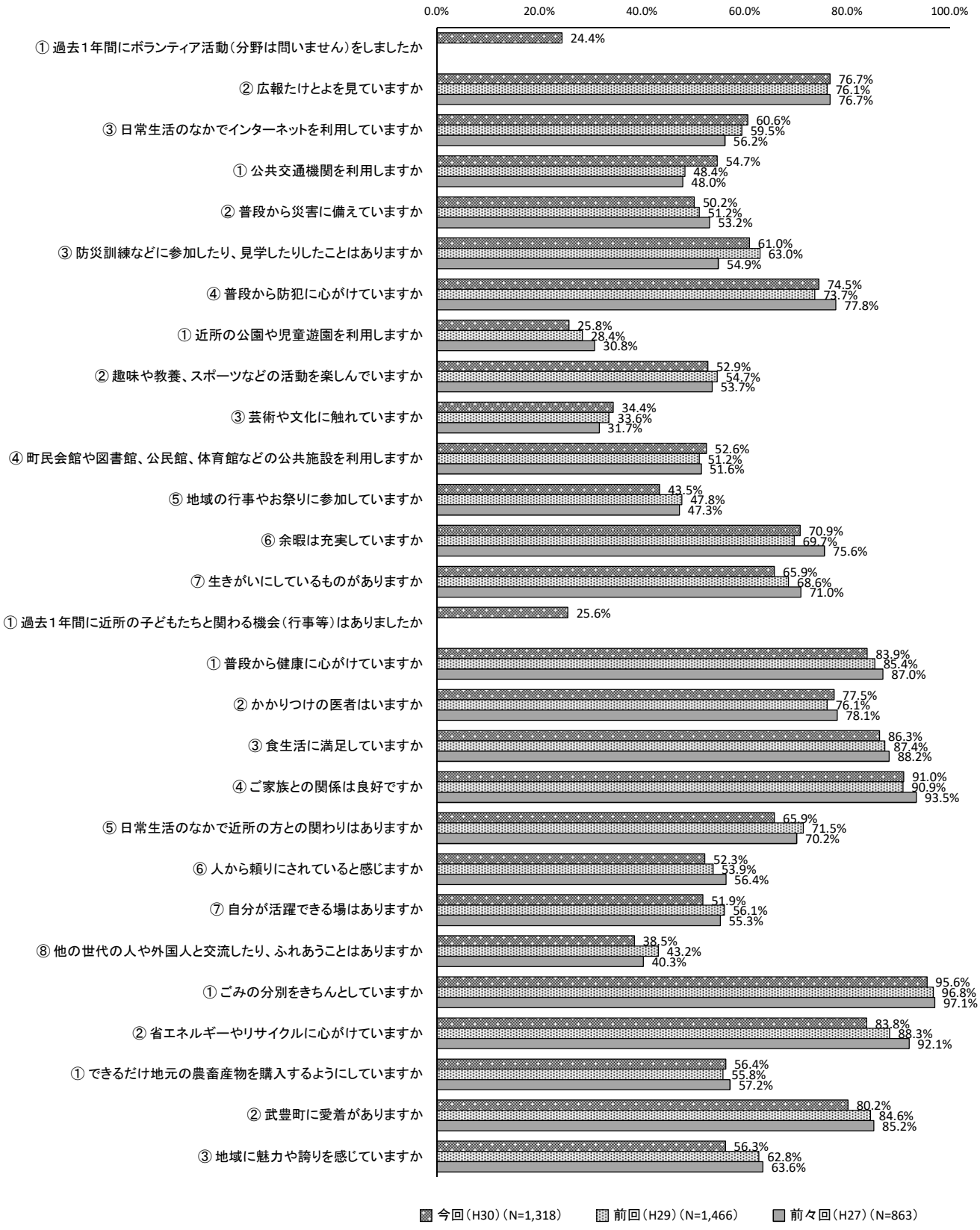
逆に、前々回調査、前回調査との比較で減少傾向を示しているものとしては、「省エネルギーやリサイクルに心がけていますか」が 8.3 ポイントの減少、「地域に魅力や誇りを感じていますか」が 7.3 ポイントの減少、「近所の公園や児童遊園を利用しますか」が 5.0 ポイントの減少、「武豊町に愛着がありますか」が 5.0 ポイントの減少となっています。

図表 1-3-3～30 に属性別、日常生活における意識・行動の結果をグラフに示します。

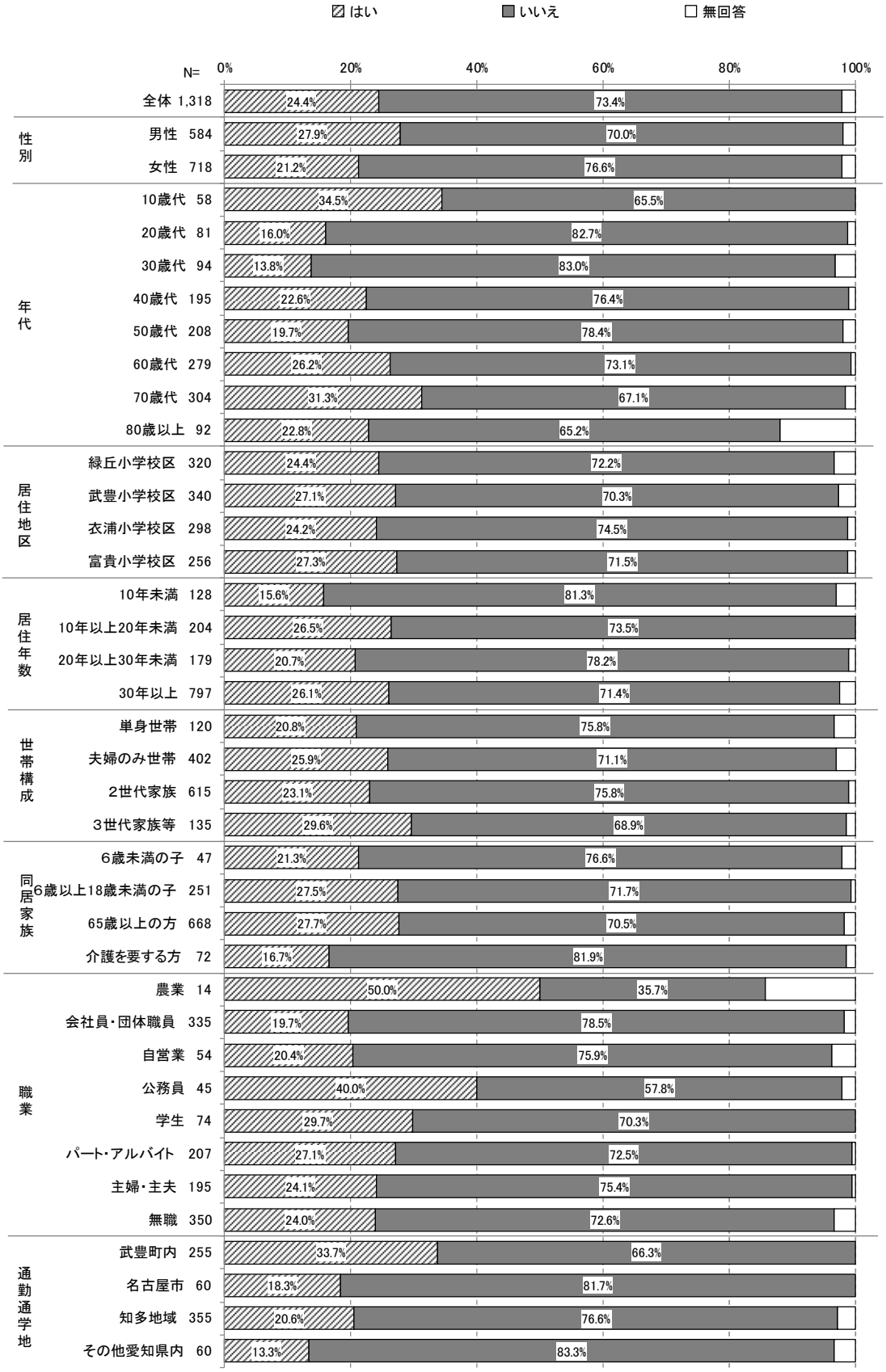
図表 1-3-1　日常生活における意識・行動



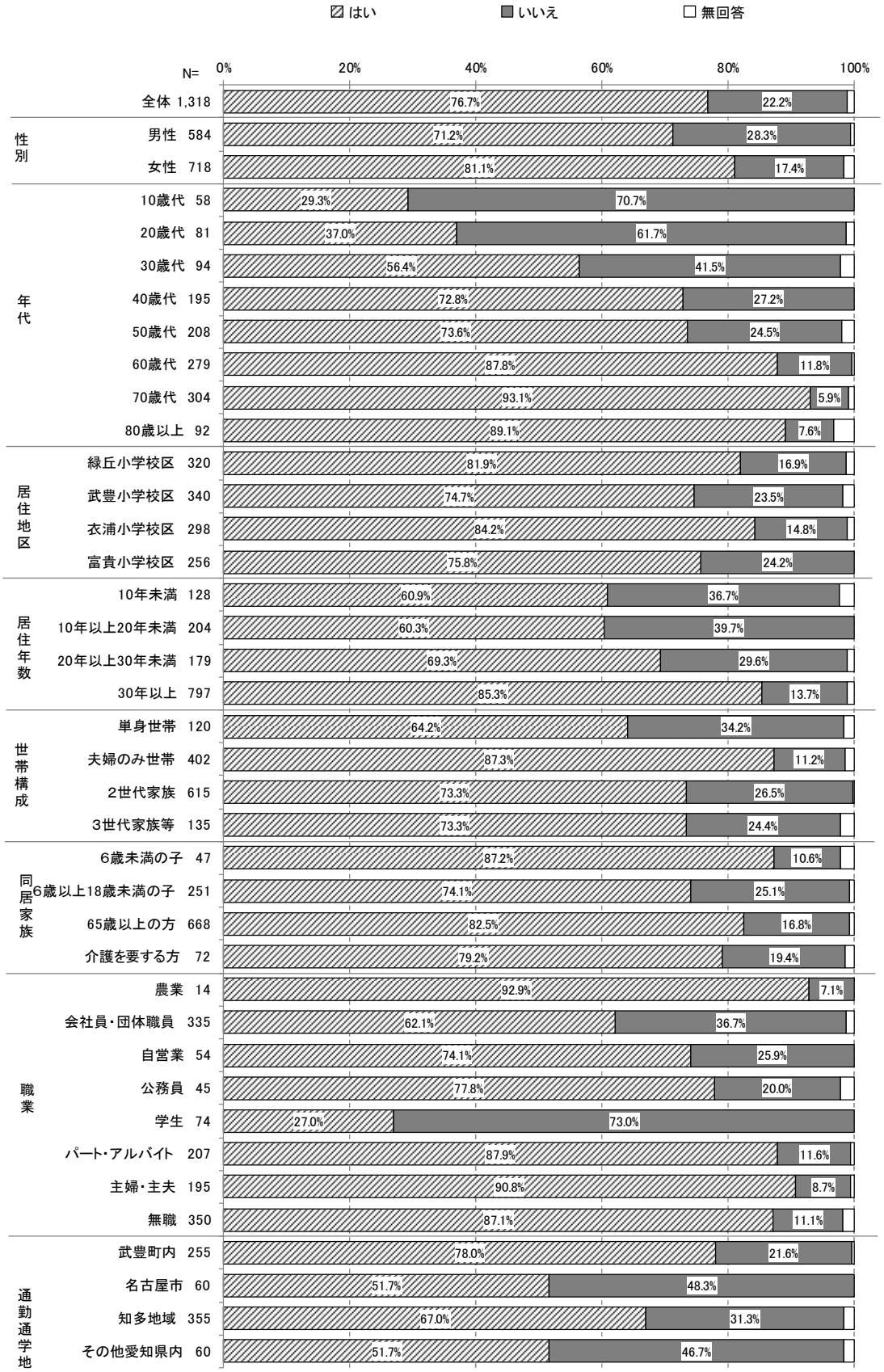
図表 1-3-2　日常生活における意識・行動（過去調査との比較）



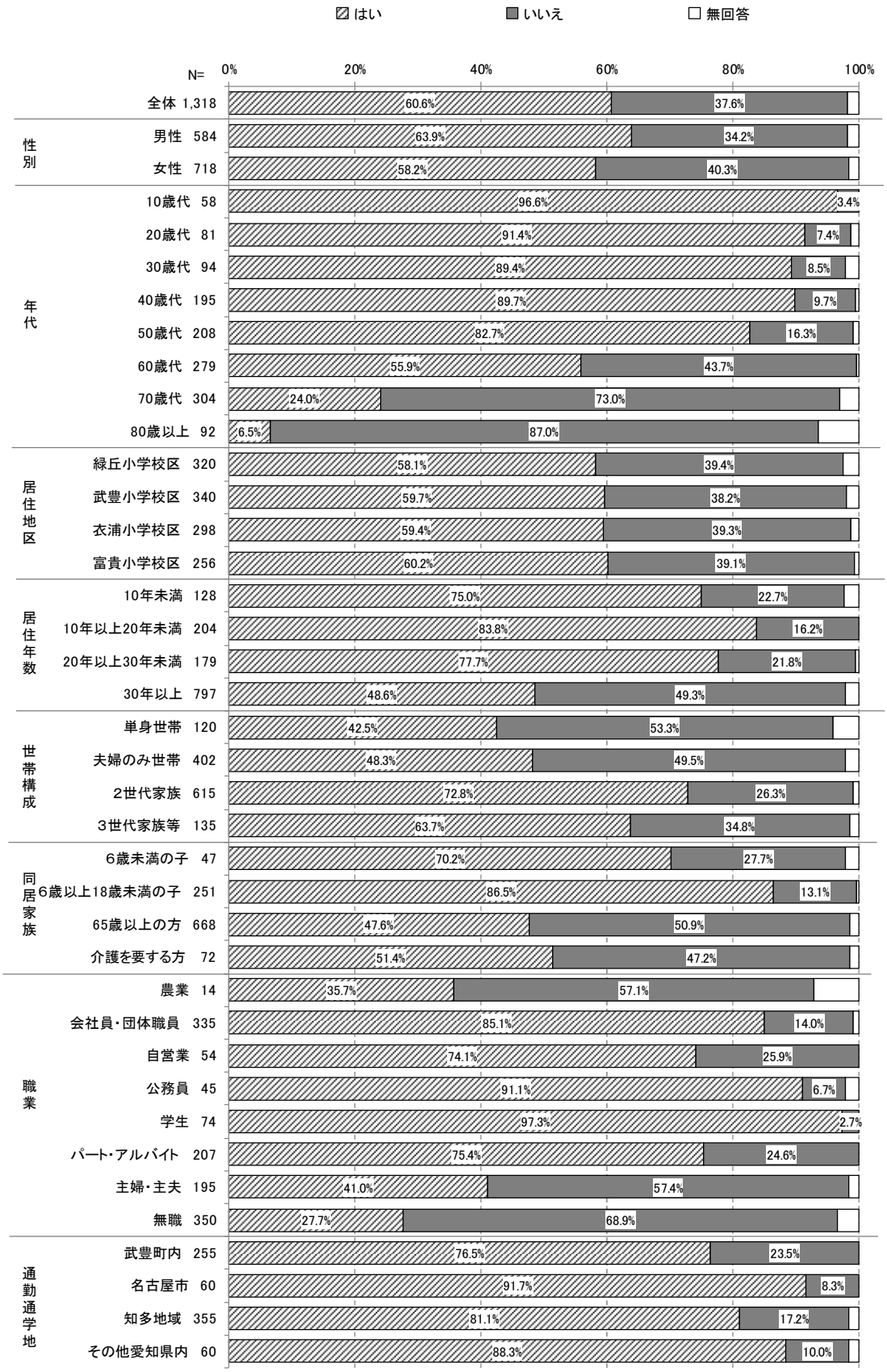
図表 1-3-3　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標１　ともに創るまち［行政経営］
①過去１年間にボランティア活動（分野は問いません）をしましたか



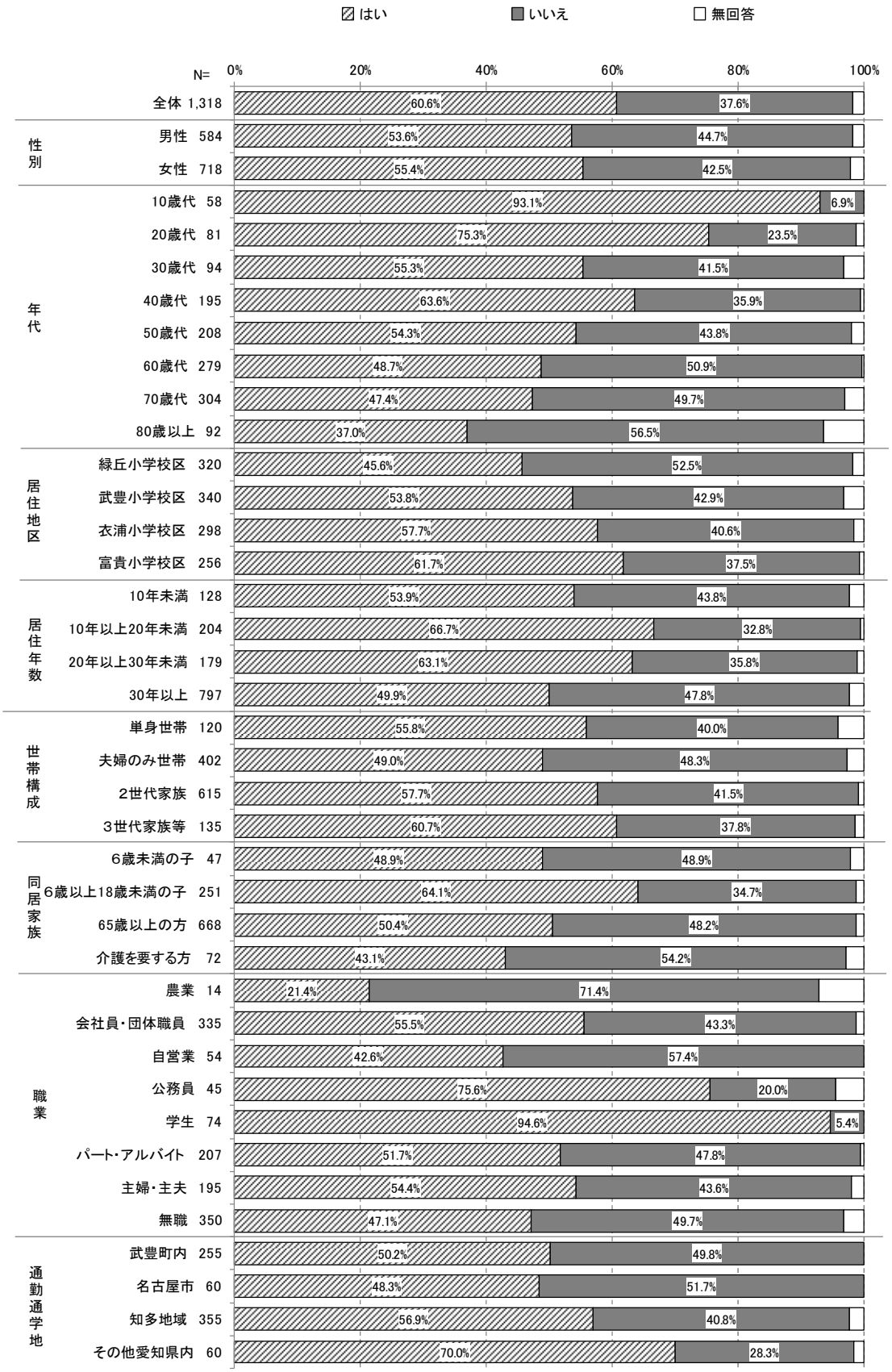
図表 1-3-4　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標１　ともに創るまち［行政経営］
②広報たけとよを見ていますか



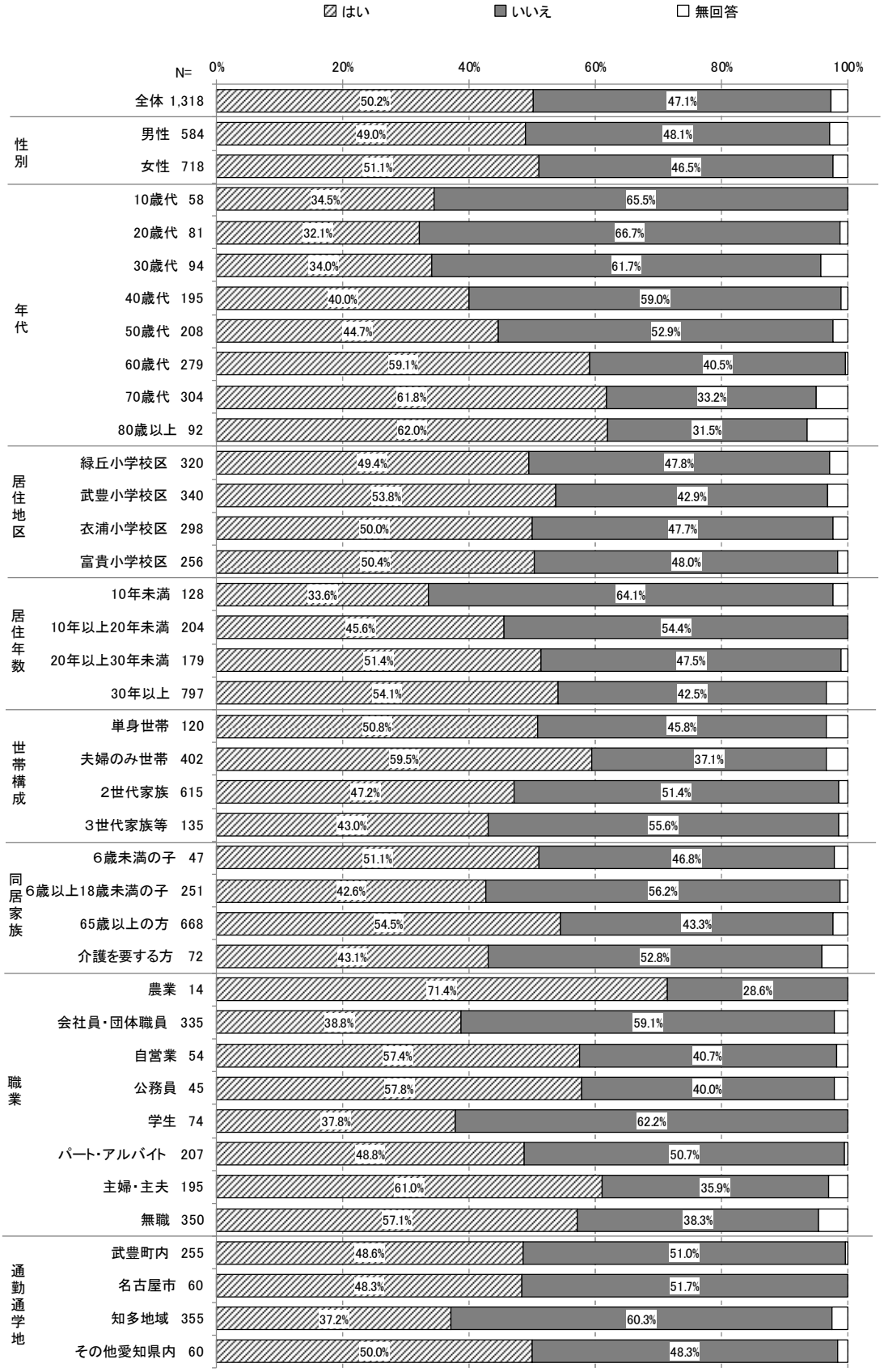
図表 1-3-5　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標１　ともに創るまち［行政経営］
③日常生活のなかでインターネットを利用していますか



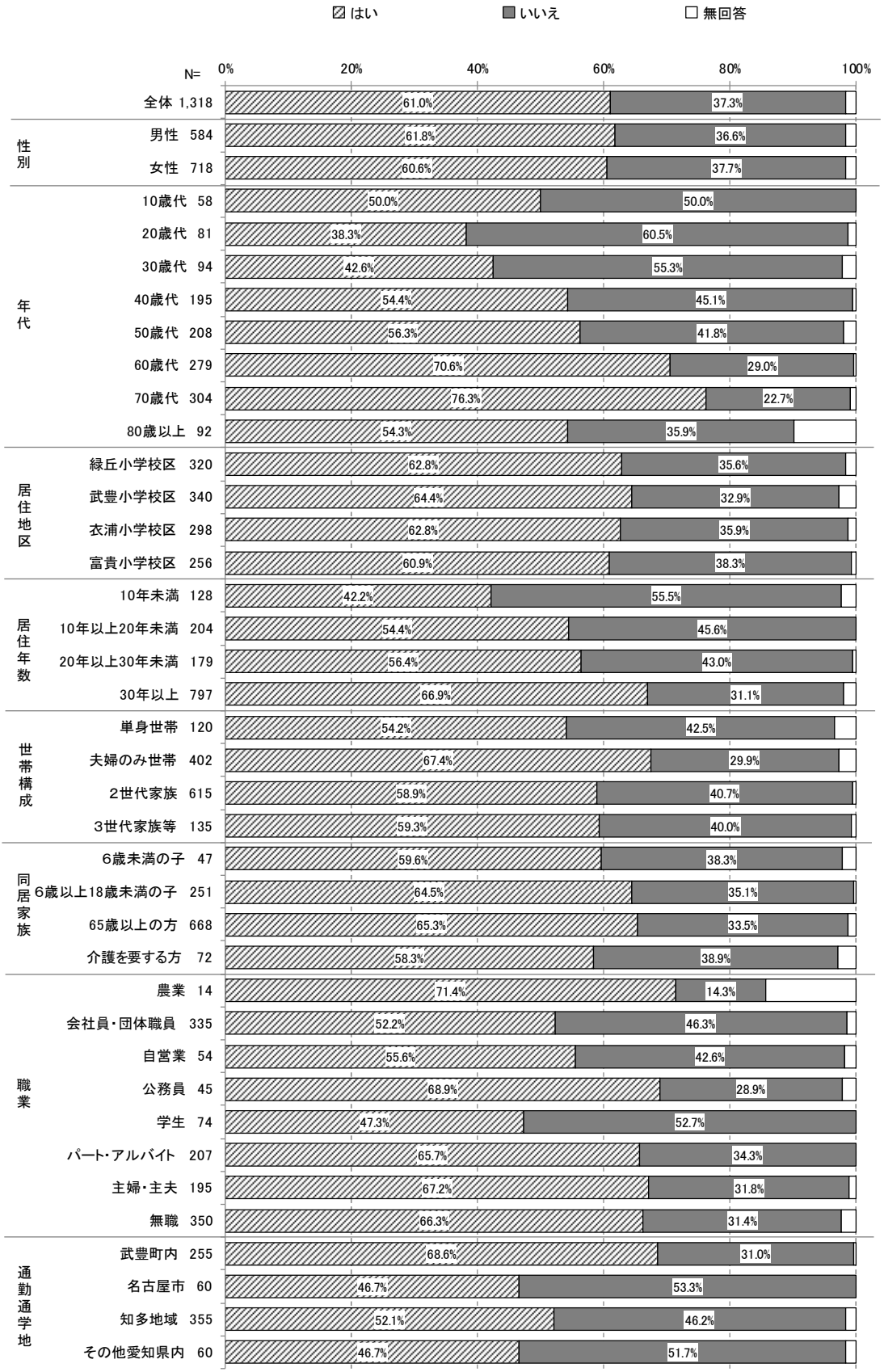
図表 1-3-6　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標２　安全に暮らせるまち［安全環境］
①公共交通機関を利用しますか



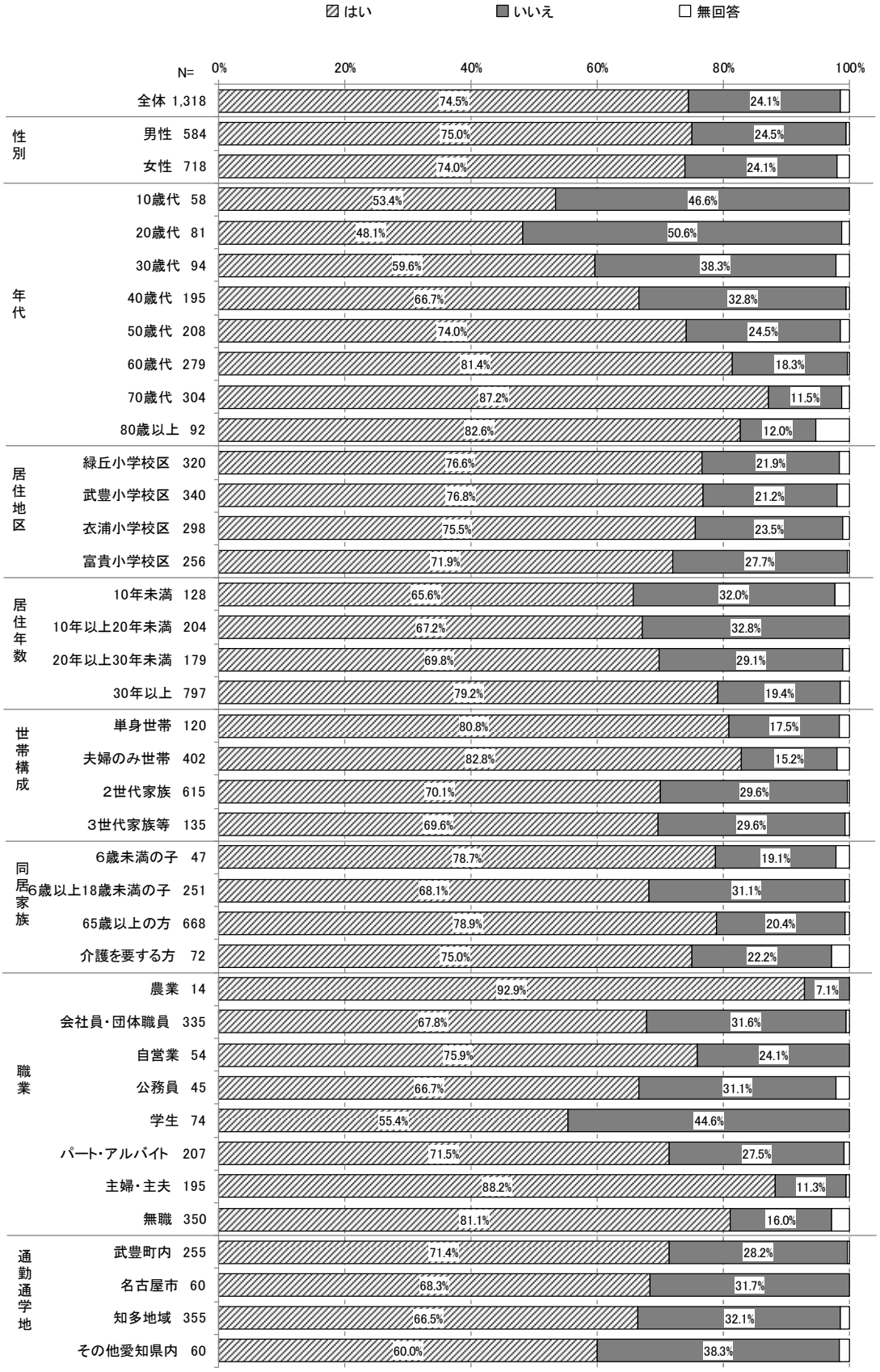
図表 1-3-7　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標２　安全に暮らせるまち［安全環境］
②普段から災害に備えていますか



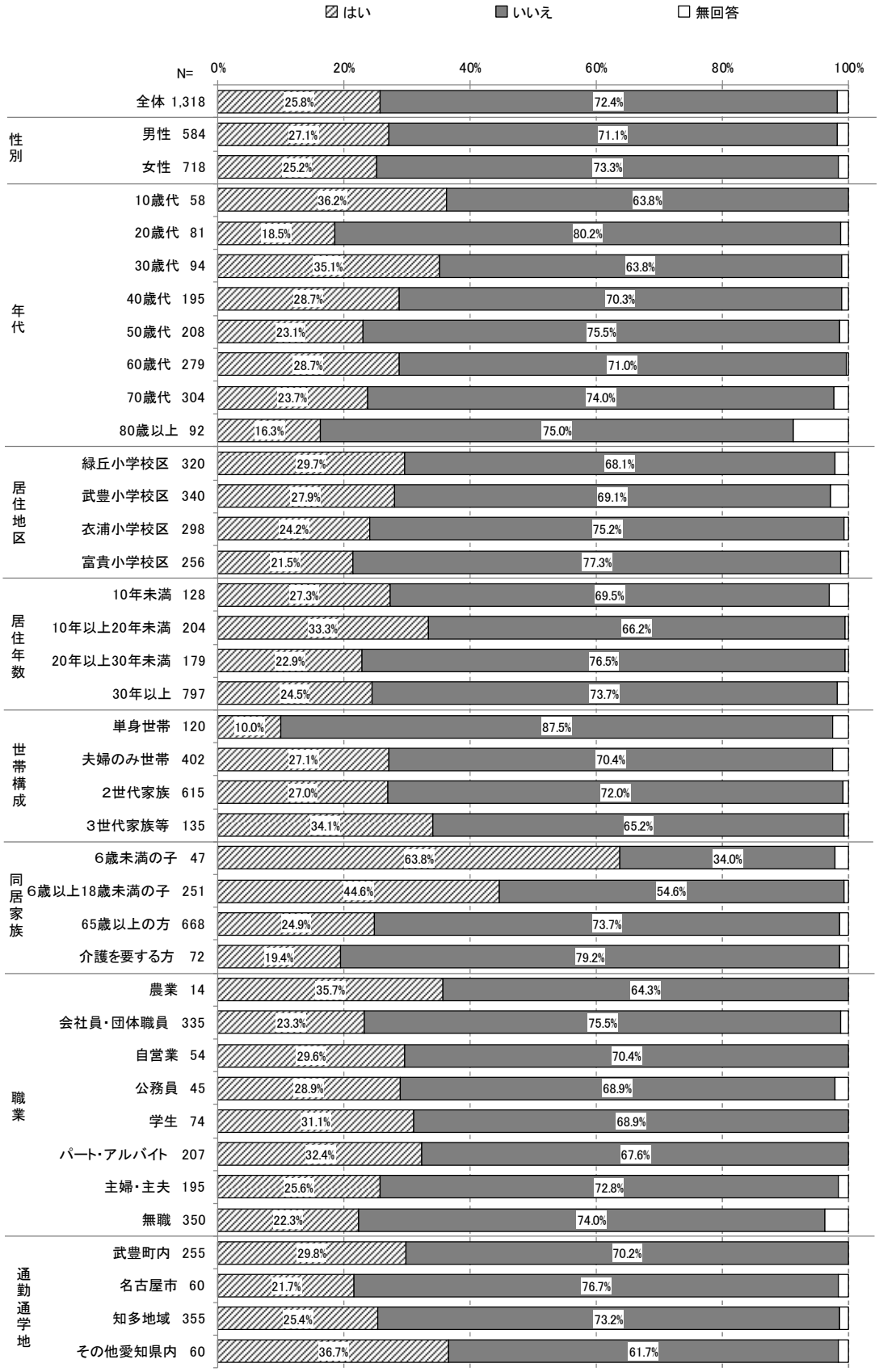
図表 1-3-8　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標２　安全に暮らせるまち［安全環境］
③防災訓練などに参加したり、見学したりしたことはありますか



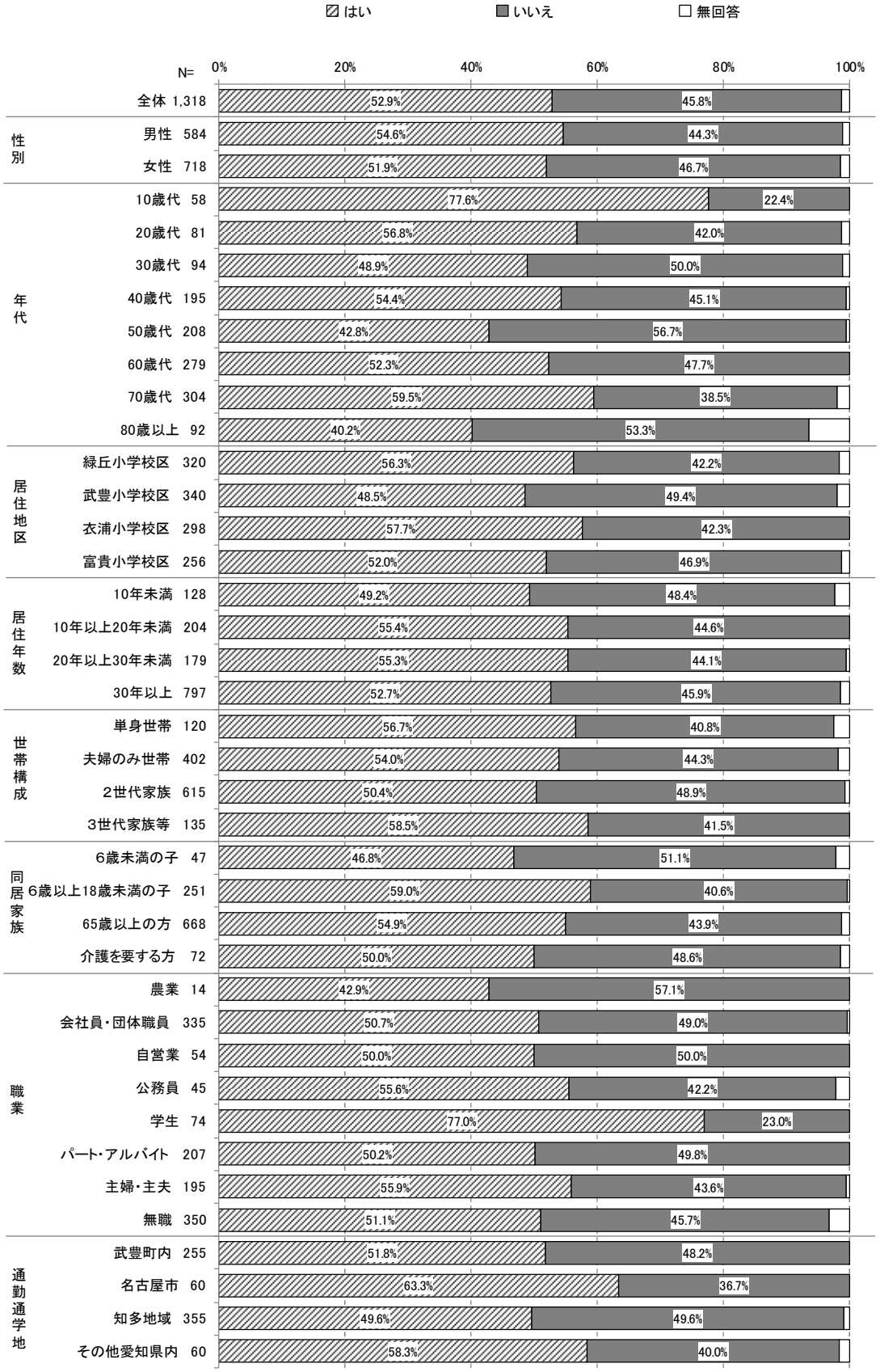
図表 1-3-9　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標２　安全に暮らせるまち［安全環境］
④普段から防犯に心がけていますか



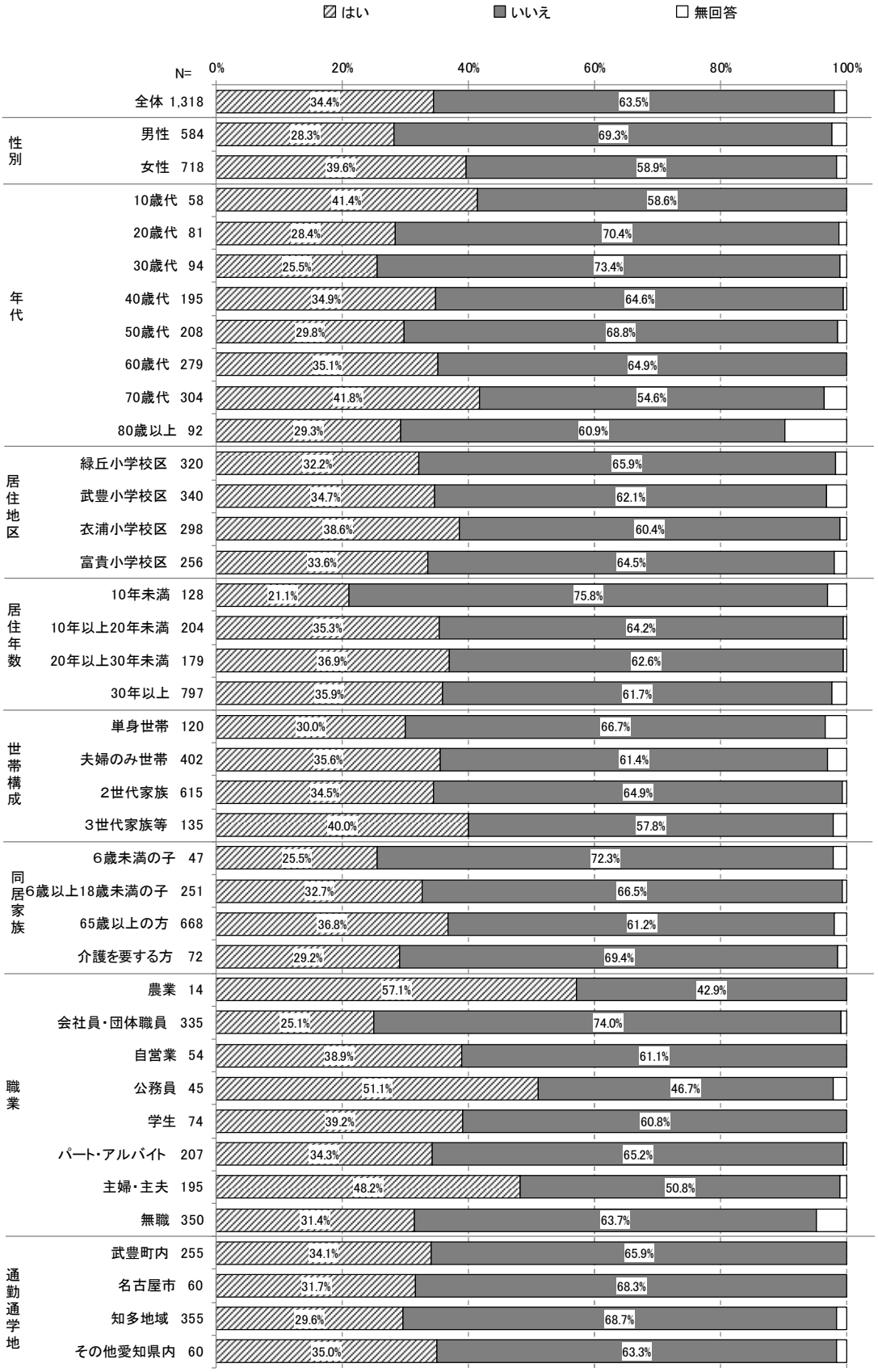
図表 1-3-10　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
①近所の公園や児童遊園を利用しますか



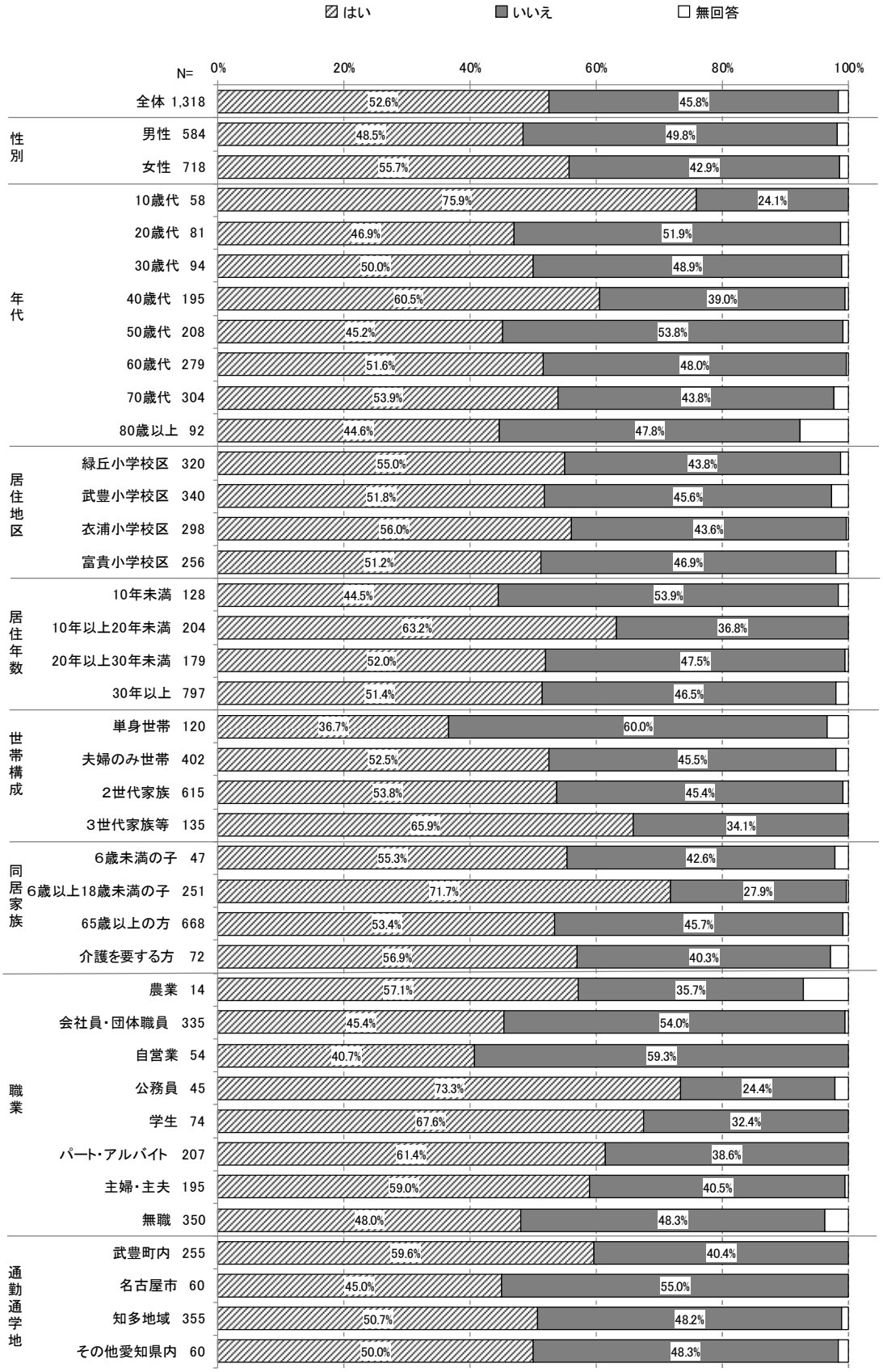
図表 1-3-11　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
②趣味や教養、スポーツなどの活動を楽しんでいますか



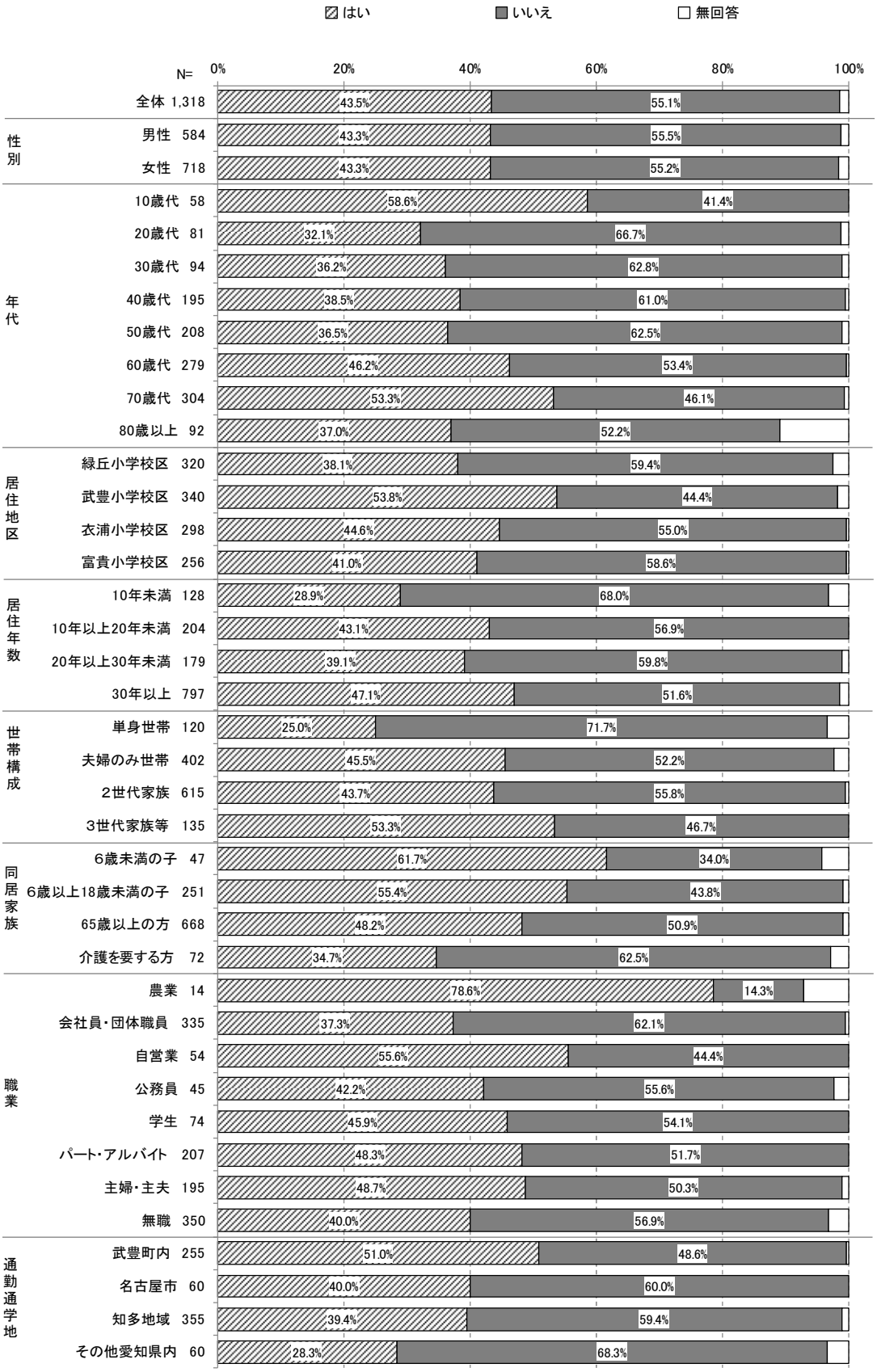
図表 1-3-12　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
③芸術や文化に触れていますか



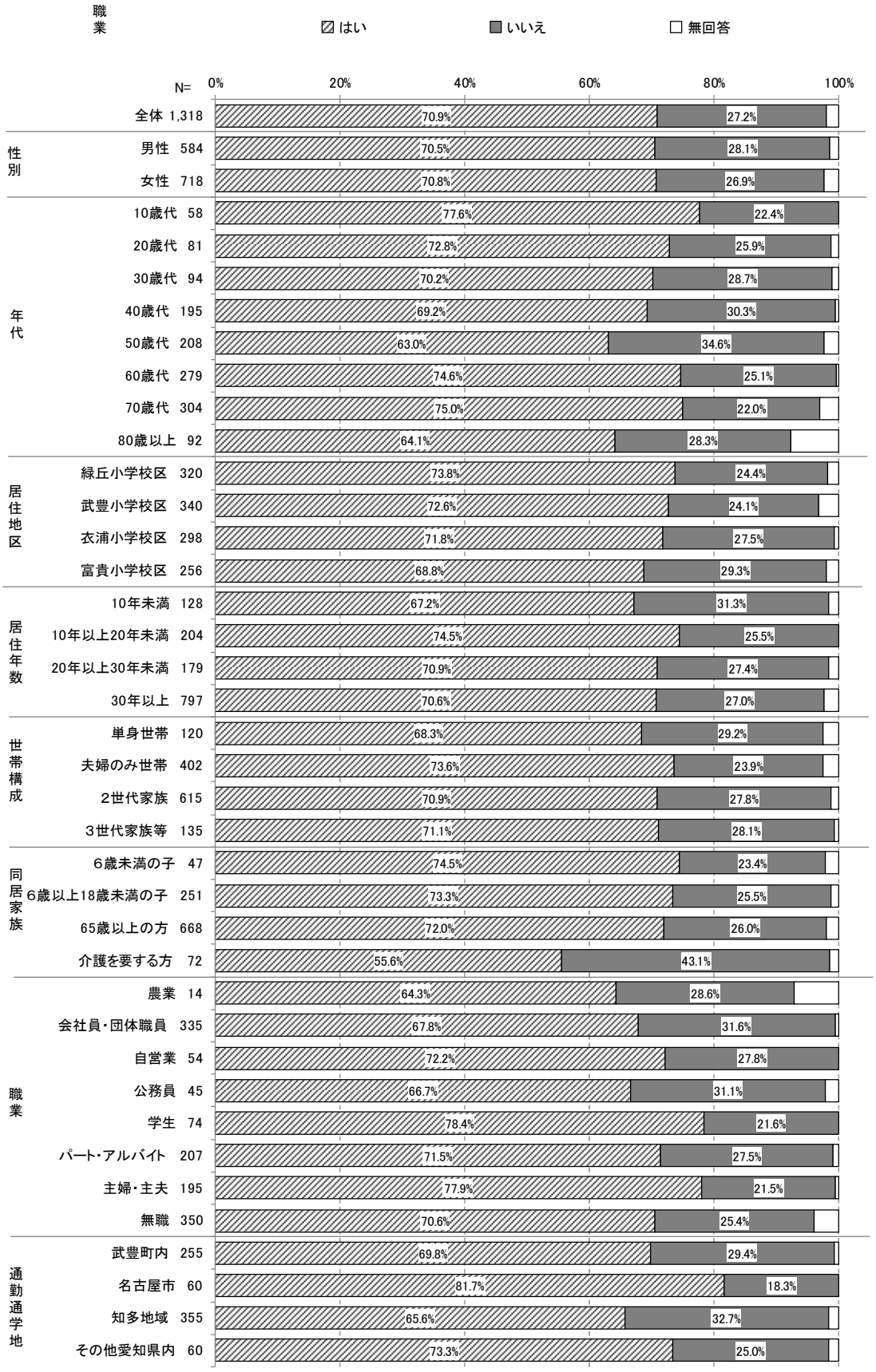
図表 1-3-13　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
④町民会館や図書館、公民館、体育館などの公共施設を利用しますか



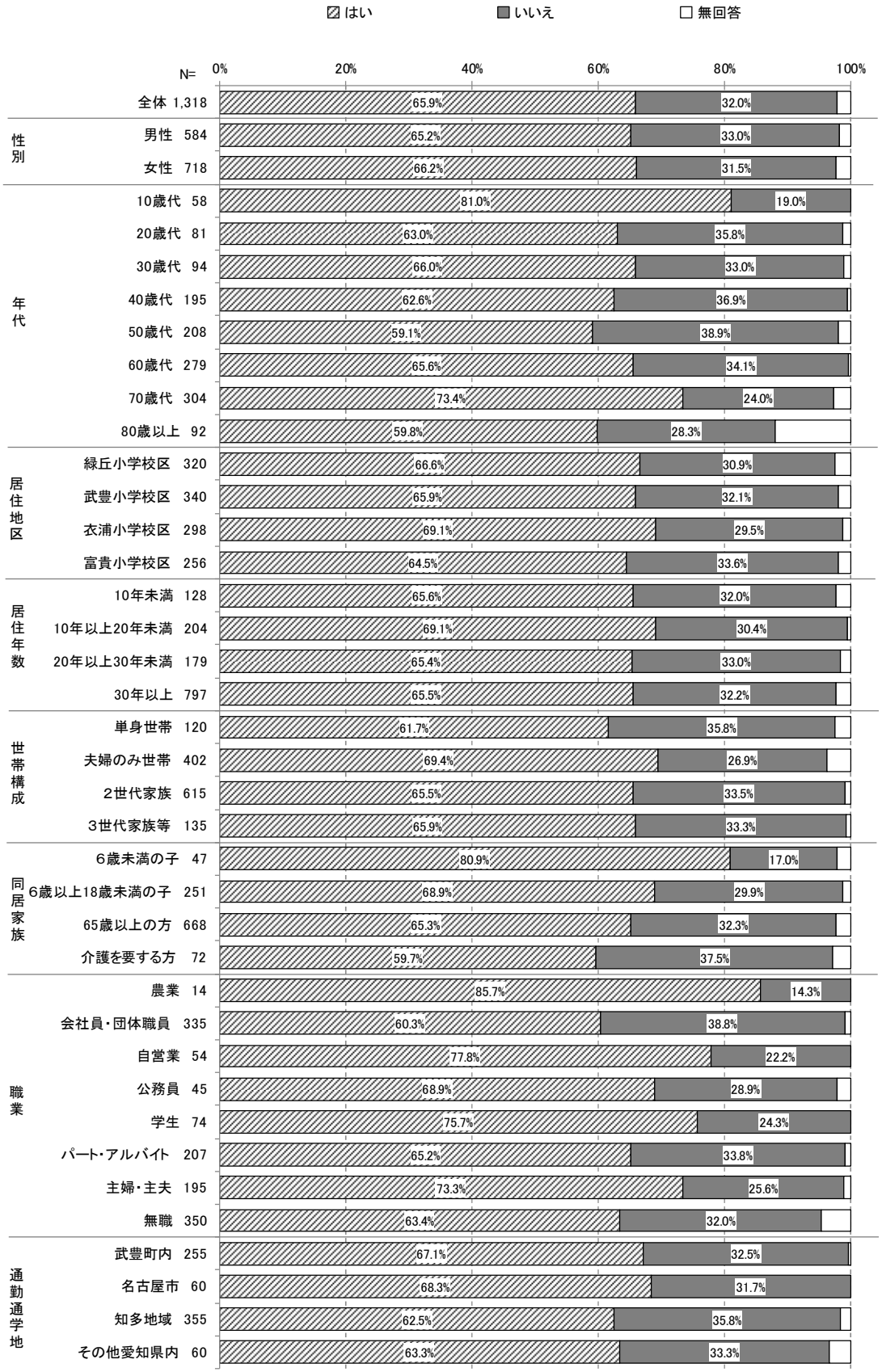
図表 1-3-14　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
⑤地域の行事やお祭りに参加していますか



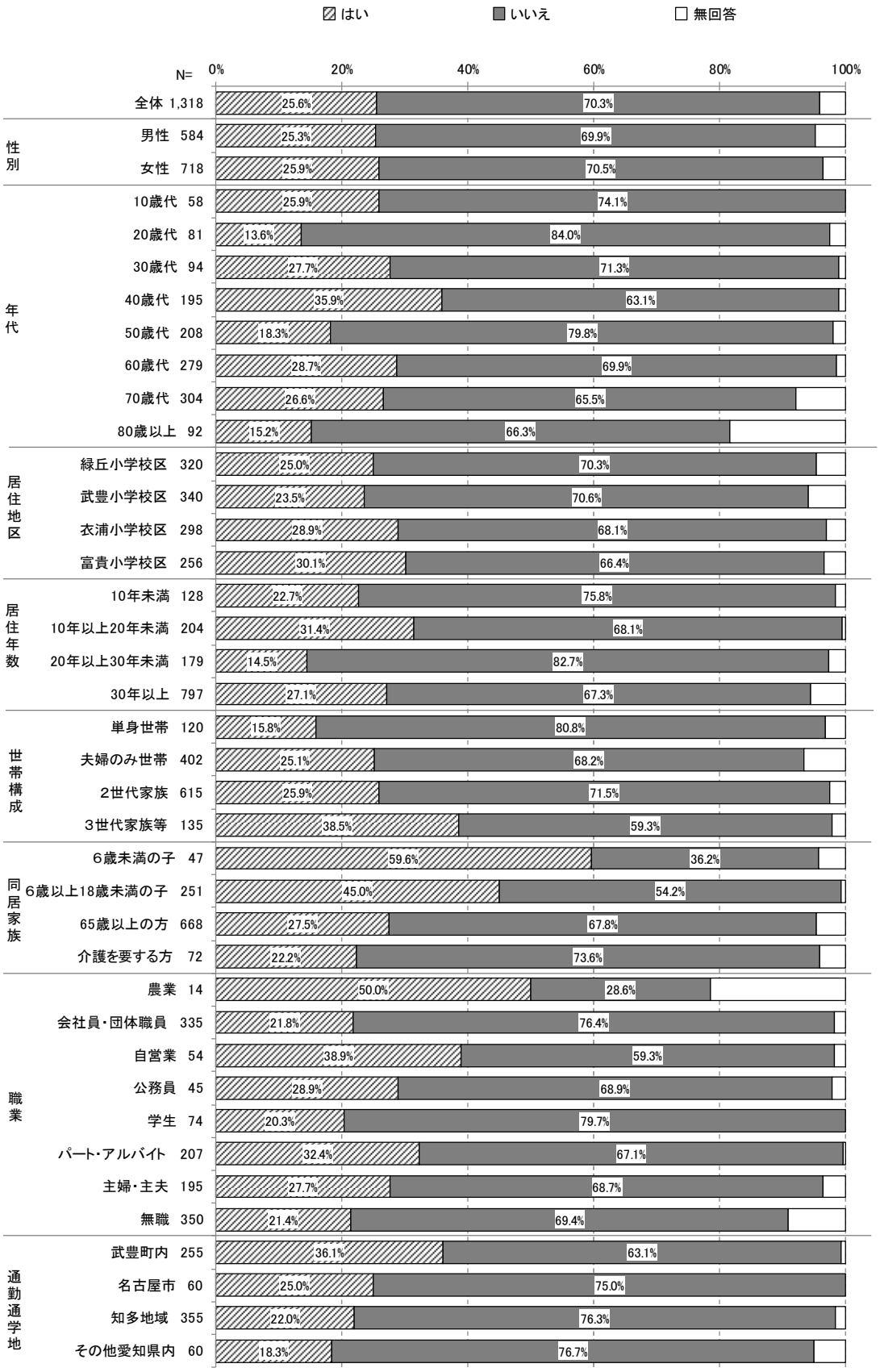
図表 1-3-15　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
⑥余暇は充実していますか



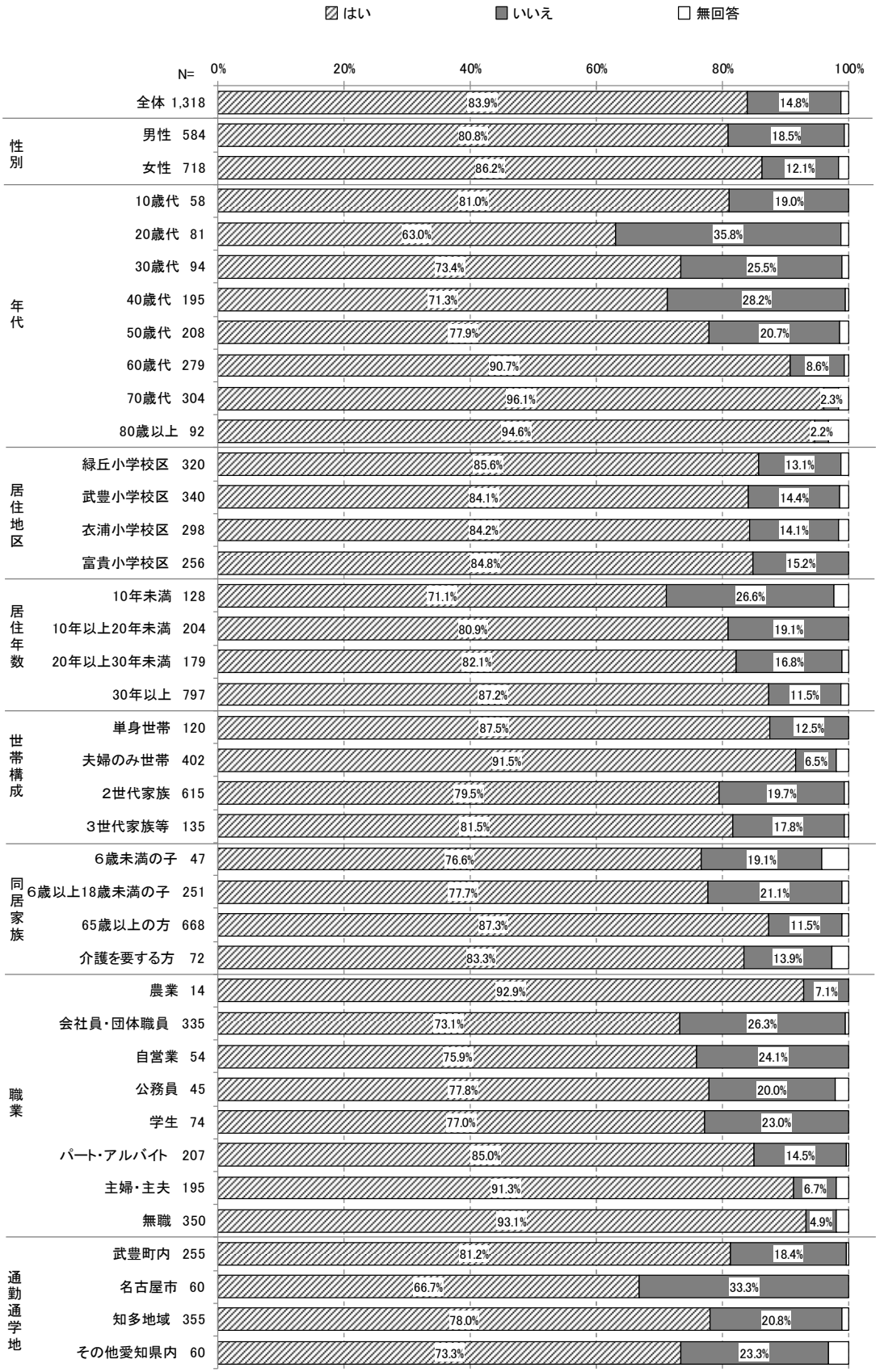
図表 1-3-16　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］
⑦生きがいにしているものがありますか



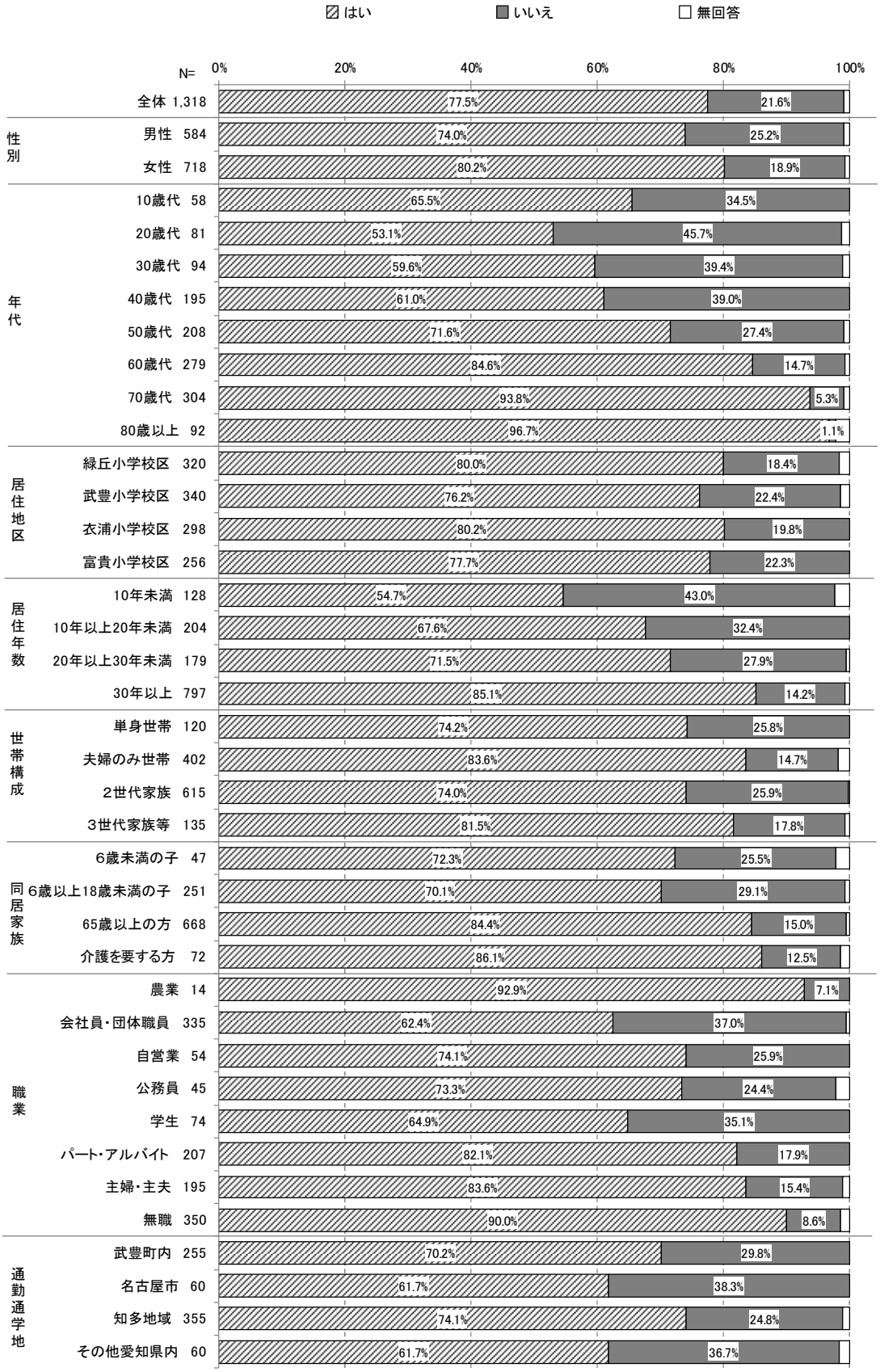
図表 1-3-17　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標４　子どもが健やかに育つまち［次世代育成］
①過去１年間に近所の子どもたちと関わる機会（行事等）はありましたか



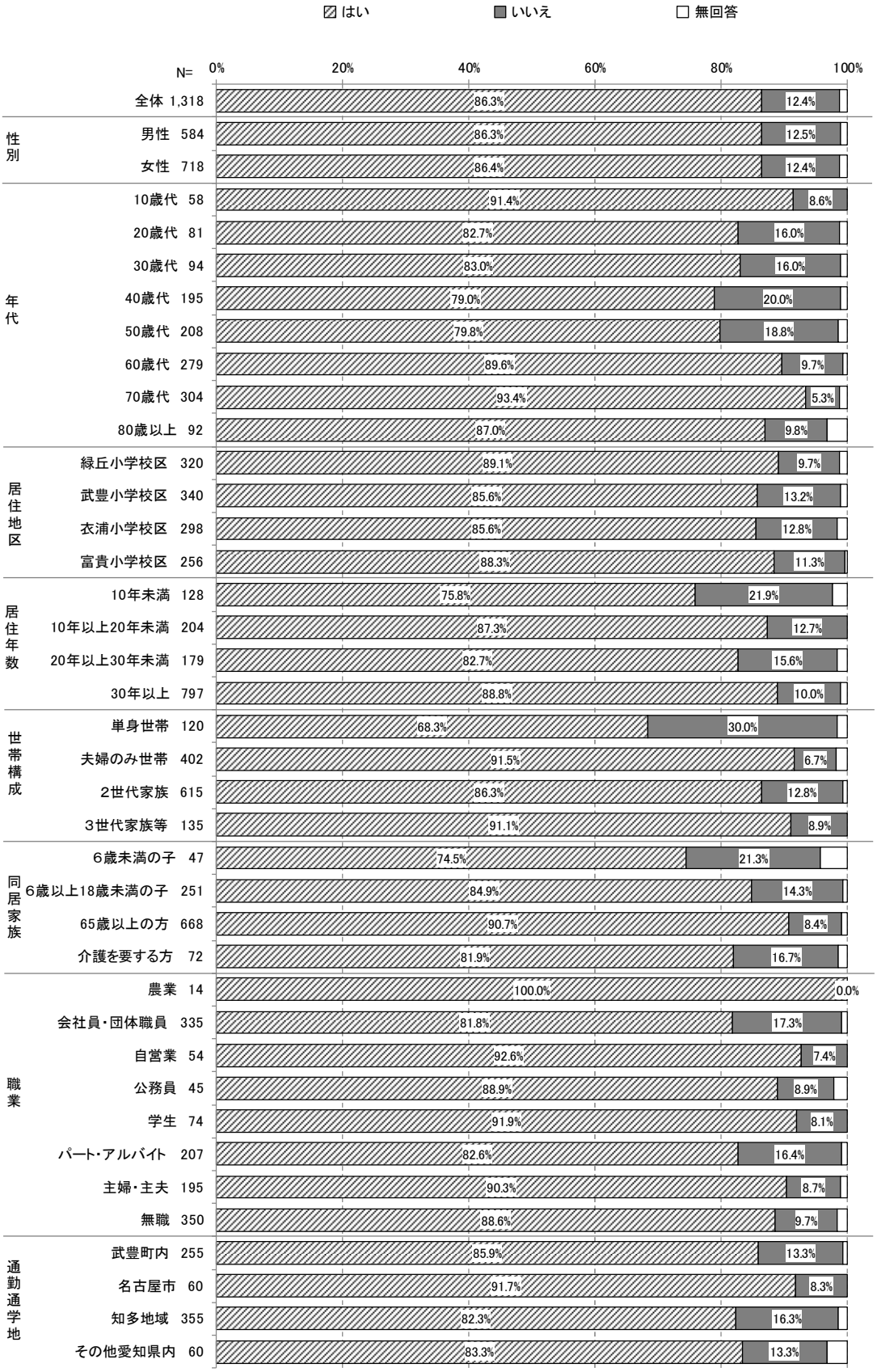
図表 1-3-18　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
①普段から健康に心がけていますか



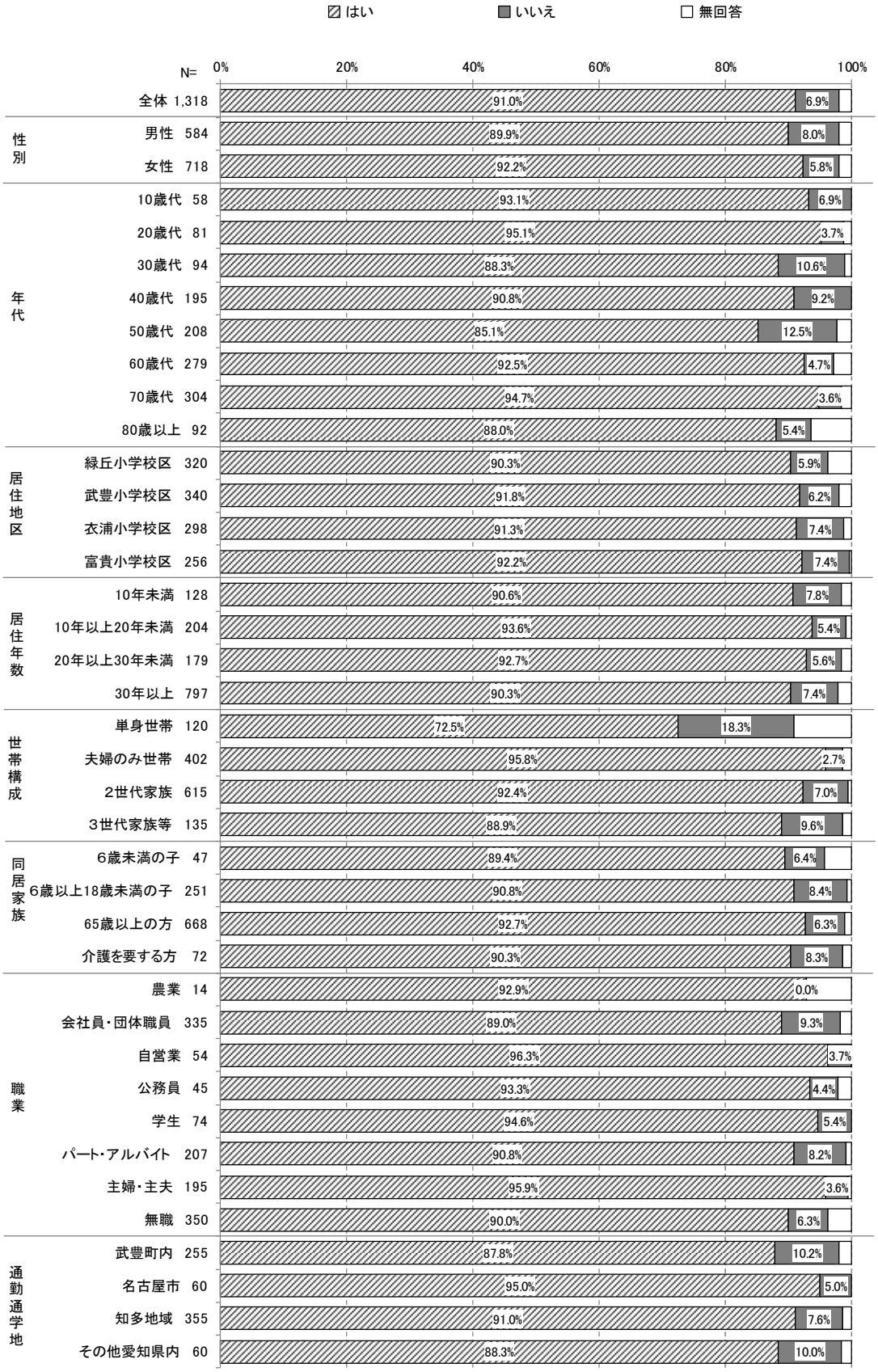
図表 1-3-19　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
②かかりつけの医者はいますか



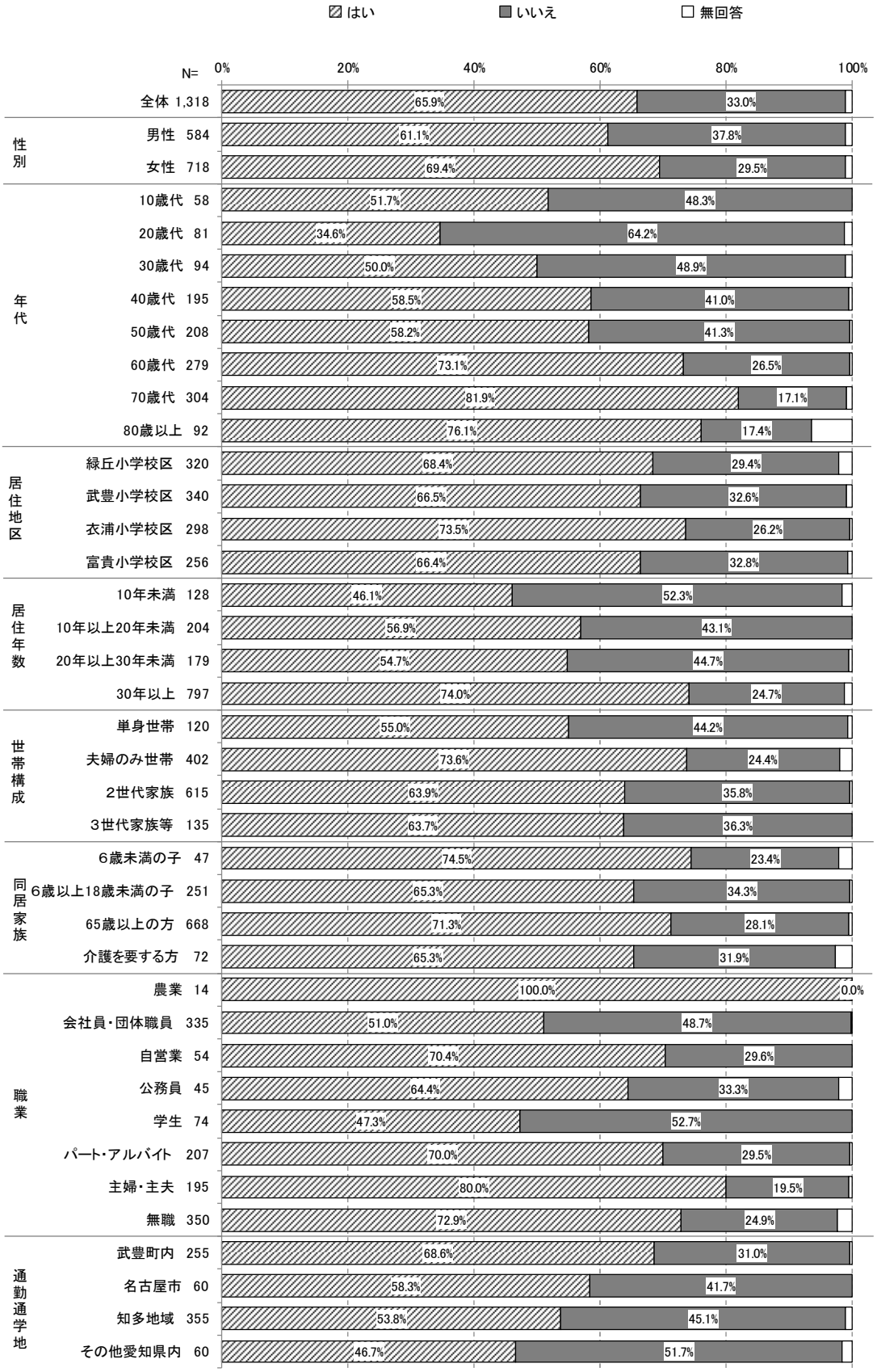
図表 1-3-20　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
③食生活に満足していますか



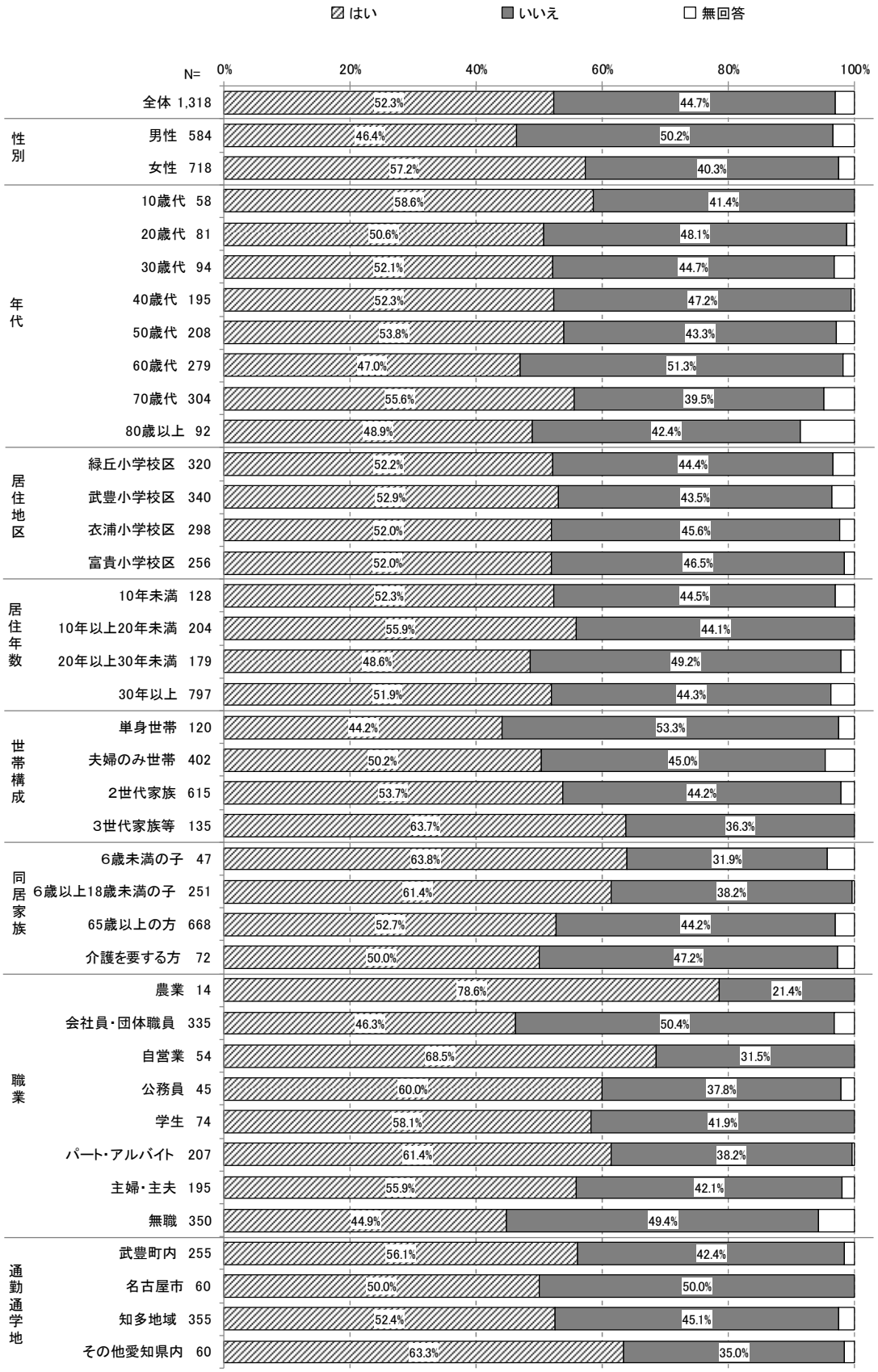
図表 1-3-21　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
④ご家族との関係は良好ですか



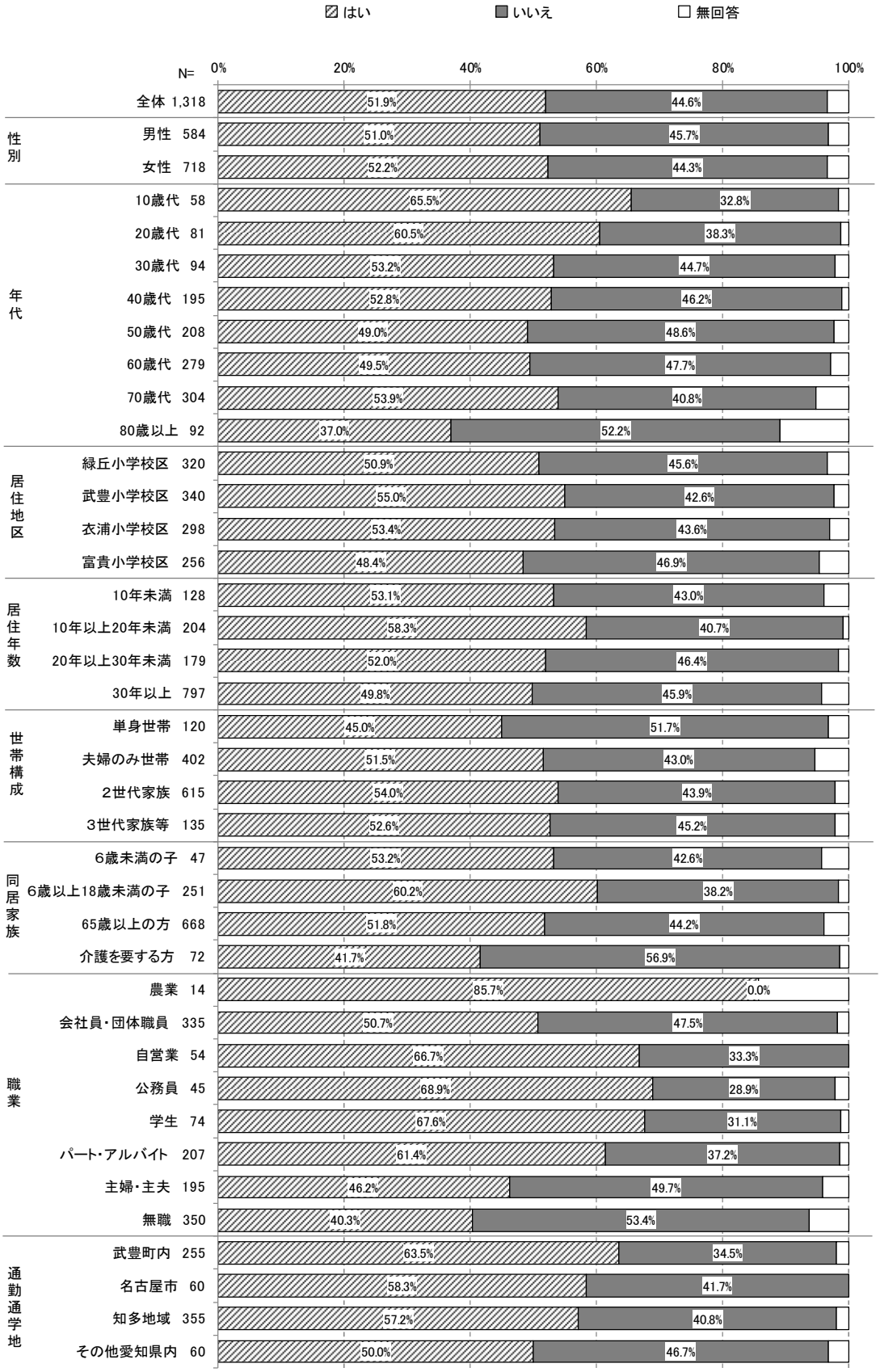
図表 1-3-22　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
⑤日常生活のなかで近所の方との関わりはありますか



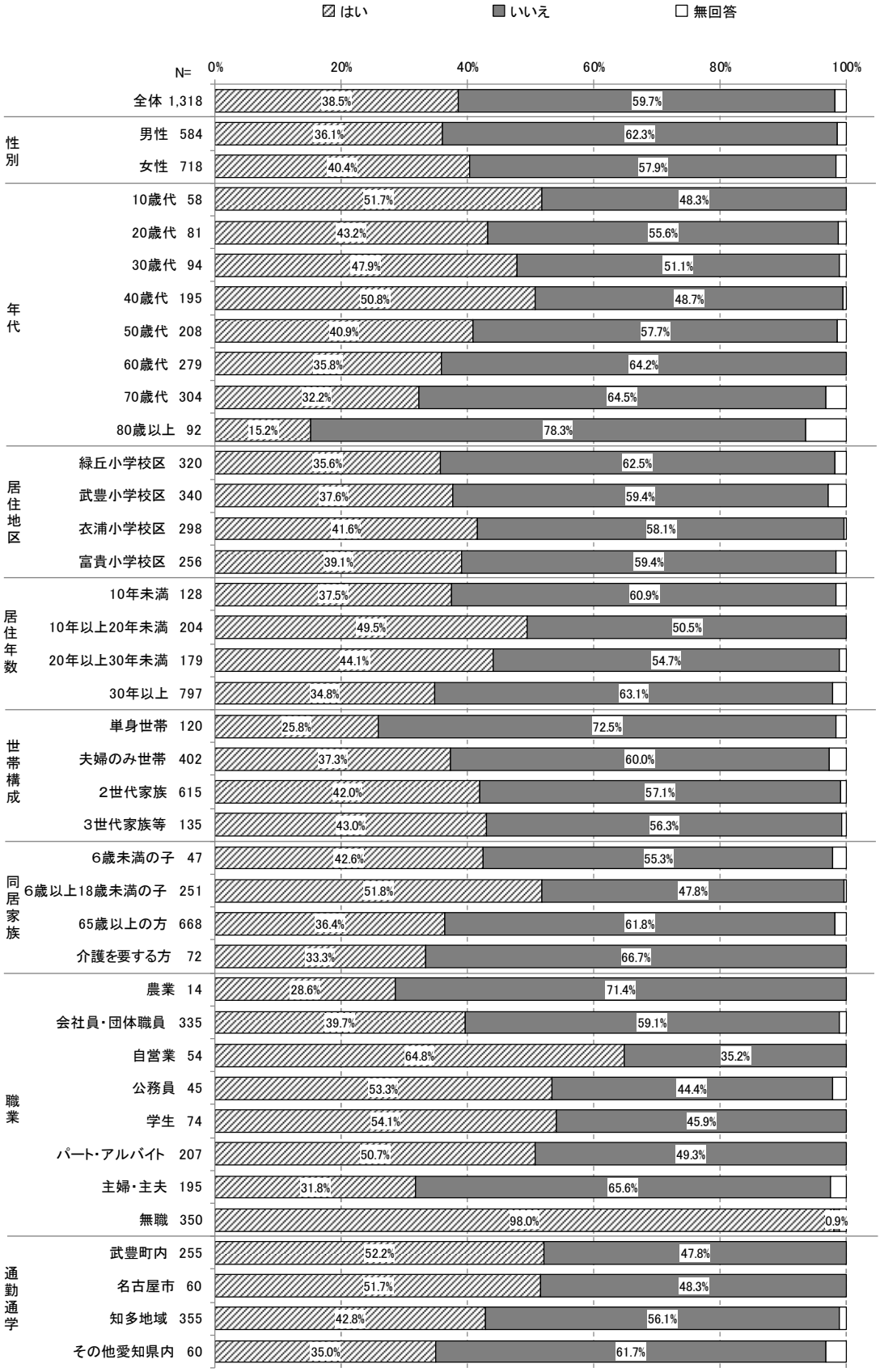
図表 1-3-23　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
⑥人から頼りにされていると感じますか



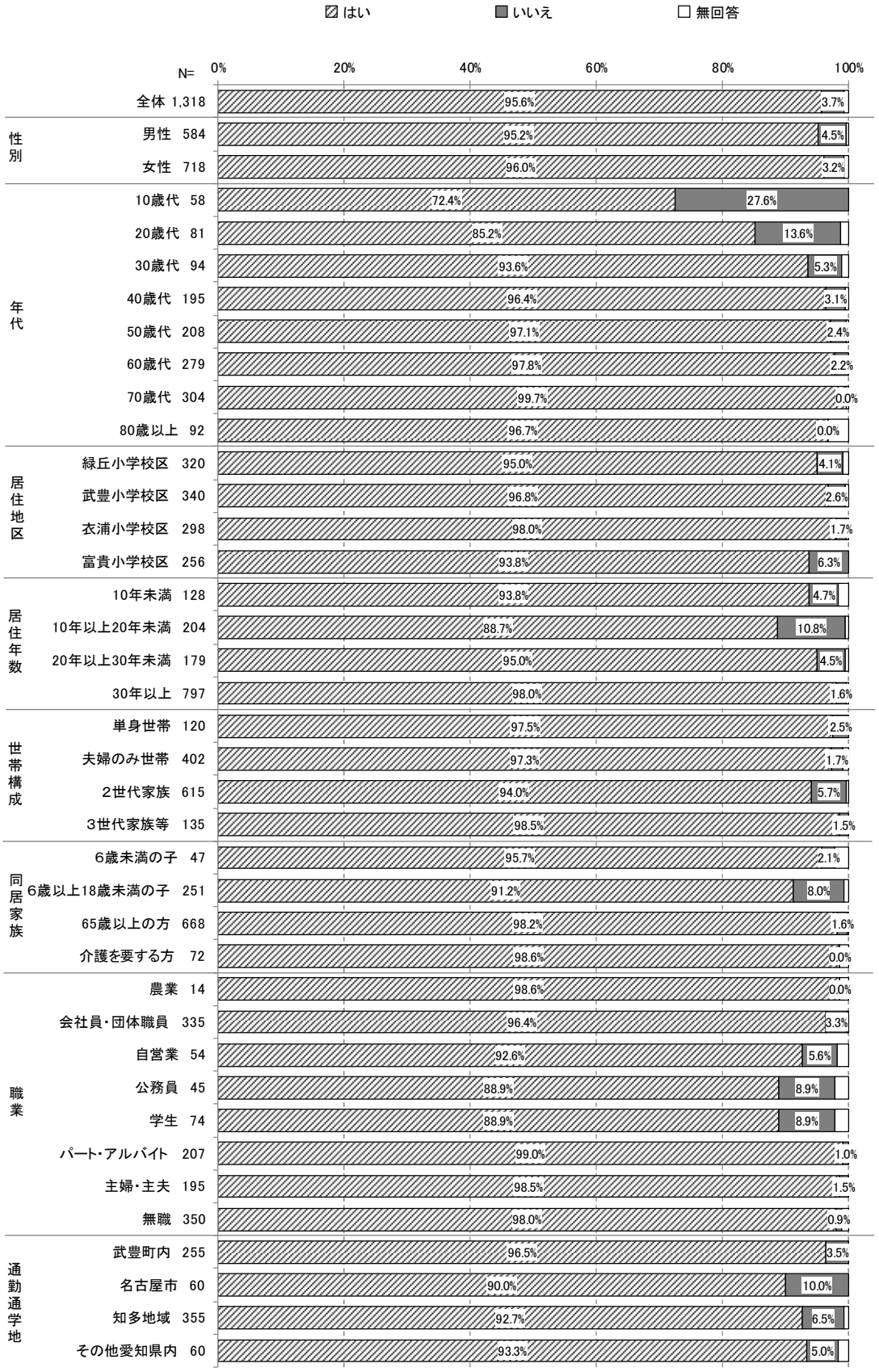
図表 1-3-24　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
⑦自分が活躍できる場はありますか



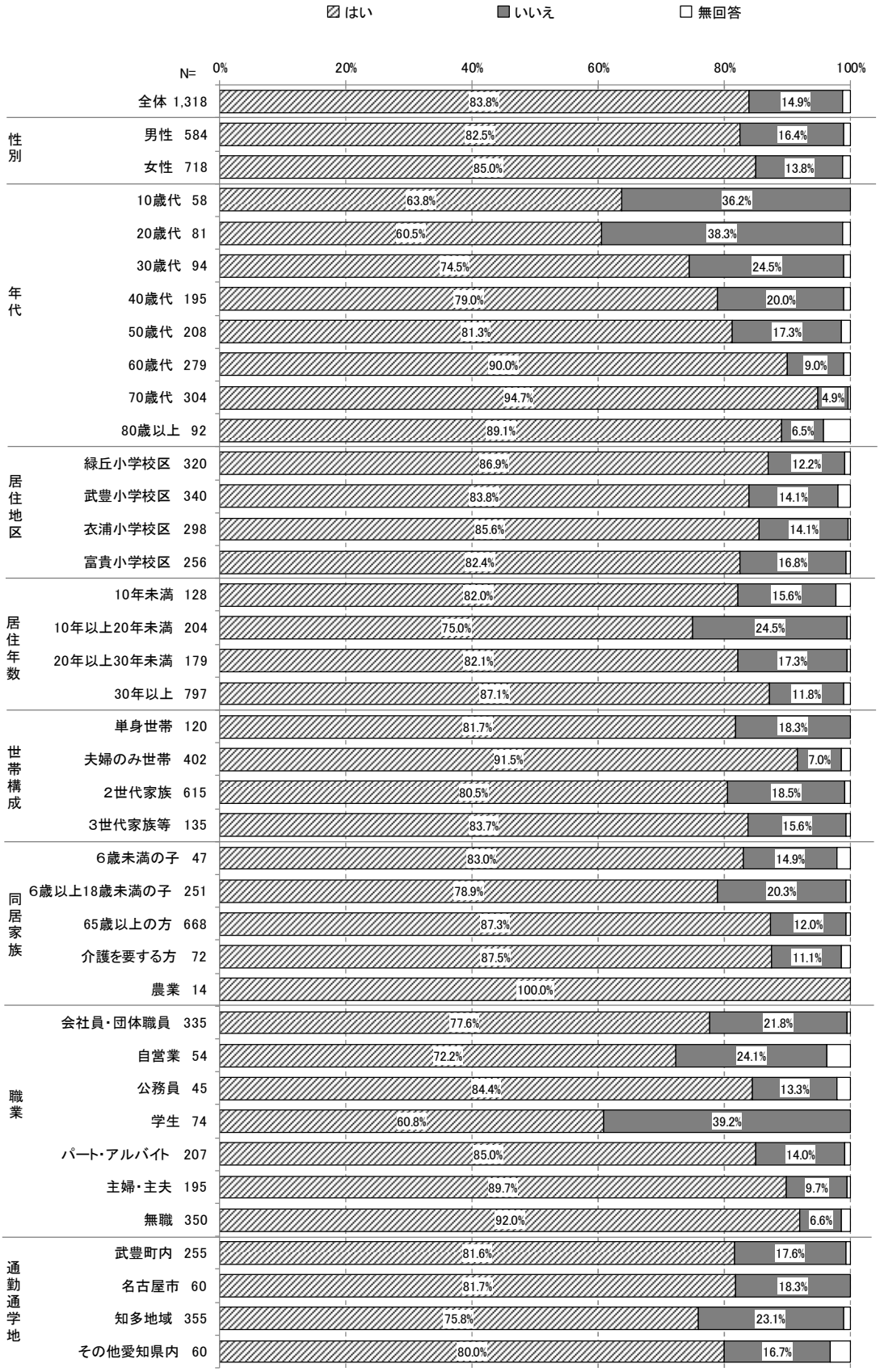
図表 1-3-25　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］
⑧他の世代の人や外国人と交流したり、ふれあうことはありますか



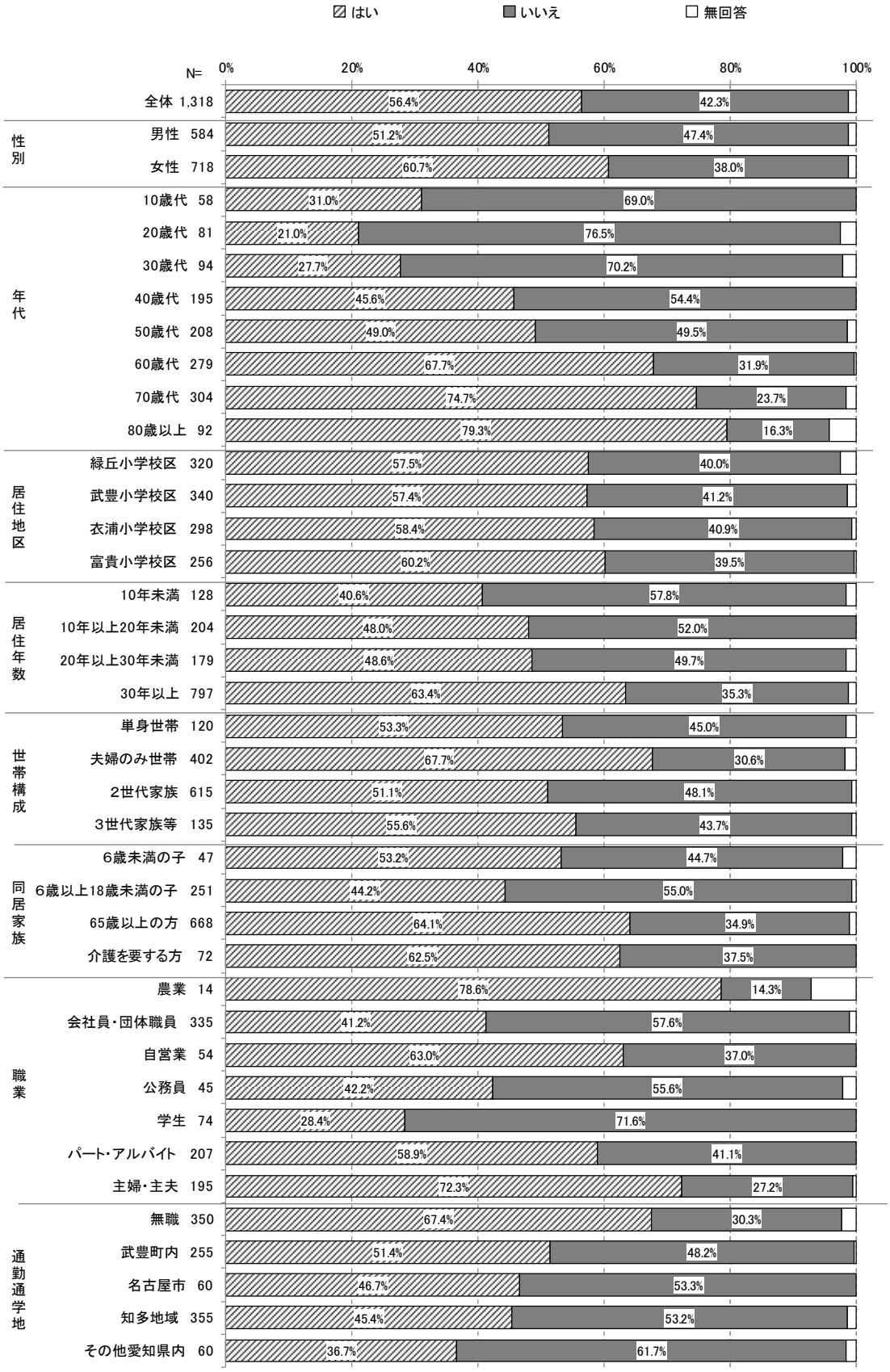
図表 1-3-26　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標６　自然環境と生活環境が調和したまち［生活環境］
①ごみの分別をきちんとしていますか



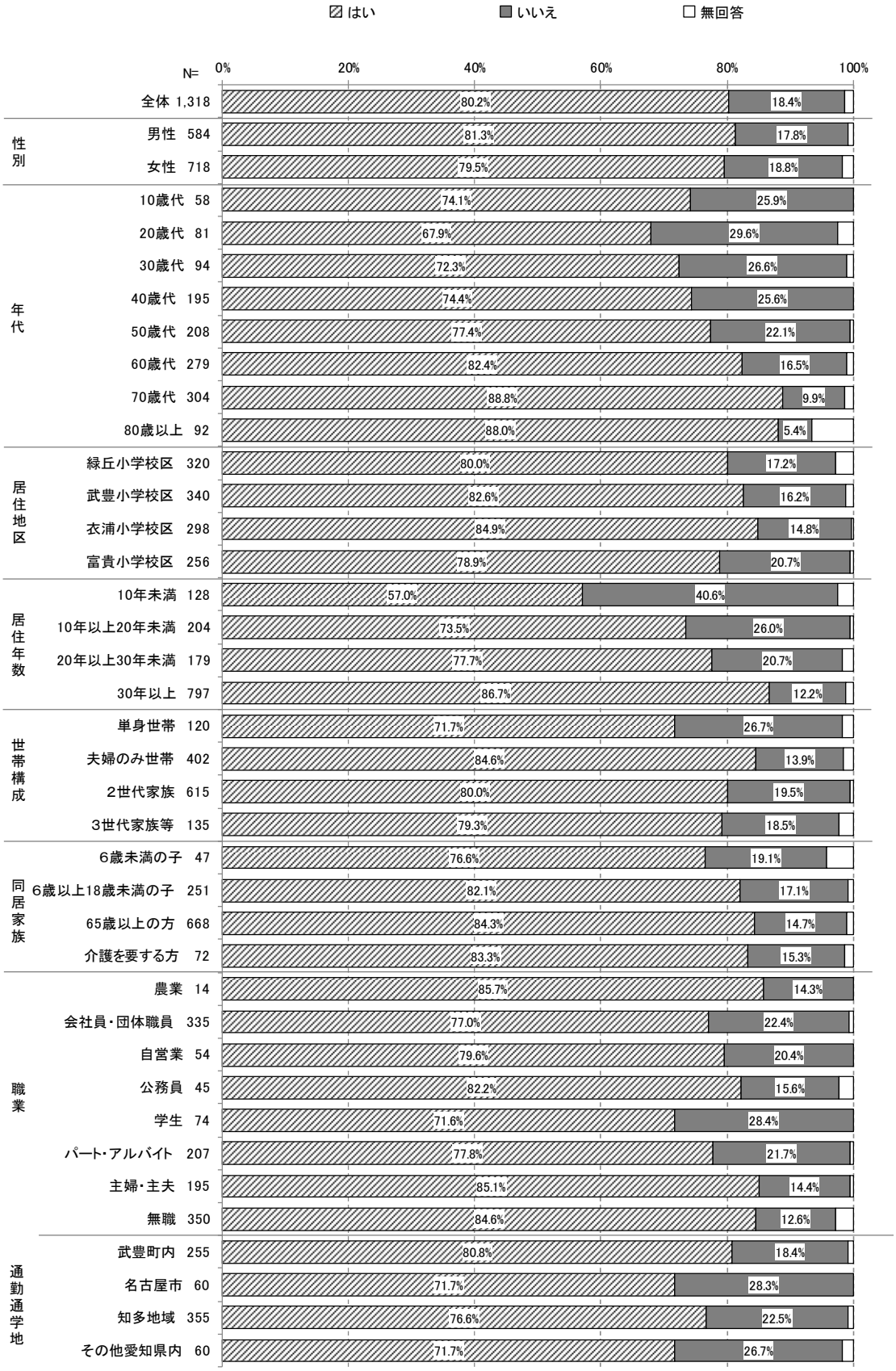
図表 1-3-27　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標６　自然環境と生活環境が調和したまち［生活環境］
②省エネルギーやリサイクルに心がけていますか



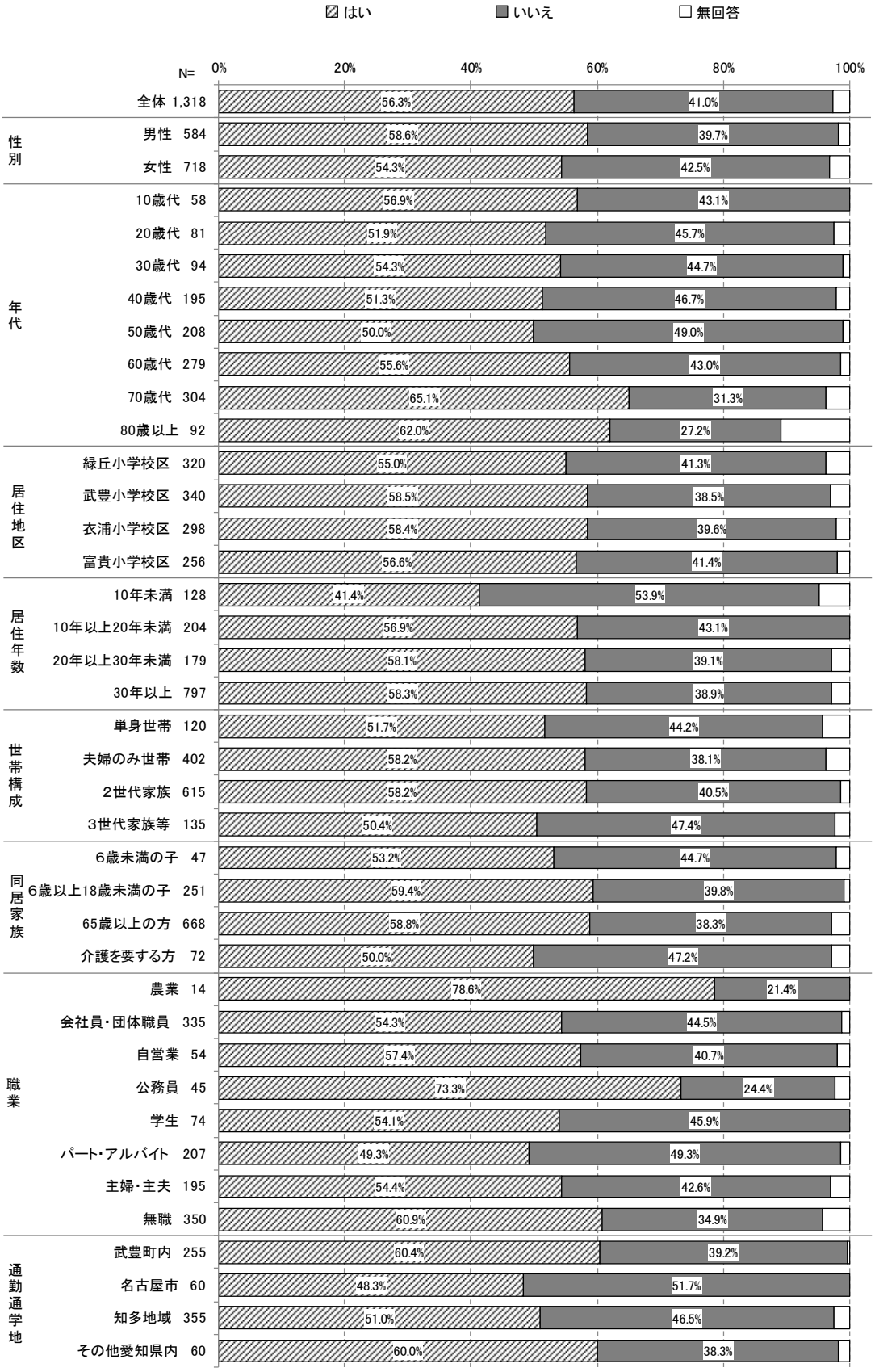
図表 1-3-28　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標７　活力に満ち誇りをもてるまち［地域活性］
①できるだけ地元の農畜産物を購入するようにしていますか



図表 1-3-29　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標７　活力に満ち誇りをもてるまち［地域活性］
②武豊町に愛着がありますか



図表 1-3-30　属性別、日常生活における意識・行動
基本目標７　活力に満ち誇りをもてるまち［地域活性］
③地域に魅力や誇りを感じていますか



１－４　武豊町のまちづくりに対する評価

（１）満足度

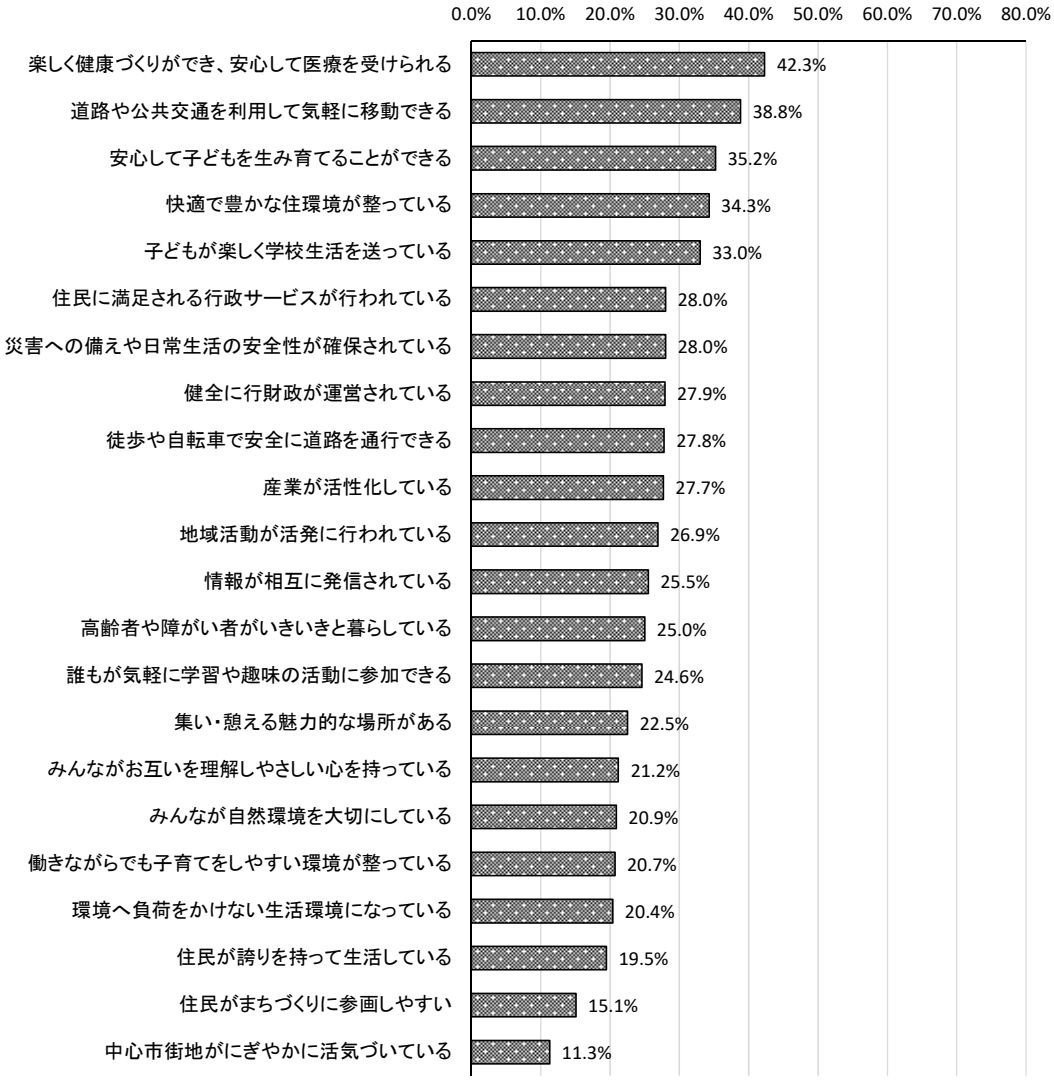
問６　第５次総合計画で進めている 22 項目の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。

アンケート（問６）では、第５次総合計画で取組を進めている 22 項目のめざすべきまちの姿について、「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」「わからない」の６区分で満足度の評価について回答を求めました。

ここでは、「満足」または「やや満足」に回答した割合を『満足度』としその評価が高い項目をみていくと、最も高いのは「楽しく健康づくりができ、安心して医療を受けられる」の 42.3%でした。次いで「道路や公共交通を利用して気軽に移動できる」の 38.8%、「安心して子どもを生み育てることができる」の 35.2%と続いています。

逆に、最も評価の低いものは、「中心市街地がにぎやかに活気づいている」の 11.3%となっています。次いで、「住民がまちづくりに参画しやすい」の 15.1%、「住民が誇りを持って生活している」の 19.5%が続いています。

図表 1-4-1　満足度　（「満足」＋「やや満足」の割合）



【参考】 満足度（36 項目）

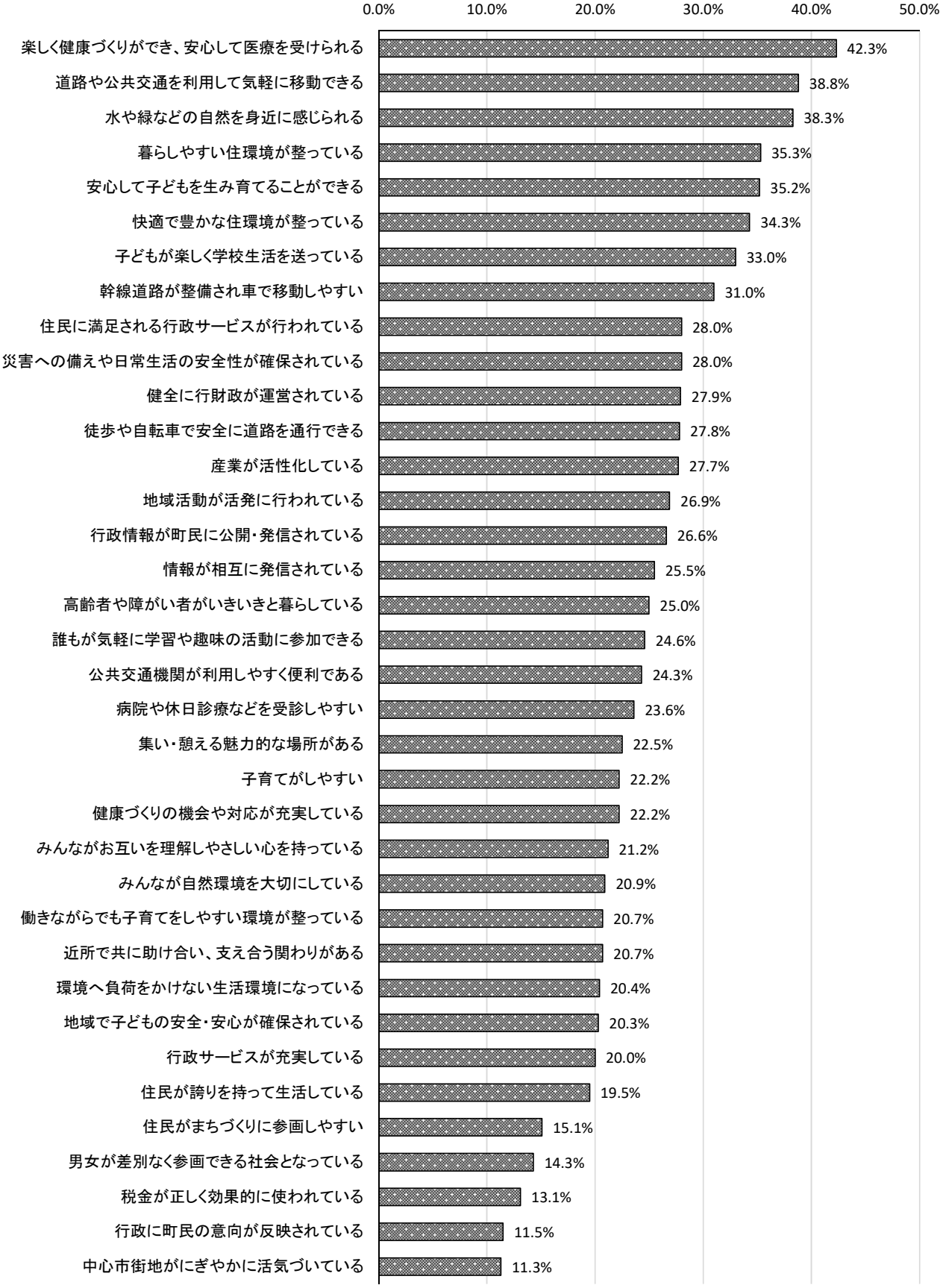
問６	第５次総合計画で進めている 22 項目の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。
問７	以下の取組に関する満足度をお答えください。

アンケートでは、問６に掲げた 22 項目の取組に加えて、問７で 14 項目の取組についても満足度の評価を求めています。ここでは参考までに、この両者をあわせた 36 項目で満足度の評価をみておきます。

「満足」または「やや満足」に回答した割合を『満足度』としその評価が高い項目をみていくと、最も高いのは「楽しく健康づくりができ、安心して医療を受けられる」の 42.3%です。次いで「道路や公共交通を利用して気軽に移動できる」の 38.8%、「水や緑などの自然を身近に感じられる」の 38.3%、「暮らしやすい住環境が整っている」の 35.3%、「安心して子どもを生み育てることができる」の 35.2%と続いています。

逆に、最も評価の低いものは、「中心市街地がにぎやかに活気づいている」の 11.3%で、次いで、「行政に町民の意向が反映されている」の 11.5%、「税金が正しく効果的に使われている」の 13.1%、「男女が差別なく参画できる社会となっている」の 14.3%、「住民がまちづくりに参画しやすい」の 15.1%と続いています。

図表 1-4-2　満足度　（「満足」＋「やや満足」の割合）　36 項目



（２）重要度

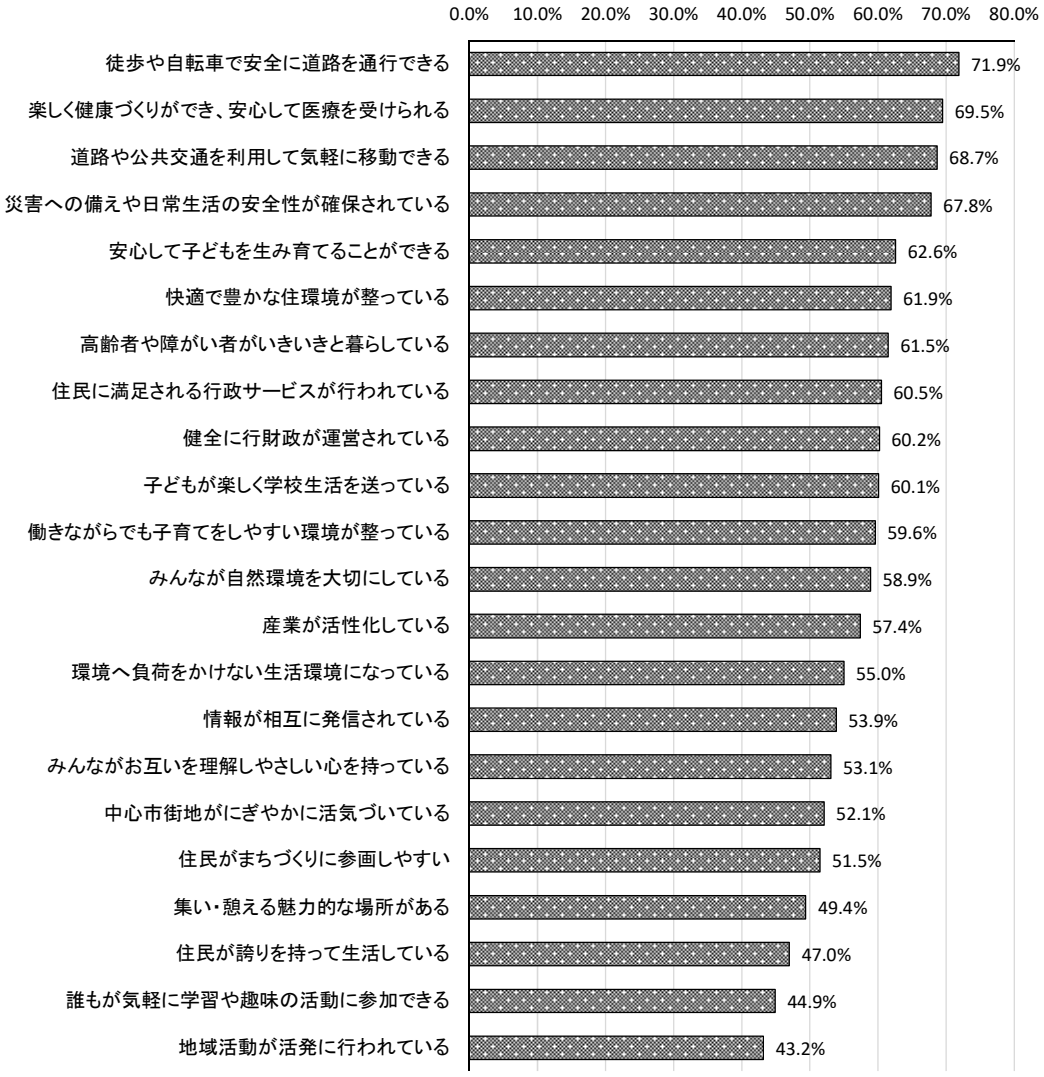
問６　第５次総合計画で進めている 22 項目の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。

アンケート（問６）では、第５次総合計画で取組を進めている 22 項目のめざすべきまちの姿について、「重要と思う」、「どちらかといえば重要と思う」、「どちらともいえない」、「どちらかと言えば重要とは思わない」、「重要とは思わない」「わからない」の６区分で重要度の評価を求めました。

ここでは、「重要と思う」または「どちらかといえば重要と思う」に回答した割合を『重要度』としその評価が高い項目をみていくと、最も高いのは「徒歩や自転車で安全に道路を通行できる」の 71.9%となっています。次いで「楽しく健康づくりができ、安心して医療を受けられる」の 69.5%、「道路や公共交通を利用して気軽に移動できる」の 68.7%が続いています。

逆に、最も評価の低いものは、「地域活動が活発に行われている」の 43.2%です。次いで、「誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できる」の 44.9%、「住民が誇りを持って生活している」の 47.0%となっています。

図表 1-4-3　重要度　（「重要と思う」＋「どちらかといえば重要と思う」の割合）



（3）満足度指数と重要度指数

問６　第５次総合計画で進めている 22 項目の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。

満足度と重要度の関係をみるために、次の表に示した算出式により施策項目ごとの回答者の評価を「満足度指数」及び「重要度指数」として設定しました。

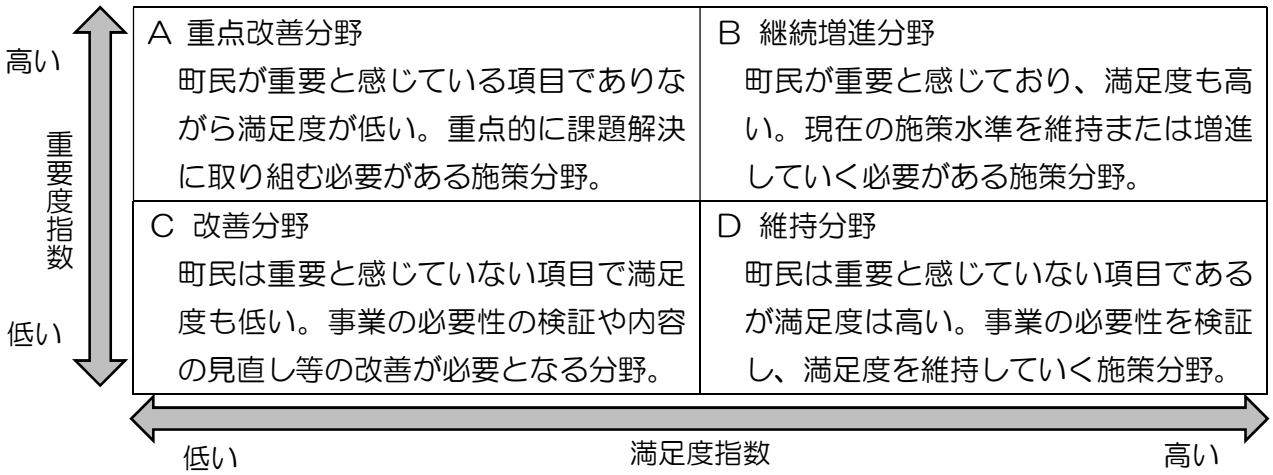
図表 1-4-4　満足度指数と重要度指数の算出方法

評価区分		点数	算出式
満足度	重要度		
満足	重要と思う	+100	$M_i = (A_{i5} \times 100 + A_{i4} \times 50 - A_{i2} \times 50 - A_{i1} \times 100) / A_i$ M_i：施策 i の満足度指数または重要度指数 A_i：施策 i の回答者数（「わからない」「無回答」除く） A_{i5}：施策 i を「満足」または「重要と思う」と評価した回答者数 A_{i4}：施策 i を「やや満足」または「どちらかといえば重要と思う」と評価した回答者数 A_{i2}：施策 i を「やや不満」または「どちらかといえば重要とは思わない」と評価した回答者数 A_{i1}：施策 i を「不満」または「重要とは思わない」と評価した回答者数
やや満足	どちらかといえば重要と思う	+50	
どちらともいえない	どちらともいえない	0	
やや不満	どちらかといえば重要とは思わない	−50	
不満	重要とは思わない	−100	

※ある施策の満足度・重要度評価に対して、
- 全員が「満足」または「重要と思う」と回答した場合、満足度指数・重要度指数は 100 となります。
- 半分が「やや満足」、半分が「やや不満」と回答した場合、また、半数が「どちらかといえば重要と思う」、半分が「どちらかといえば重要とは思わない」と回答した場合、満足度指数・達成度指数は 0 となります。
- 満足度指数は、施策に対する満足度が最大のとき 100 となり、最小のとき−100 となります。また、満足と不満の評価が等しいときに 0 となります。重要度も同様です。

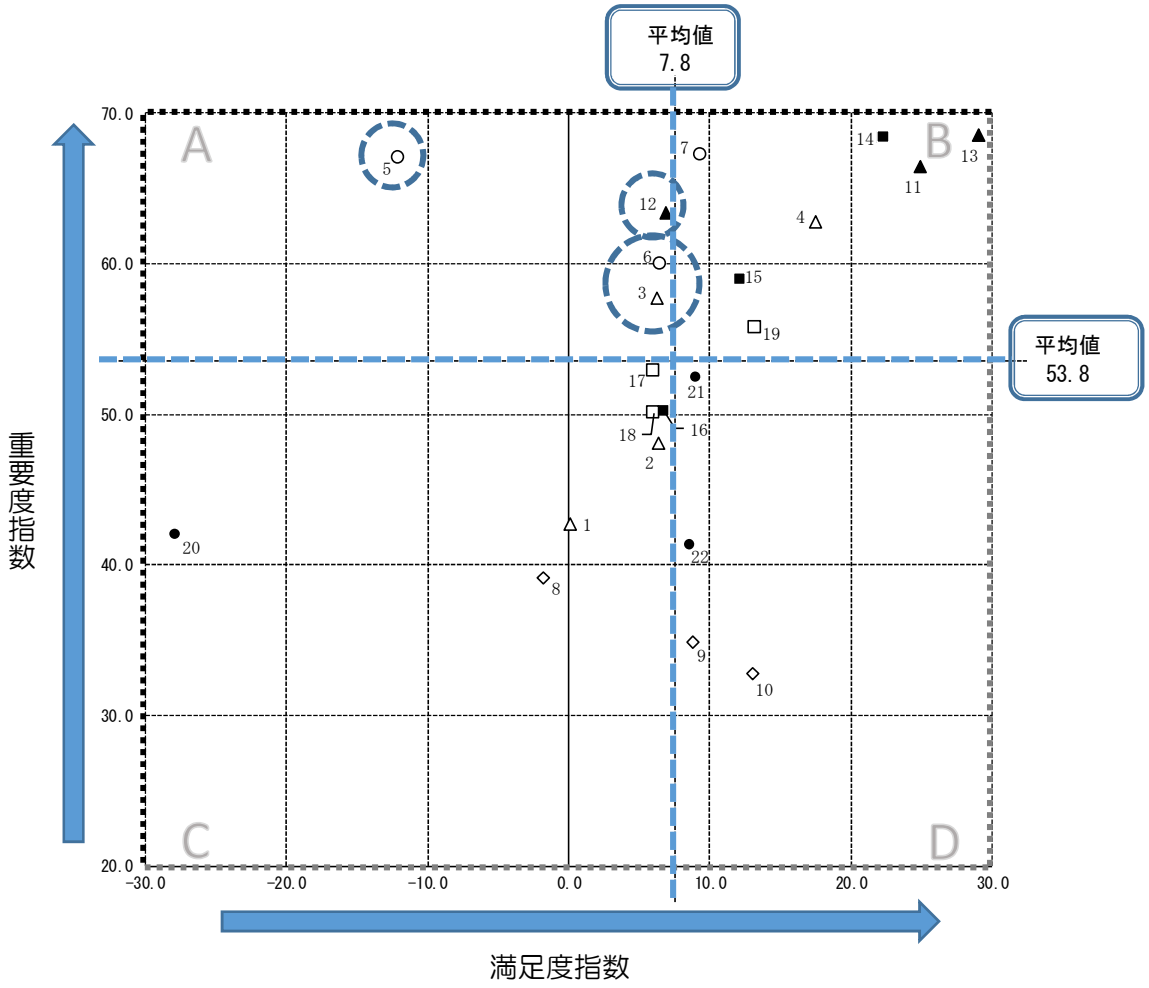
満足度指数を横軸、重要度指数を縦軸とするグラフ上に施策項目ごとの指数をプロットしたものが次頁の散布図です。全施策項目の満足度指数の平均値は 7.8、重要度指数の平均値は 53.8 となります。この平均値を基準に区分される４つの領域のどこに位置しているかで各々の施策項目は次のように評価されます。

図表 1-4-5　満足度指数と重要度指数からみた施策評価の考え方



重要度指数が高いにもかかわらず満足度指数が低い「重点改善分野」に該当する施策項目としては、「徒歩や自転車で安全に道路を通行できる」、「働きながらでも子育てをしやすい環境が整っている」、「道路や公共交通を利用して気軽に移動できる」、「住民に満足される行政サービスが行われている」の４施策が該当しています。

図表 1-4-6　満足度指数と重要度指数　散布図



基本目標	表示	No	施策項目	満足度指数	重要度指数
基本目標１	△	1	住民がまちづくりに参画しやすい	0.1	42.7
	△	2	情報が相互に発信されている	6.4	48.1
	△	**3**	**住民に満足される行政サービスが行われている**	**6.3**	**57.7**
	△	4	健全に行財政が運営されている	17.4	62.8
基本目標２	○	**5**	**徒歩や自転車で安全に道路を通行できる**	**-12.1**	**67.1**
	○	**6**	**道路や公共交通を利用して気軽に移動できる**	**6.5**	**60.0**
	○	7	災害への備えや日常生活の安全性が確保されている	9.3	67.3
基本目標３	◇	8	集い・憩える魅力的な場所がある	-1.7	39.1
	◇	9	誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できる	8.8	34.8
	◇	10	地域活動が活発に行われている	13.1	32.8
基本目標４	▲	11	安心して子どもを生み育てることができる	24.9	66.5
	▲	**12**	**働きながらでも子育てをしやすい環境が整っている**	**6.9**	**63.4**
	▲	13	子どもが楽しく学校生活を送っている	29.1	68.6
基本目標５	■	14	楽しく健康づくりができ、安心して医療を受けられる	22.4	68.4
	■	15	高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている	12.2	58.9
	■	16	みんながお互いを理解しやさしい心を持っている	6.8	50.2
基本目標６	□	17	みんなが自然環境を大切にしている	6.0	52.9
	□	18	環境へ負荷をかけない生活環境になっている	6.0	50.0
	□	19	快適で豊かな住環境が整っている	13.2	55.8
基本目標７	●	20	中心市街地がにぎやかに活気づいている	-27.9	42.0
	●	21	産業が活性化している	9.0	52.5
	●	22	住民が誇りを持って生活している	8.6	41.3
			平均値	7.8	53.8

※「基本目標１～７」は、第５次武豊町総合計画の「まちづくりの基本目標」に相当。

１－５　幸福度

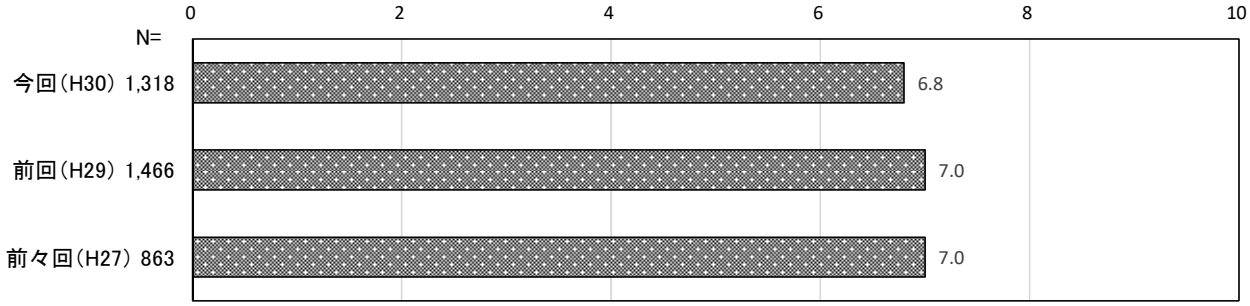
（１）現在の幸福度

問８　現在あなたは、どの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を０点とすると、何点くらいになると思いますか。（あてはまる数字１つに○印）。

10 点を満点として幸福度をたずねたところ、「８点」が 20.8%と最も高く、次いで「５点」の 20.7%、「７点」の 18.3%となりました。

平均点は 6.8 点で、前回調査（平成 29 年）の 7.0 点、前々回調査（平成 27 年）の 7.0 点と比べ 0.2 ポイント下がっています。

図表 1-5-1　現在の幸福度（前回調査比較）

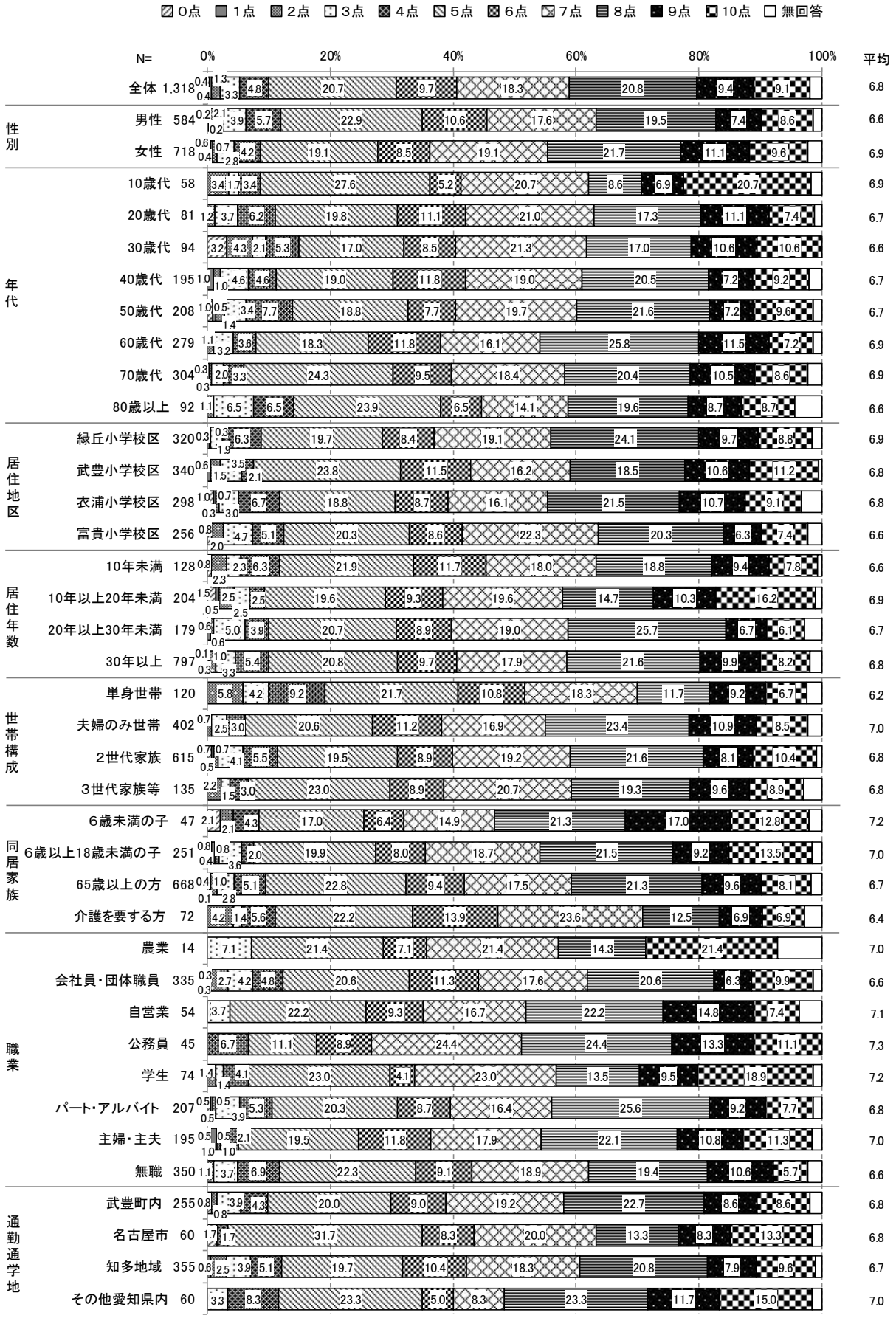


No.	幸福度（評点）	平成 30 年		平成 29 年	平成 27 年
		n	%	%	%
1	０点	5	0.4%	0.4%	
2	１点	5	0.4%	0.4%	
3	２点	17	1.3%	0.7%	
4	３点	43	3.3%	2.8%	
5	４点	63	4.8%	3.5%	
6	５点	273	20.7%	19.2%	
7	６点	128	9.7%	9.5%	
8	７点	241	18.3%	18.5%	
9	８点	274	20.8%	22.6%	
10	９点	124	9.4%	10.2%	
11	10 点	120	9.1%	10.4%	
無回答		25	1.9%	1.8%	
平均点		－	6.8 点	7.0 点	7.0 点
全体		1318	100.0%	100.0%	100.0%

以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○男性では「５点」の 22.9%が、女性では「８点」の 21.7%が最も多くなっています。 ○平均点でみると男性は 6.6 点、女性は 6.9 点で、わずかに女性の方が高くなっています。
年代	○10 歳代では、「５点」の 27.6%に次いで「10 点」が 20.7%と多いことが特徴的です。 ○10 歳代と 70 歳代、80 歳以上では「５点」が最も多く 20%以上を占めています。 ○40 歳代から 60 歳代にかけては「８点」が最も多く 20%以上を占めています。 ○平均点でみると、10 歳代と 60 歳代、70 歳代が 6.9 点で、最も低いのは 30 歳代の 6.6 点となっています。
居住地区	○緑丘小学校区では「８点」が 24.1%と最も多く、武豊小学校区では「５点」が最も多く 23.8%となっています。 ○平均点でみると、緑丘小学校区が 6.9 点、武豊小学校区と衣浦小学校区が 6.8 点、富貴小学校区が 6.6 点です。大きな差異はありません。
居住年数	○居住年数 10 年以上 20 年未満では、「10 点」が 16.2%と相対的に多く、「９点」も 10.3%と多くなっており、平均点も 6.9 点で最も高くなっています。 ○居住年数 10 年未満は平均点が 6.6 点でわずかながら低い傾向がみられます。
世帯構成	○単身世帯では、「４点」が 9.2%、「３点」が 4.2%、「２点」が 5.8%で、低い評点が相対的にやや多く、平均点でみても 6.2 点とかなり低い評価になっています。 ○平均点でみると、夫婦のみ世帯は 7.0 点で最も高くなっています。
同居家族	○子どものいる世帯では、相対的に高い点数を回答した割合が多くなっています。 ○平均点でみると、６歳未満の子がいる世帯は 7.2 点、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では 7.0 点でともに７点を上回っています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「７点」の 23.6%、「５点」の 22.2%が多く、平均点は 6.4 点とやや低くなっています。
職業	○公務員は相対的に高い点数を回答した割合が多く、平均点でも 7.3 点と最も高い値となっています。 ○会社員・団体職員では平均点が 6.6 点で、職業別では最も低くなっています。
通勤通学地	○名古屋市に通勤通学する者は「５点」が 31.7%と特に高いことが特徴的です。 ○武豊町内、知多地域に通勤通学する者は、ともに「８点」が最も多くなっています。 ○平均点でみると、その他愛知県内に通勤通学する者が 7.0 点、武豊町内及び名古屋市に通勤通学する者が 6.8 点、知多地域に通勤通学する者が 6.7 点です。

図表 1-5-2　属性別、現在の幸福度



（２）５年前と比べた幸福感の変化

問９　５年前と比べて、あなたの幸福感に変化はありますか。（１つに○印）

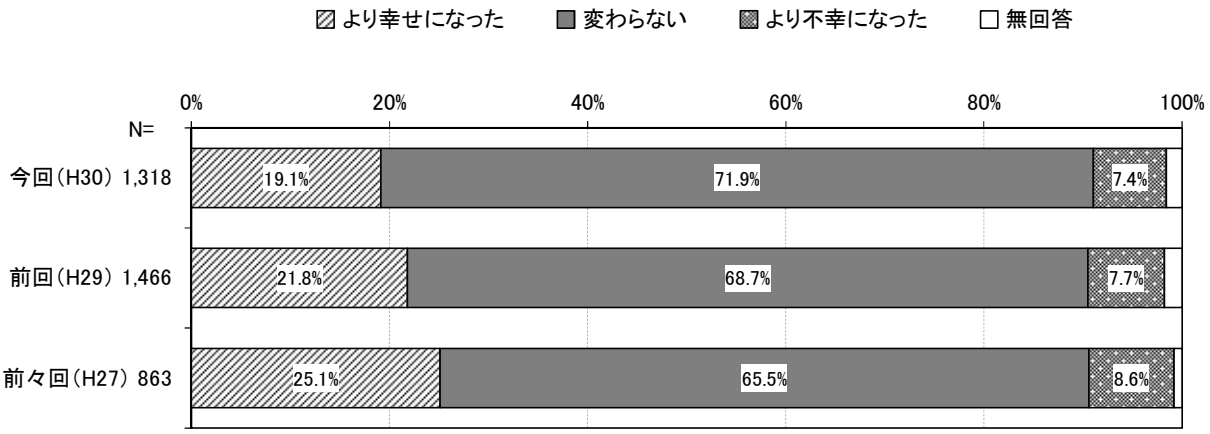
「変わらない」の割合が 71.9％と最も高く、次いで「より幸せになった」の 19.1％、「より不幸になった」の 7.4％となっています。

前回調査（平成 29 年）と比較すると、「変わらない」は 3.2 ポイント増加し、「より幸せになった」は 2.7 ポイント減少しています。また、「より不幸になった」は 0.3 ポイントの減少となっています。

さらに前々回調査（平成 27 年）と比較すると、「変わらない」は 6.4 ポイント増加し、「より幸せになった」は 6.0 ポイント減少しています。また、「より不幸になった」は 1.2 ポイントの減少となっています。

経年的にみると、「より幸せになった」と感じている方の割合が減少する傾向があり、「変わらない」とする方が増えています。

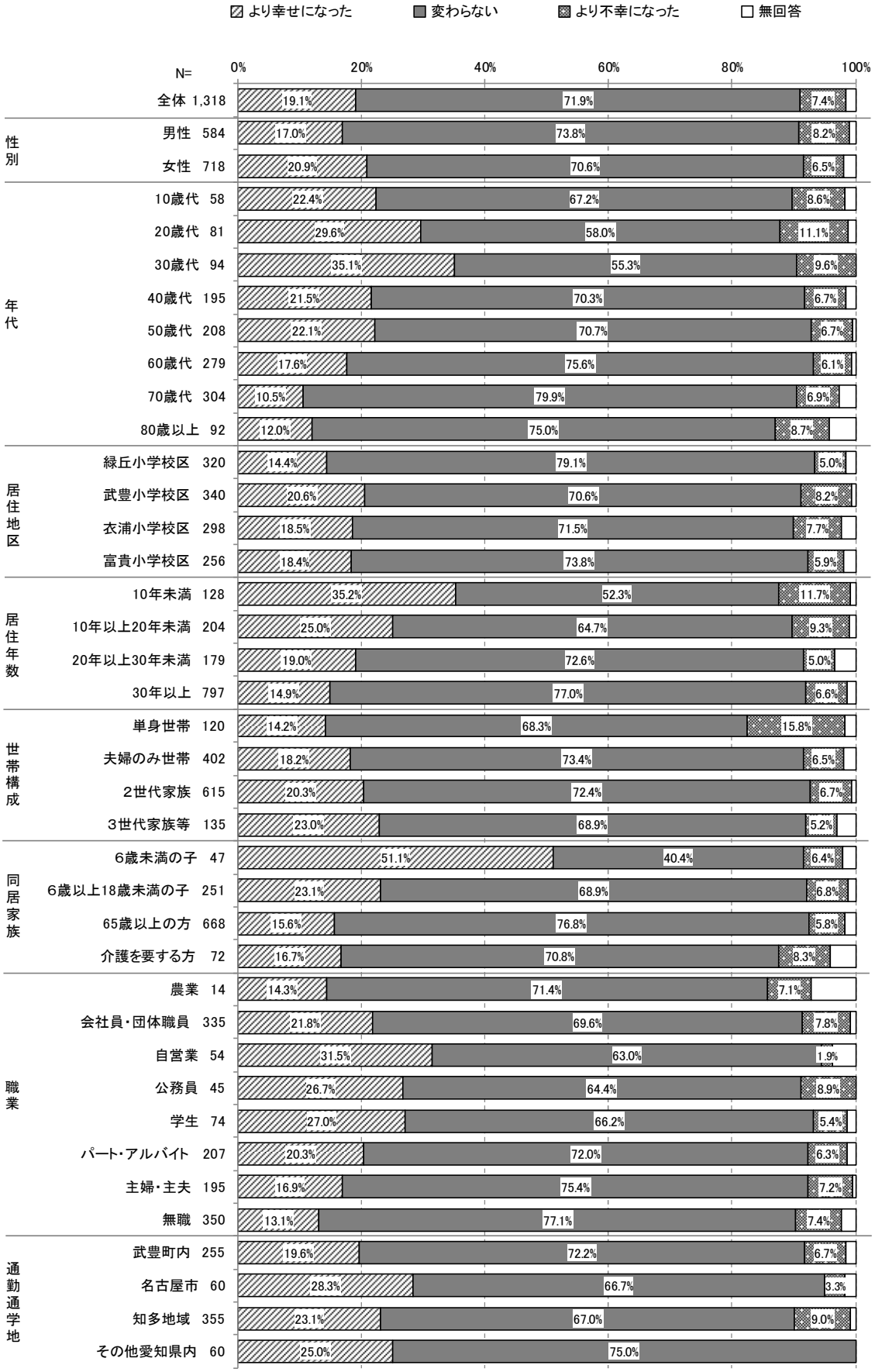
図表 1-5-3　５年前と比べた幸福感の変化（前回調査比較）



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「より幸せになった」は男性の 17.0%に対して女性は 20.9%で、3.9 ポイント女性の方が高くなっています。
年代	○「より幸せになった」の割合が高いのは、30 歳代で 35.1%を占めています。次いで、20 歳代の 29.6%、10 歳代の 22.4%が高く、40 歳代、50 歳代でもそれぞれ 21.5%、22.1%となっており、50 歳代以下はすべての年齢層で 20%以上の方が「より幸せになった」と感じています。
居住地区	○居住地区別では大きな差異はみられませんが、武豊小学校区では「より幸せになった」が 20.6%とやや高く、緑丘小学校区では 14.4%とやや低くなっています。
居住年数	○居住年数が短くなるほど「より幸せになった」の割合が高くなっています。居住年数の短い方は年齢層が若い方が多くなることが要因と考えられます。
世帯構成	○世帯構成では、単身世帯よりも夫婦のみ世帯の方が、夫婦のみ世帯よりも２世代家族の方が、また２世代家族代よりも３世代家族等の方が「より幸せになった」の割合が高くなる傾向がみられます。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「より幸せになった」が 51.1%と非常に高い割合を示しています。幼い子どもの存在が幸福感を大きく変化させる要因となっている様子がうかがえます。
職業	○職業別に「より幸福になった」の割合の高い順をみると、自営業が最も高く 31.5%です。次いで、「学生」の 27.0%、「公務員」の 26.7%となっています。 ○最も低いのは「無職」の 13.1%です。
通勤 通学地	○「より幸福になった」の割合は、名古屋市に通勤通学する者が 28.3%で最も高く、武豊町内に通勤通学する者が 19.6%で最も低くなっています。

図表 1-5-4　属性別、５年前と比べた幸福感の変化

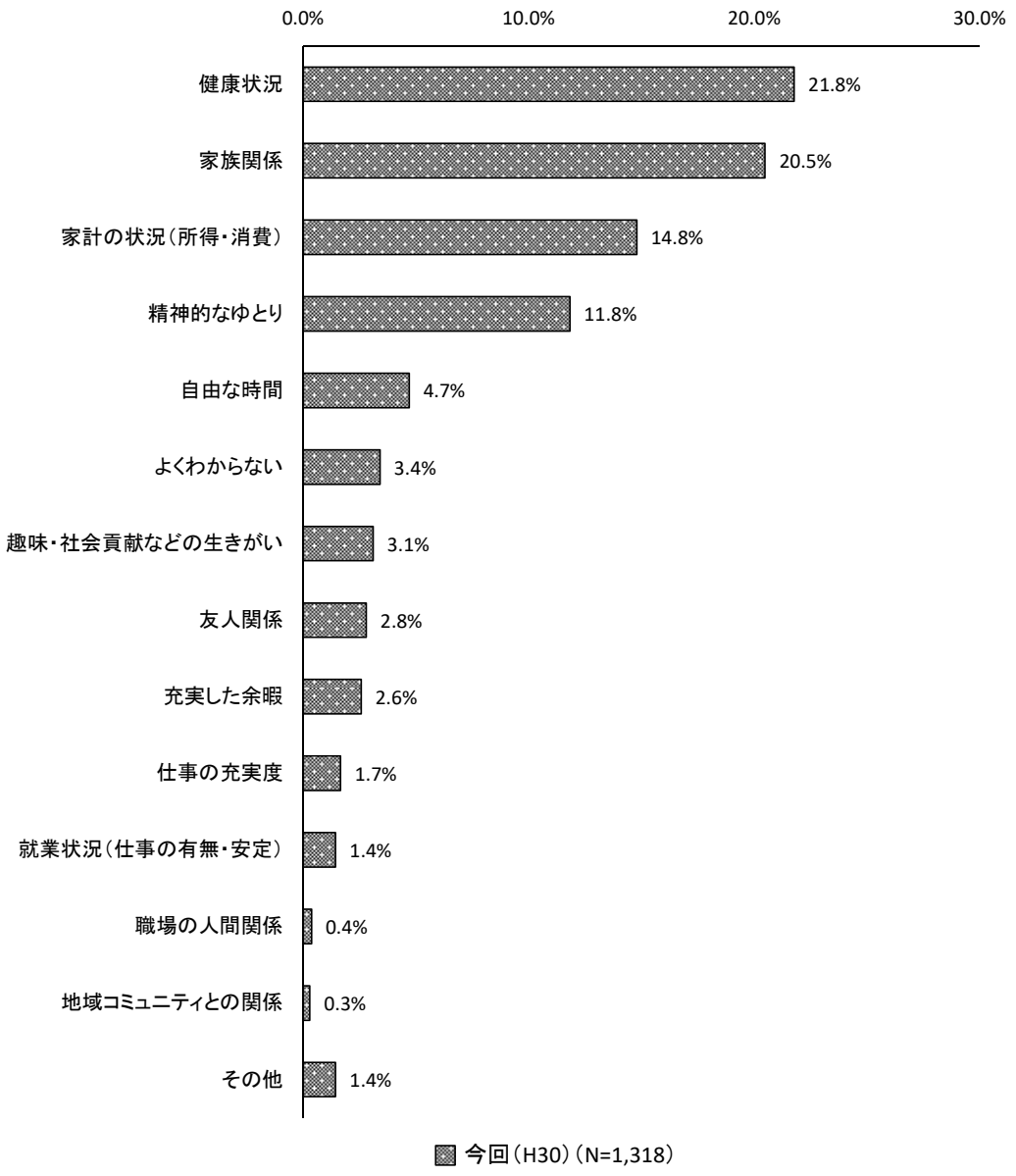


（３）幸福感を判断する際に重視した事項

問 10　問８・９で、あなたが幸福感を判断する際に最も重視した事項は何ですか。
（１つに○印）

幸福感を判断する際に重視した事項としては、「健康状況」が最も多く 21.8%で、次いで、「家族関係」の 20.5%、「家計の状況（所得・消費）」の 14.8%と続いています。「精神的なゆとり」も 11.8%と多く、これら上位４つが幸福感を判断する際に重視した主な事項として上げられます。

図表 1-5-5　幸福感を判断する際に重視した事項



１－６　町民参加・協働のまちづくり

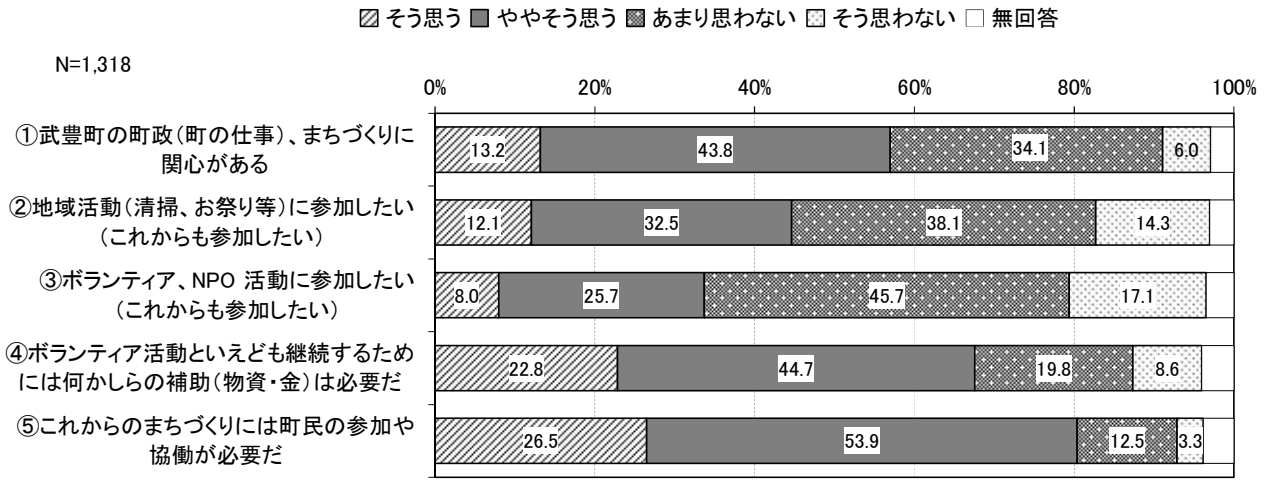
（１）町政・町民参加

問１１　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。
①～⑤のすべての項目について、１～４の中から今のお気持ちに最も近いもの１つに○印をつけてください。
①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある
②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）
④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ
⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ

町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた肯定的な回答をした割合をみていくと、「①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある」は 57.0%、「②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい」は 44.6%、「③ボランティア、ＮＰＯ活動に参加したい」は 33.7%、「④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ」が 67.5%、「⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ」が 80.4%となっています。

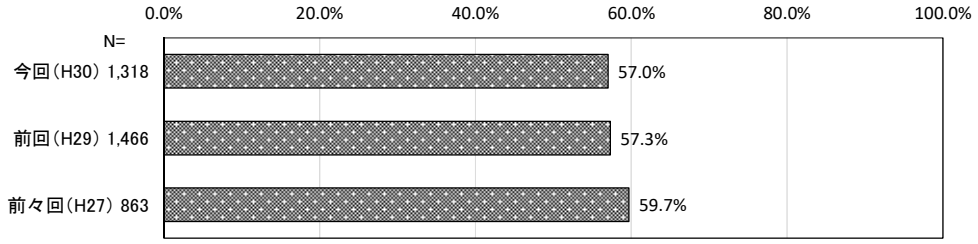
前回調査（平成 29 年）と比較したとき、「②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい」は 48.0%から 44.6%と 3.4 ポイントの減少、「③ボランティア、ＮＰＯ活動に参加したい」は 30.7%から 33.7%と 3.0 ポイントの上昇となっていますが、その他の項目も含めて顕著な変化はみられません。

図表 1-6-1　町政・町民参加

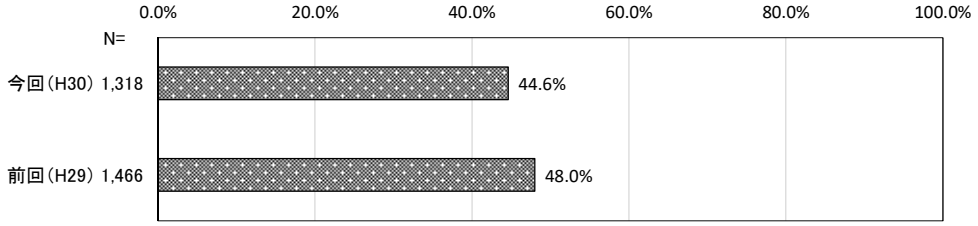


図表 1-6-2　町政・町民参加（前回調査比較）

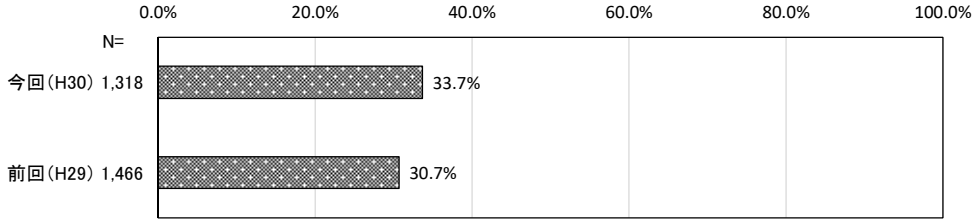
①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある



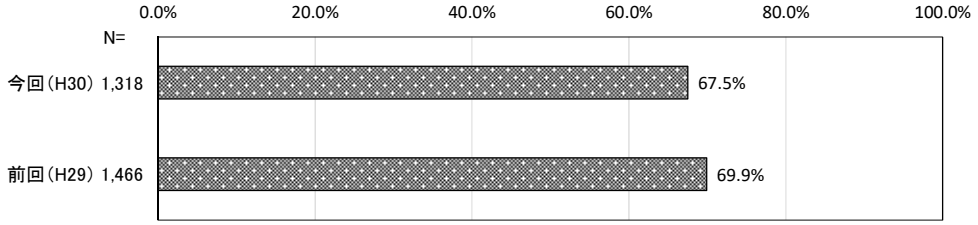
②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）



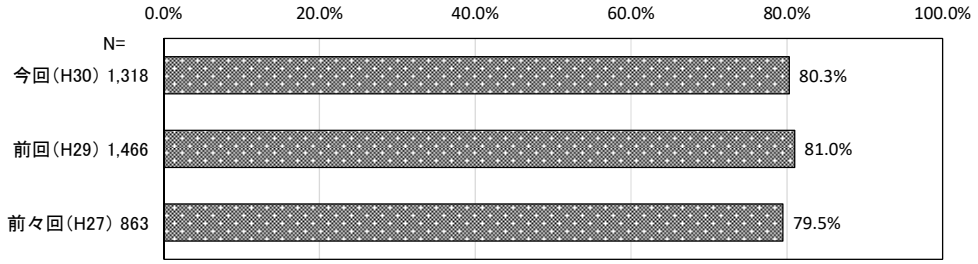
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）



④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ



⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ



※　値は「そう思う」と「ややそう思う」の合計値。　②、③、④については、前々回調査（平成 27 年）は未実施。

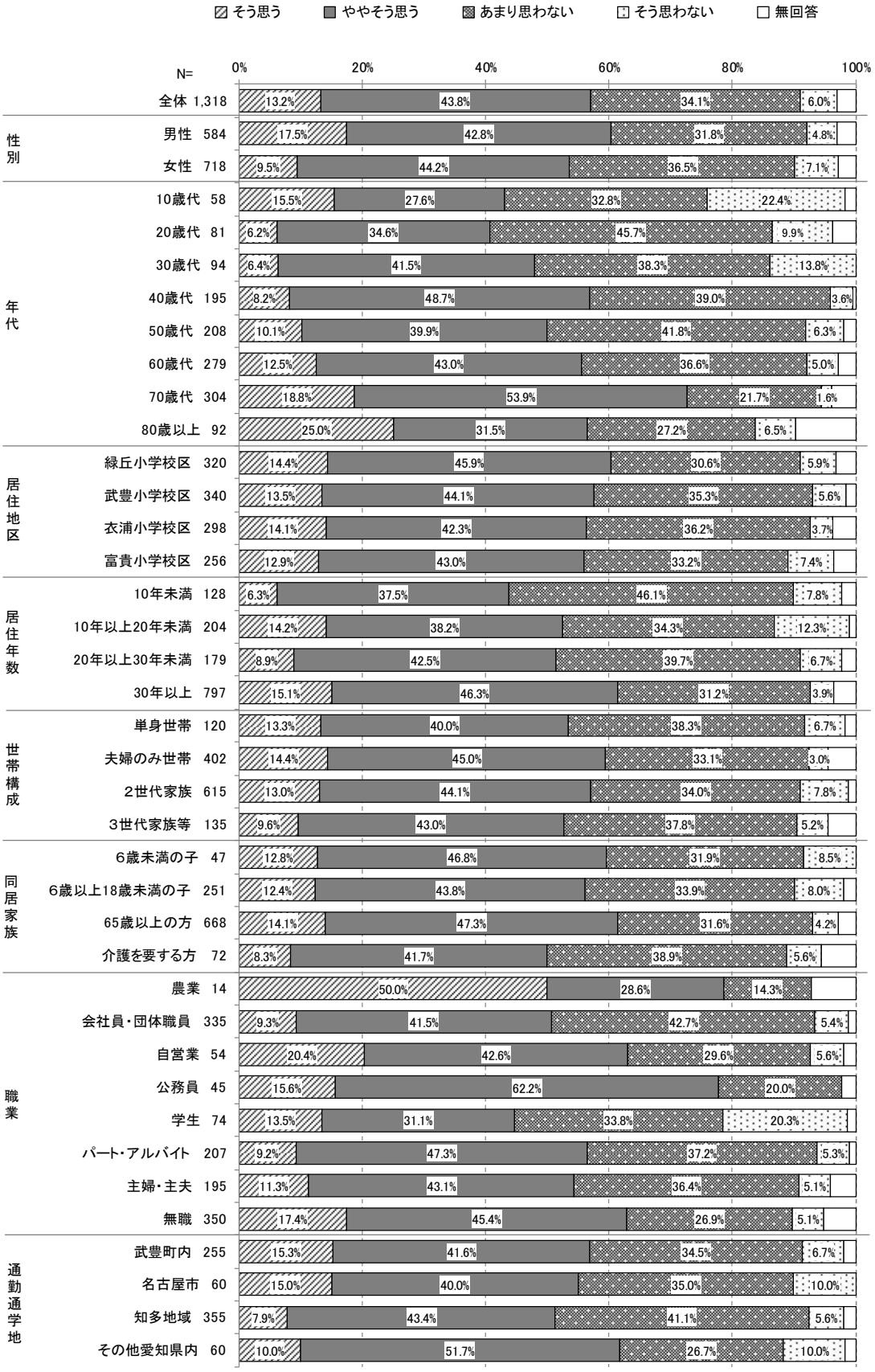
（２）町政への関心

問１１　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。 ①～⑤のすべての項目について、１～４の中から今のお気持ちに最も近いもの１つに○印をつけてください。 ①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある

『①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある』かどうかについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合は男性の 60.3%に対して女性は 53.7%で男性の方が関心は高く、特に「そう思う」では 8.0 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代では、「そう思う」は 15.5%で全体の 13.2%よりも高い割合を示しています。 ○20 歳代では 6.2%と低く、その後年齢層が高くなるにつれて「そう思う」の割合が高くなっています。年齢層が高くなるにつれて町政、まちづくりへの関心が高くなる傾向が顕著に表れています。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○居住年数が 30 年以上では、「そう思う」が 15.1%、「ややそう思う」が 46.3%といずれも全体よりも高くなっています。
世帯構成	○夫婦のみ世帯で、「そう思う」が 14.4%、「ややそう思う」が 45.0%となっており、単身世帯、２世代家族、３世代家族等と比べやや高くなっています。
同居家族	○介護を要する方がいる世帯では、「そう思う」が 8.3%、「ややそう思う」が 41.7%で、町政、まちづくりへの関心はやや低い傾向がみられます。
職業	○農業では「そう思う」が 50.0%と非常に高くなっています。 ○次いで、自営業の 20.4%、無職の 17.4%、公務員の 15.6%が高くなっています。
通勤 通学地	○知多地域に通勤通学する者では、「そう思う」が 7.9%、「ややそう思う」が 43.4%で、町政、まちづくりへの関心はやや低い傾向がみられます。

図表 1-6-3　属性別、町政・町民参加
①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある



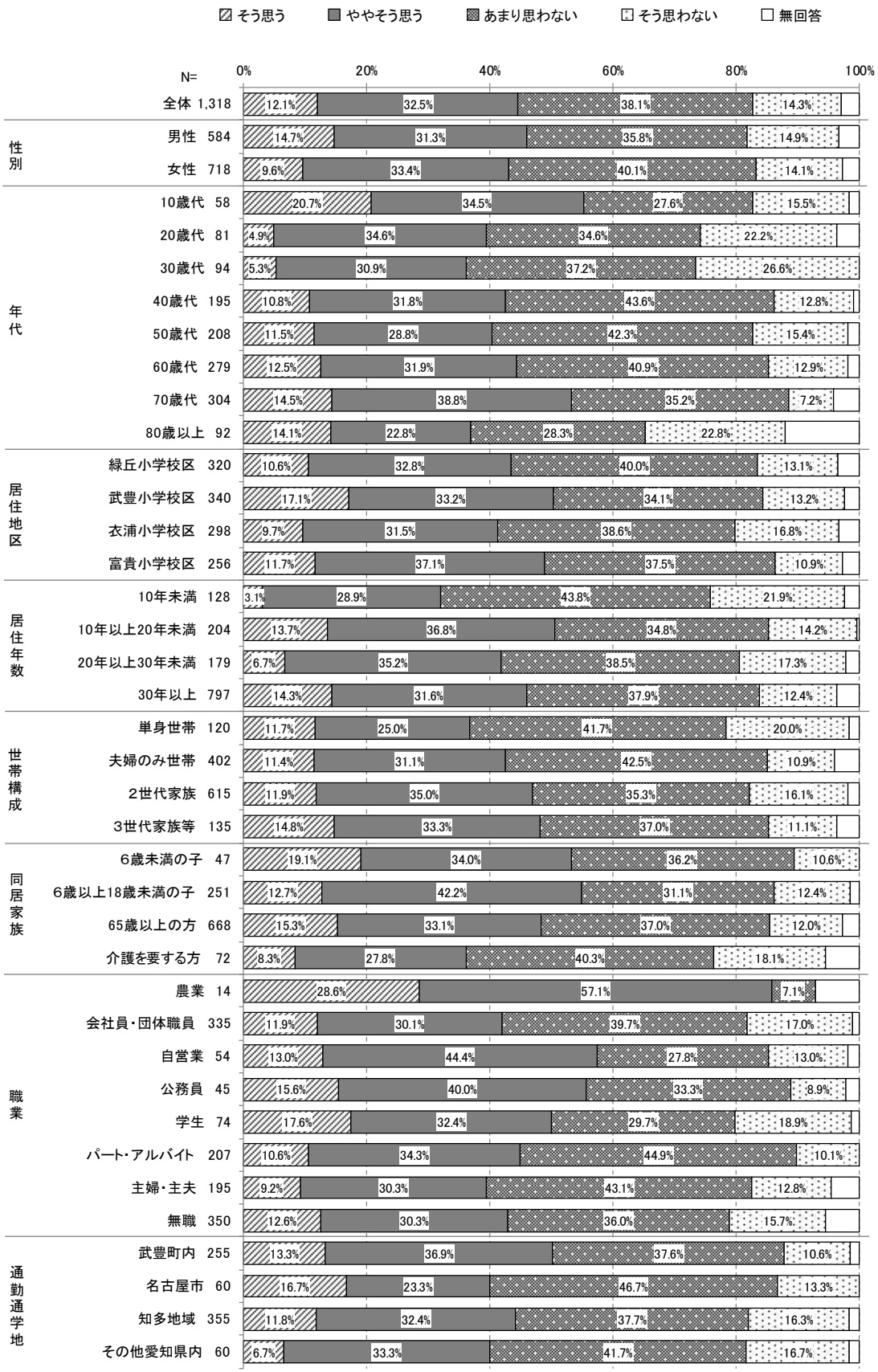
（３）地域活動（清掃、お祭り等）への参加意向

問 11　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。 ①～⑤のすべての項目について、１～４の中から今のお気持ちに最も近いもの１つに○印をつけてください。 ②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）

『②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）』かどうかについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」について、男性は 14.7%、女性は 9.6%で男性の方が 5.1 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代では、「そう思う」が 20.7%で他の世代と比べ特に高くなっています。 ○20 歳代では「そう思う」は 4.9%と低く、その後年齢層が高くなるにつれて「そう思う」の割合が高くなっています。
居住地区	○武豊小学校区で「そう思う」が 17.1%となっており、他の小学校区よりも高い割合を示しています。
居住年数	○「そう思う」は、居住年数が 30 年以上で 14.3%、10 年以上 20 年未満で 13.7%となっており、この両者が高い割合を示しています。
世帯構成	○３世代家族等では、「そう思う」の割合が 14.8%となっており、相対的に高い割合を示しています。
同居家族	○介護を要する方がいる世帯では、「そう思う」が 8.3%、「ややそう思う」が 27.8%で、地域活動への参加にはやや消極的な傾向が表れています。
職業	○農業では「そう思う」が 28.6%と特に高くなっています。 ○次いで、学生の 17.6%、公務員の 15.6%、自営業の 13.0%が高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は、「そう思う」が 16.7%と高くなっています。 ○武豊町内に通勤通学する者は、「そう思う」「ややそう思う」の合計が 50.2%で最も高くなっています。

図表 1-6-4　属性別、町政・町民参加
②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）



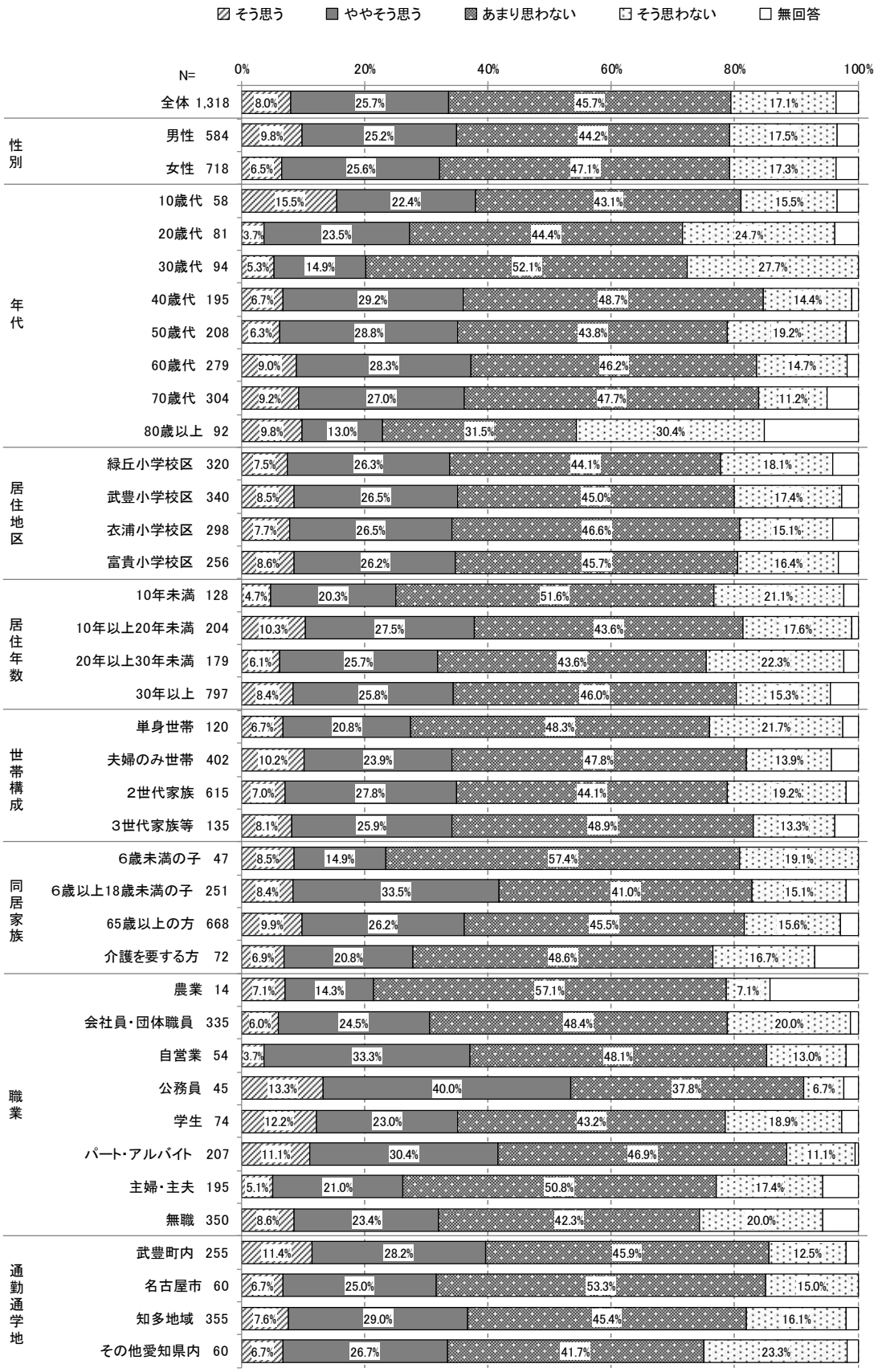
（４）ボランティア、ＮＰＯへの参加意向

問１１　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。
①～⑤のすべての項目について、１～４の中から今のお気持ちに最も近いもの１つに○印をつけてください。
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）

『③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）』かどうかについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」について男性は 9.8%、女性は 6.5%で、男性の方がやや高くなっています。
年代	○10 歳代では「そう思う」が 15.5%で、他の世代と比べ特に高くなっています。 ○20 歳代では「そう思う」は 3.7%と低く、その後年齢層が高くなるにつれて「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられます。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○「そう思う」は居住年数 10 年以上 20 年未満で 10.3%となっており、やや高い傾向がみられます。
世帯構成	○「そう思う」は夫婦のみ世帯で 10.2%となっており、やや高い傾向がみられます。
同居家族	○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合が 41.9%でやや高い傾向がみられます。
職業	○公務員では、「そう思う」「ややそう思う」の合計が 53.3%で、５割を超える高い割合を示しています。
通勤 通学地	○武豊町内に通勤通学する者では、「そう思う」が 11.4%でやや高くなっています。

図表 1-6-5　属性別、町政・町民参加
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）



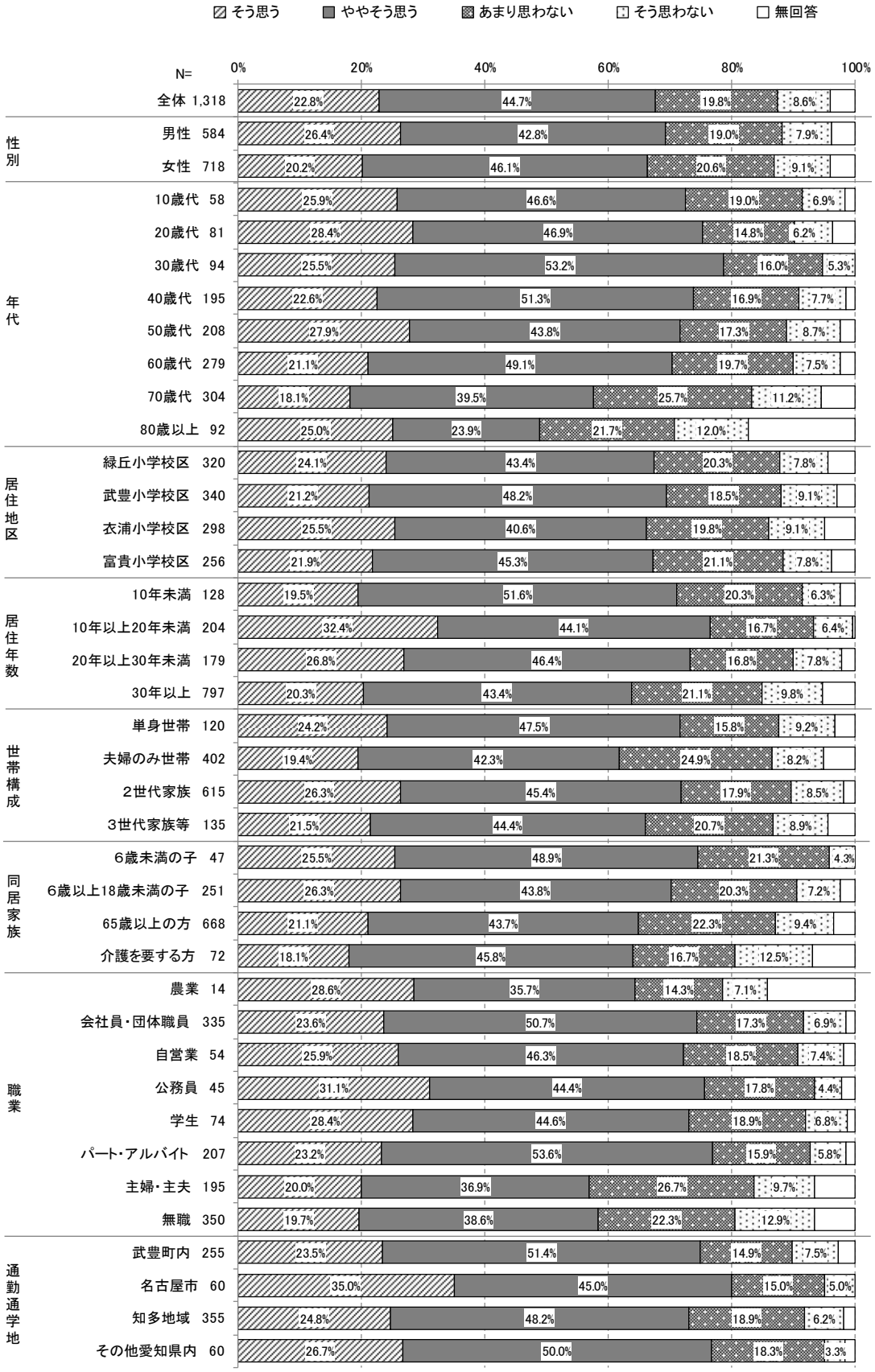
（５）ボランティアへの補助（物資・金）の必要性

問１１　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。
①～⑤のすべての項目について、１～４の中から今のお気持ちに最も近いもの１つに○印をつけてください。
④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ

『④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ』に対する考え方について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」は、男性の 26.4%に対して女性は 20.2%で、男性の方が 6.2 ポイント高くなっています。
年代	○「そう思う」は年代によりばらつきがみられます。 ○「そう思う」と「ややそう思う」の合計は、30 歳代で 78.7%、20 歳代で 75.3%、40 歳代で 73.9%となっており、20～40 歳代で高い傾向がみられます。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○10 年以上 20 年未満では、「そう思う」が 32.4%、「ややそう思う」が 44.1%で、両者の合計は 76.5%と最も高くなっています。
世帯構成	○「そう思う」は２世代家族で 26.3%、単身世帯で 24.2%とやや高くなっています。 ○「そう思う」と「ややそう思う」の合計でも、単身世帯と２世代家族はともに 71.7%を占めており、相対的に高い割合を示しています。
同居家族	○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では「そう思う」が 26.3%と高く、６歳未満の子がいる世帯でも 25.5%と高い割合を示しています。
職業	○「そう思う」は、公務員の 31.1%が最も高く、次いで農業の 28.6%、学生の 28.4%、自営業の 25.9%となっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者では、「そう思う」が 35.0%と相対的に特に高い割合を示しています。

図表 1-6-6　属性別、町政・町民参加
④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ



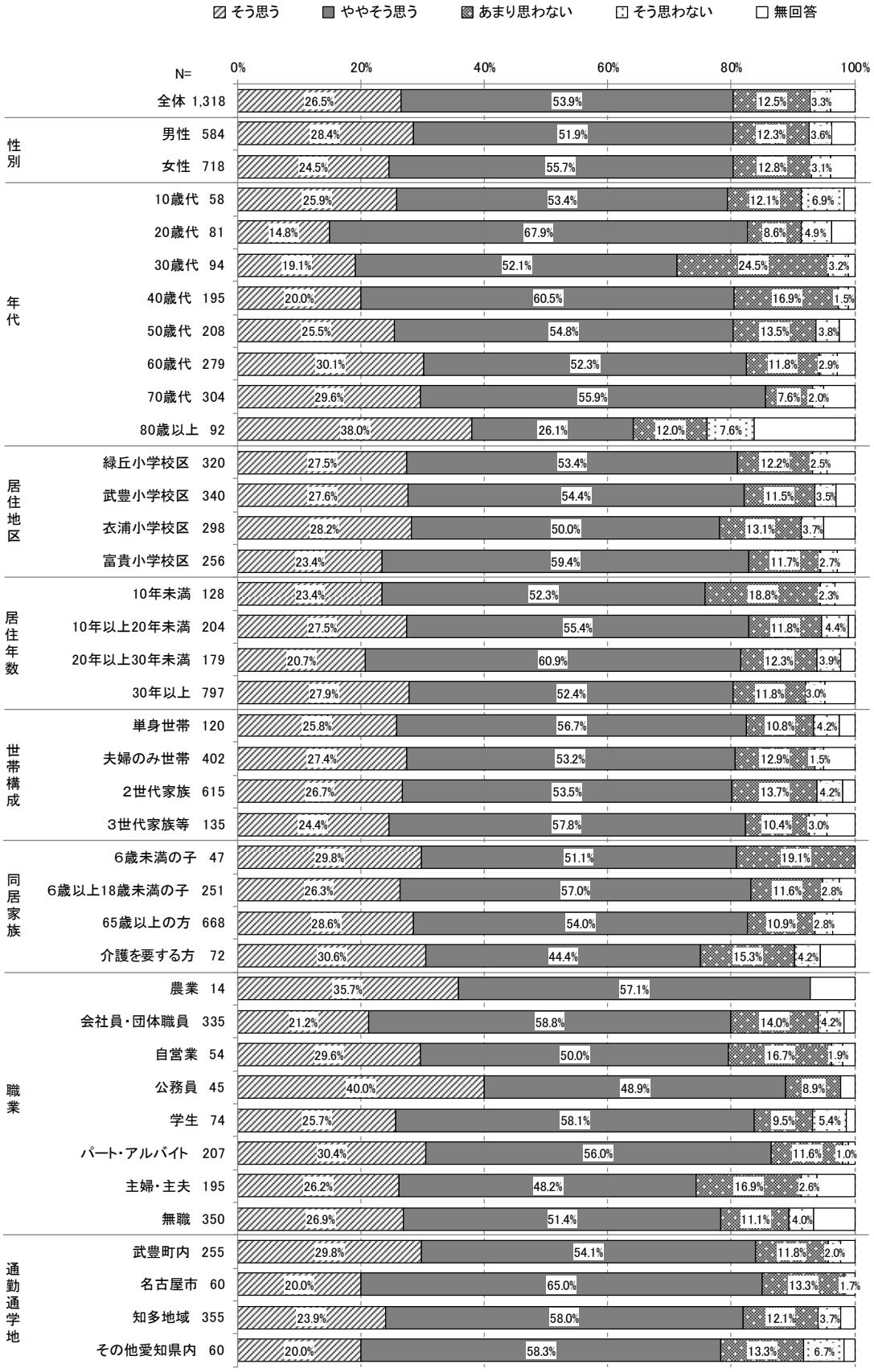
（６）町民の参加や協働の必要性

問 11　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。 ①～⑤のすべての項目について、１～４の中から今のお気持ちに最も近いもの１つに○印をつけてください。 ⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ

『⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ』に対する考え方について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」と「ややそう思う」の合計は男性 80.3%、女性 80.2%で大差はありませんが、「そう思う」は男性 28.4%に対して女性は 24.5%で、わずかに男性の方が高くなっています。
年代	○10 歳代では「そう思う」が 25.9%で、全体の 26.5%に近い割合を示しています。 ○20 歳代では「そう思う」は 14.8%と低く、その後年齢層が高くなるにつれて「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられます。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○「そう思う」は居住年数が 30 年以上で 27.9%、10 年以上 20 年未満で 27.5%となっており、この両者が高い割合を示しています。
世帯構成	○世帯構成による顕著な差異はみられません。
同居家族	○「そう思う」は介護を要する方がいる世帯では 30.6%、６歳未満の子がいる世帯では 29.8%で、この両者は「そう思う」の割合がやや高くなっています。 ○「そう思う」と「ややそう思う」の合計では、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯が 83.3%、65 歳以上の方がいる世帯が 82.6%で、この両者がやや高い傾向がみられます。
職業	○「そう思う」は公務員で 40.0%、農業で 35.7%となっており、この両者では高い割合を示しています。
通勤 通学地	○武豊町内に通勤通学する者は、「そう思う」が 29.8%とやや高くなっています。

図表 1-6-7　属性別、町政・町民参加
⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ



１－７　町の魅力・イメージ

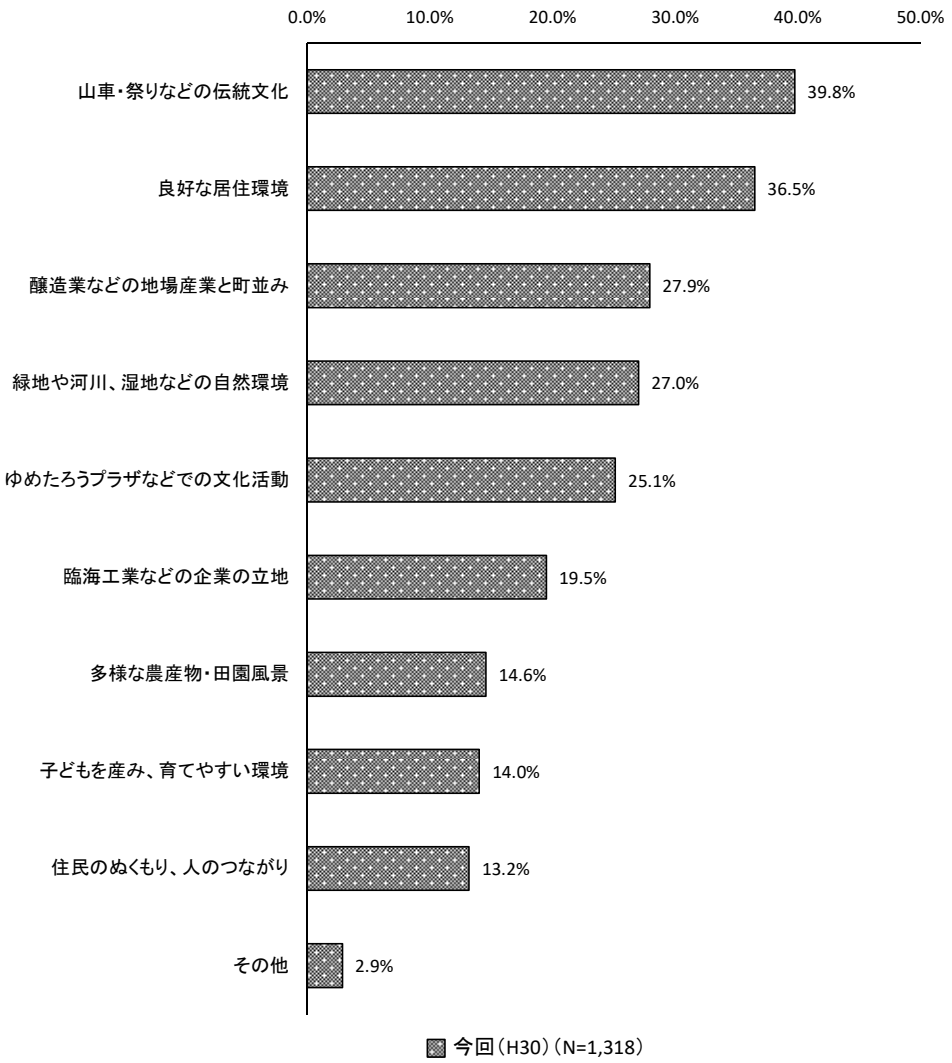
（１）町の魅力、自慢できること

問１２　あなたは、武豊町の魅力、自慢できると思うことは何ですか。（３つまでに○印）

武豊町の魅力、自慢できると思うことについては、「山車・祭りなどの伝統文化」が 39.8%で最も多くなっています。これに「良好な居住環境」の 36.5%が続いており、この２つが３割以上の回答を得ています。

さらに、「醸造業などの地場産業と町並み」の 27.9%、「緑地や河川、湿地などの自然環境」の 27.0%、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」の 25.1%が続いています。

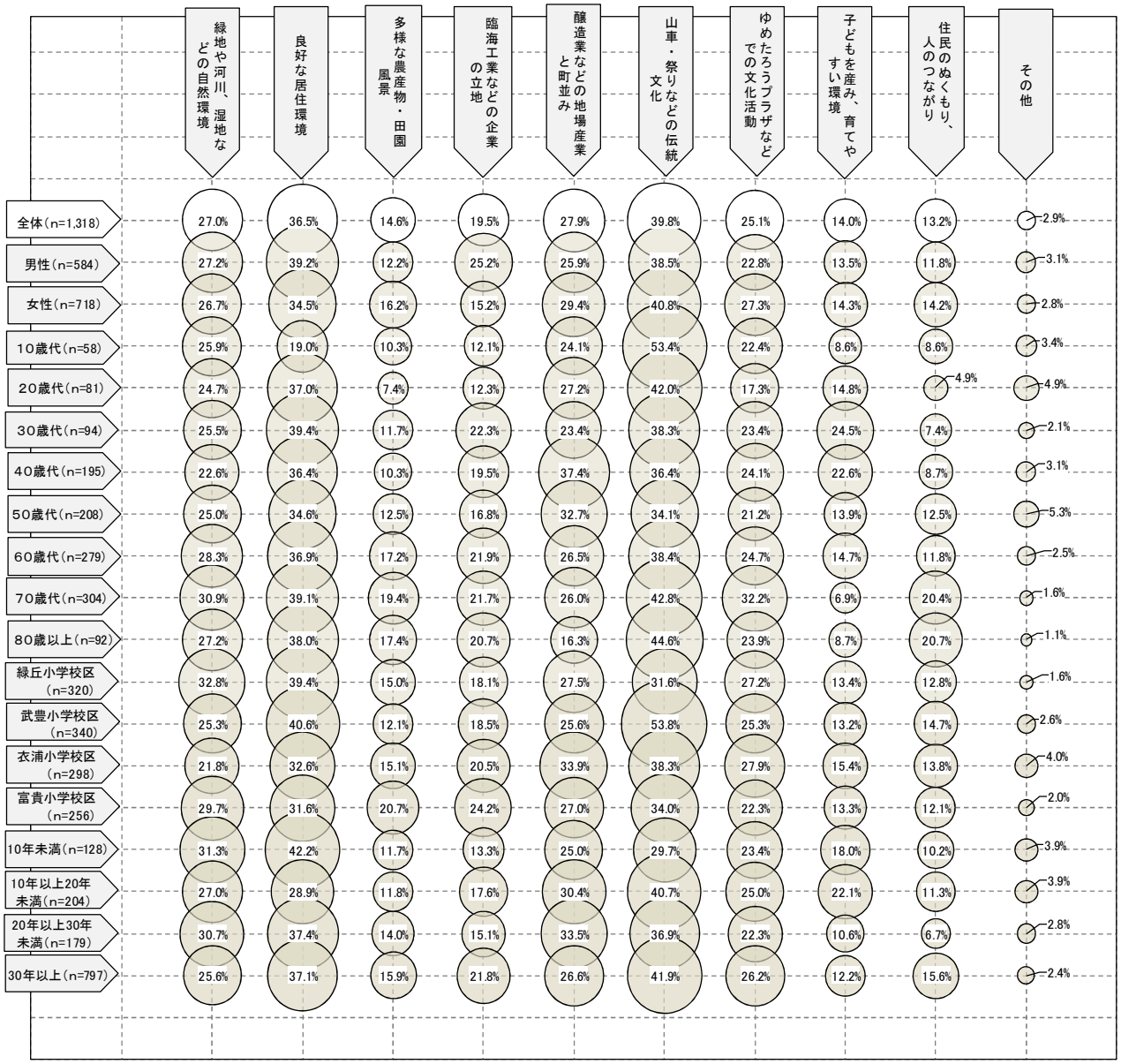
図表 1-7-1　町の魅力、自慢できること



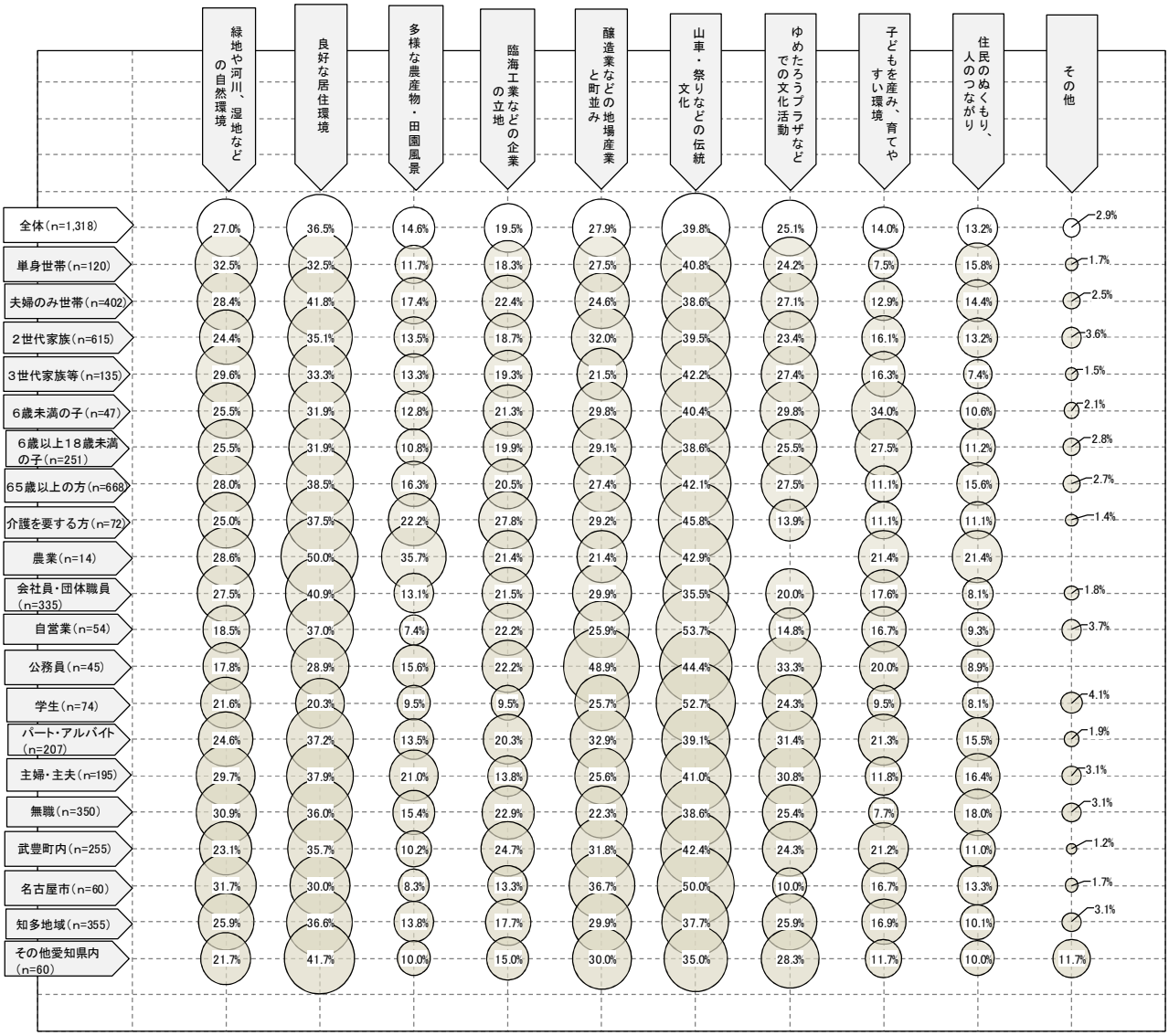
以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「良好な居住環境」は男性 39.2%、女性 34.5%で、男性が 4.7 ポイント上回っています。また、「臨海工業などの企業の立地」では男性 25.2%に対し女性 15.2%で、男性の方が 10 ポイント上回っています。 ○「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」は女性の 27.3%に対し男性は 22.8%で、これは女性の方が 4.5 ポイント上回っています。
年代	○「山車・祭りなどの伝統文化」はすべての年代において高い回答となっていますが、30 歳代、40 歳代、50 歳代では、「良好な居住環境」がそれぞれ 39.4%、36.4%、34.6%となっており、「山車・祭りなどの伝統文化」と同等か若干上回る値となっています。 ○40 歳代では、「醸造業などの地場産業と町並み」の 37.4%が最も多くなっています。 ○30 歳代、40 歳代では、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ 24.5%、22.6%で、20%台の比較的高い割合を示しています。 ○70 歳代では、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」が 32.2%となり、他の年代と比較すると最も高くなっています。また、「住民のぬくもり、ひとのつながり」は 70 歳代で 20.4%、80 歳以上で 20.7%と相対的に高くなっています。
居住地区	○武豊小学校区と緑丘小学校区では、「良好な居住環境」がそれぞれ 40.6%、39.4%で、相対的にやや高い割合を示しています。 ○武豊小学校区では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 53.8%となっており、全体と比べ 14.0 ポイントも高い割合を示しています。 ○衣浦小学校区では、「醸造業などの地場産業と町並み」が 33.9%で、全体と比べ 6.0 ポイント高くなっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「良好な居住環境」が 42.2%で最も高くなっています。 ○居住年数 10 年以上 20 年未満及び 30 年以上では、「山車・祭りなどの伝統文化」がそれぞれ 40.7%、41.9%となり、４割を超えるやや高い割合を示しています。
世帯構成	○夫婦のみ世帯では、「良好な居住環境」が 41.8%で最も高くなっています。 ○世帯構成の違いによる顕著な差異はみられません。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ 34.0%、27.5%と高くなっています。
職業	○農業と会社員・団体職員では、「良好な居住環境」がそれぞれ 50.0%、40.9%で最も高くなっています。 ○公務員では、「醸造業などの地場産業と町並み」が 48.9%で最も高くなっています。 ○学生では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 52.7%と非常に高い割合を示しています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は「山車・祭りなどの伝統文化」が 50.0%と全体とっ比べ 10.2 ポイント高い割合を示しています。また、これに次いで多いのは「醸造業などの地場産業と町並み」の 36.7%で、これも全体と比べ 8.8 ポイント高くなっています。

図表 1-7-2　属性別、町の魅力、自慢できること　（1／2）



図表 1-7-2　属性別、町の魅力、自慢できること　（２／２）

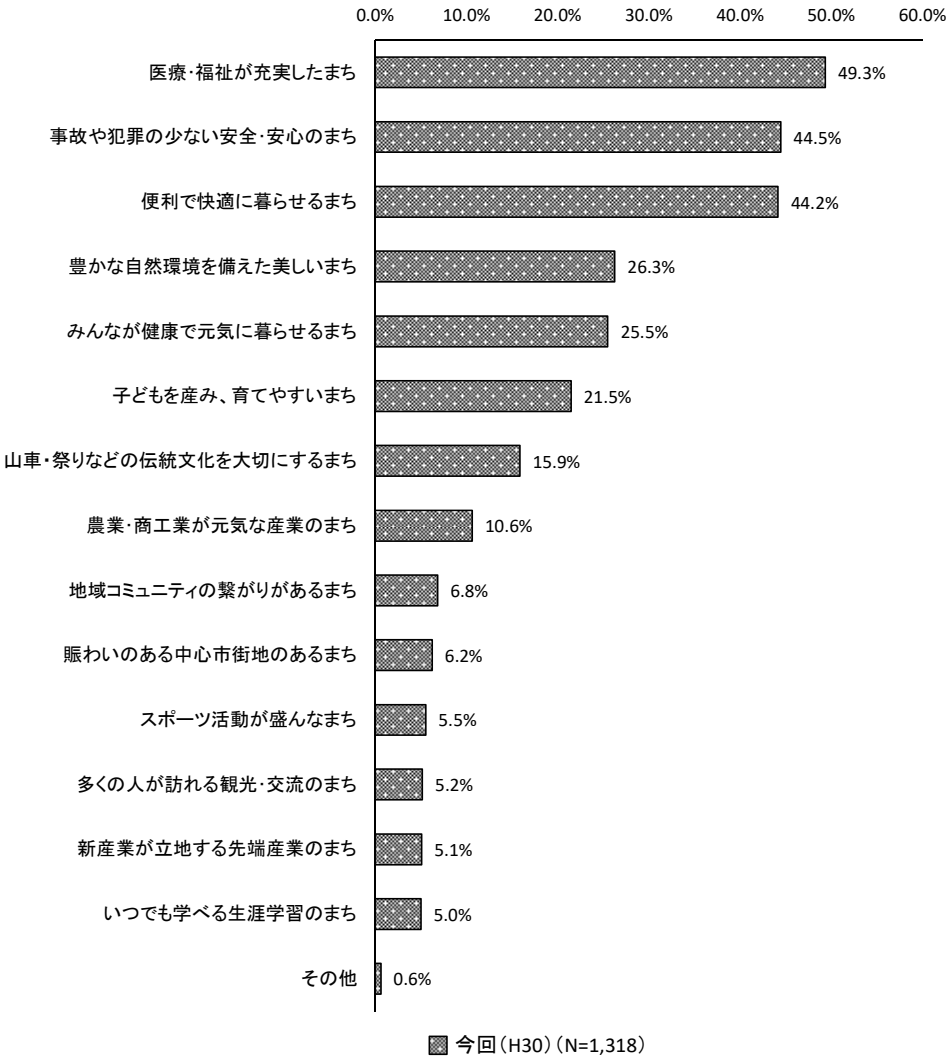


（２）将来の町のイメージ

問１３　あなたは、将来の武豊町のイメージとして、どのようなまちをめざすべきだと思いますか。（３つまでに○印）

将来の町のイメージについては、「医療・福祉が充実したまち」が 49.3%で最も多くなっています。次いで、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」の 44.5%、「便利で快適に暮らせるまち」の 44.2%が続いており、この３つが４割を超える高い回答を得ています。

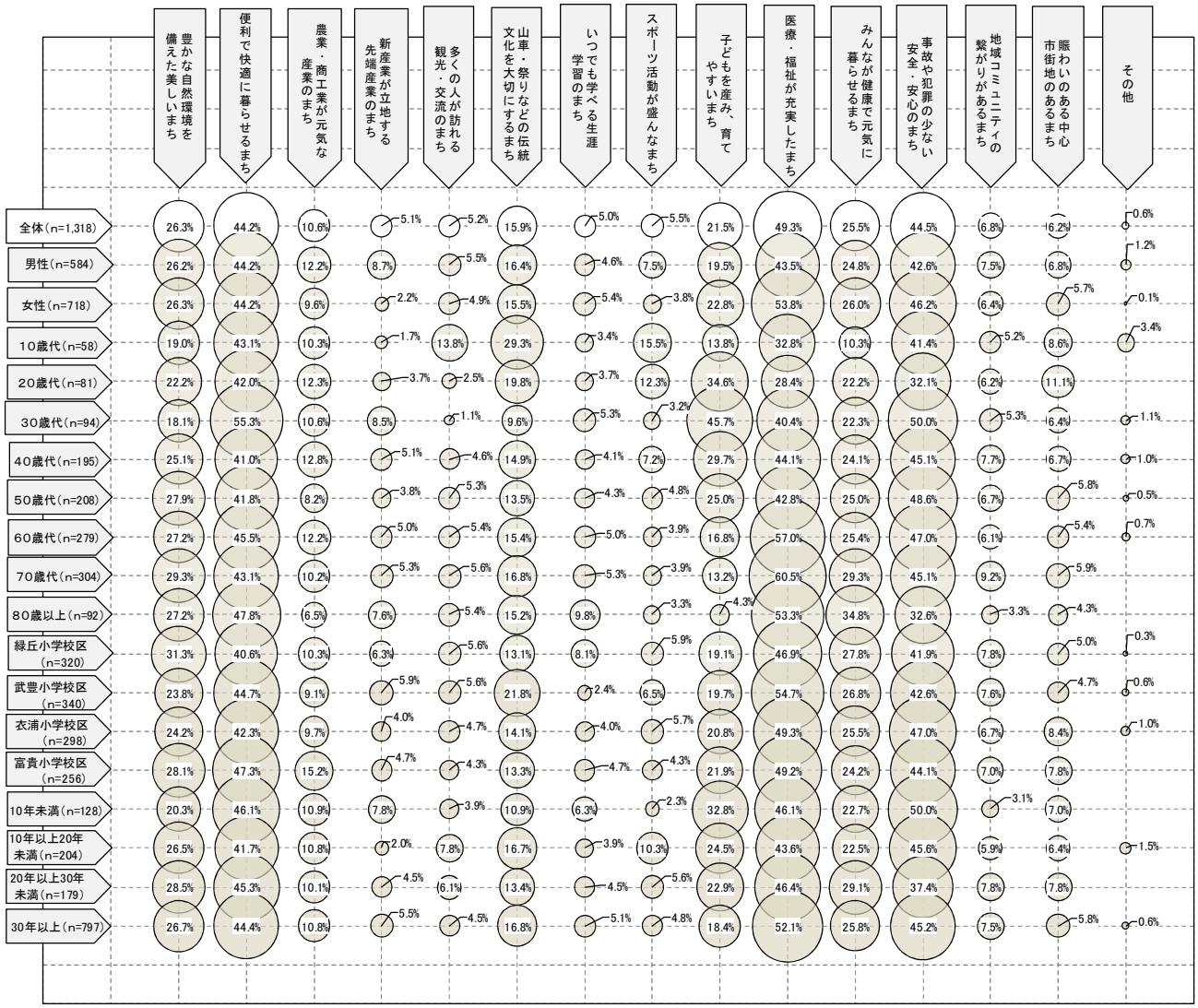
図表 1-7-3　将来の町のイメージ



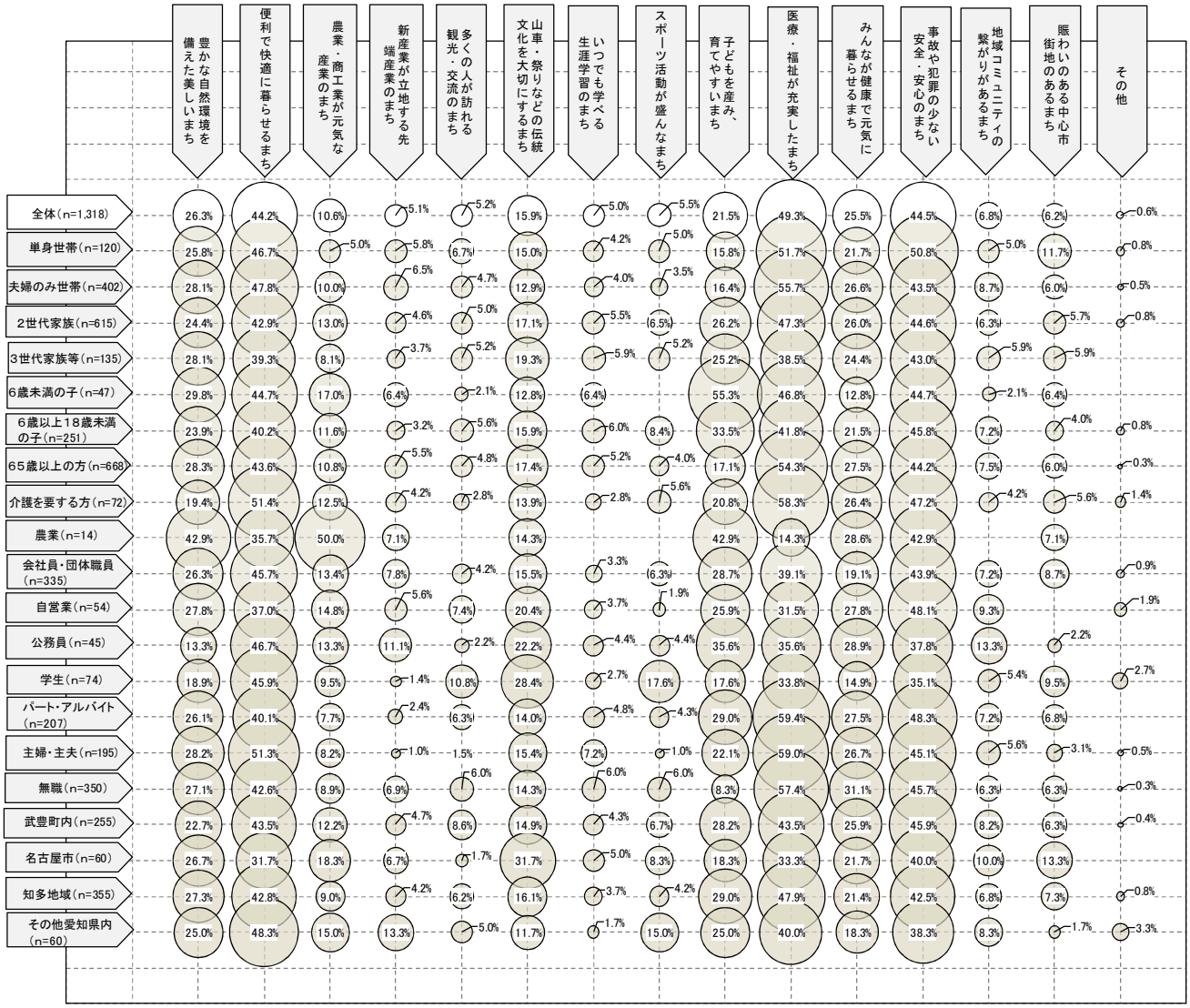
以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「医療･福祉が充実したまち」は女性が 53.8%、男性が 43.5%で、女性の方が 10.3 ポイント上回っています。
年代	○10 歳代、20 歳代、30 歳代では、「便利で快適に暮らせるまち」が最も多く、特に 30 歳代では 55.3%と５割以上の高い割合を示しています。また、20 歳代、30 歳代では「子どもを産み、育てやすいまち」がそれぞれ 34.6%、45.7%で相対的に高い割合を示しています。 ○40 歳代、50 歳代になると、「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」が最も多くなり、それぞれ 45.1%、48.6%となっています。 ○60 歳代、70 歳代、80 歳以上になると、「医療･福祉が充実したまち」が最も多くなり、順に 57.0%、60.5%、53.3%となっています。
居住地区	○いずれの小学校区でも、最も多いのは「医療･福祉が充実したまち」で、次いで「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」、「便利で快適に暮らせるまち」が第２位もしくは第３位となっており、居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○いずれの居住年数でも、「医療･福祉が充実したまち」、「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」、「便利で快適に暮らせるまち」が上位３位を占めています。 ○居住年数 10 年未満では、「子どもを産み、育てやすいまち」が 32.8%でやや高い割合を示しています。
世帯構成	○夫婦のみ世帯では「医療･福祉が充実したまち」は 55.7%であるのに対して、３世代家族等のそれは 38.5%で、17.2 ポイントの大きな差異がみられます。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「子どもを産み、育てやすいまち」が 55.3%で最も多くなっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯ならびに介護を要する方がいる世帯では、「医療･福祉が充実したまち」がそれぞれ 54.3%、58.3%で最も高くなっています。
職業	○農業では、「農業･商工業が元気な産業のまち」が 50.0%で最も多くなっています。 ○会社員・団体職員、公務員、学生では、「便利で快適に暮らせるまち」がそれぞれ 45.7%、46.7%、45.9%で最も高くなっています。 ○自営業では「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」が 48.1%で最も多く、パート・アルバイト、主婦・主夫、無職では、「医療･福祉が充実したまち」がそれぞれ 59.4%、59.0%、57.4%で最も多くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にするまち」が 31.7%と、その他と比べ高い割合を示していることが特徴的です。

図表 1-7-4　属性別、将来の町のイメージ　（1／2）



図表 1-7-4　属性別、将来の町のイメージ　（２／２）



１－８　今後のまちづくり

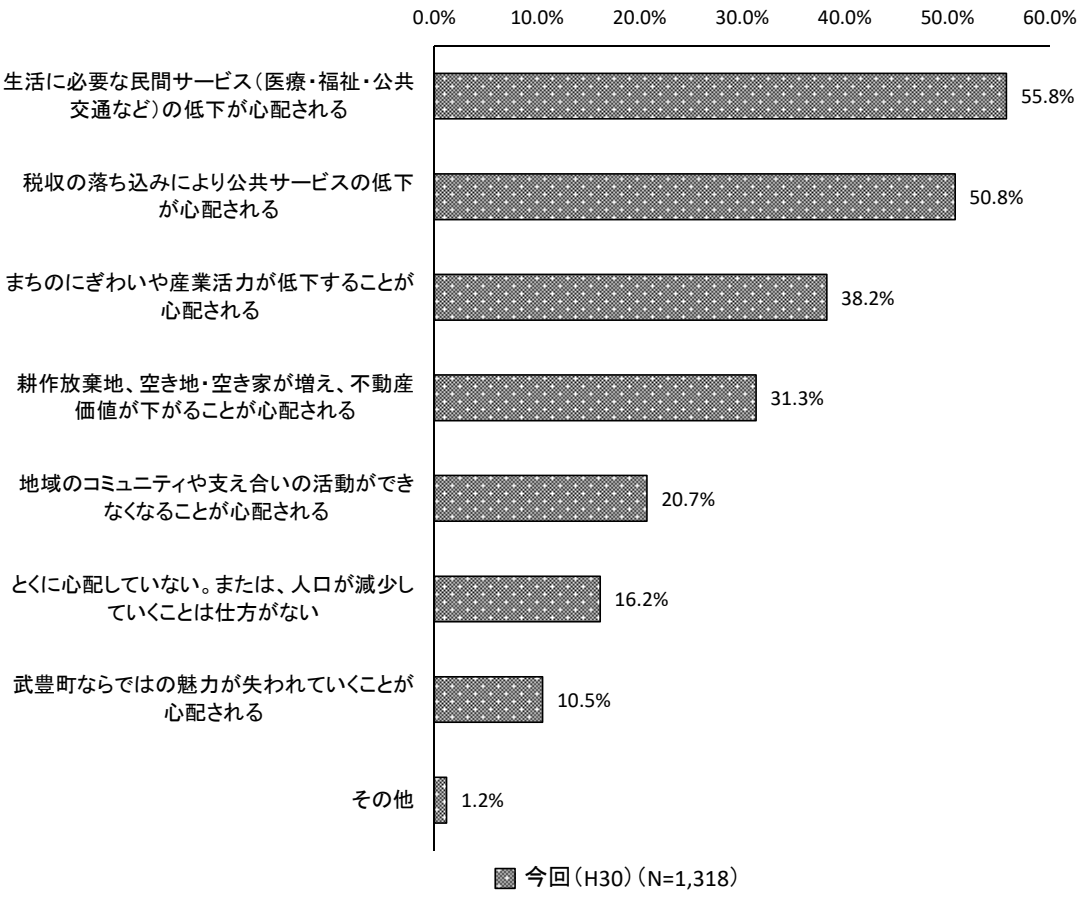
（１）人口減少で心配されること

問１４　全国的に少子高齢化が進む中にあって、武豊町でも人口減少を迎えることが確実となっています。あなたは町の人口が減少することに対してどのようなことをお考えですか。（３つまでに○印）

人口減少で心配されることとしては、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が 55.8%で最も多くなっています。これに「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」の 50.8%が続いており、この２つが５割以上の回答を得ています。

さらに、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が 38.2%、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」が 31.3%と続いています。

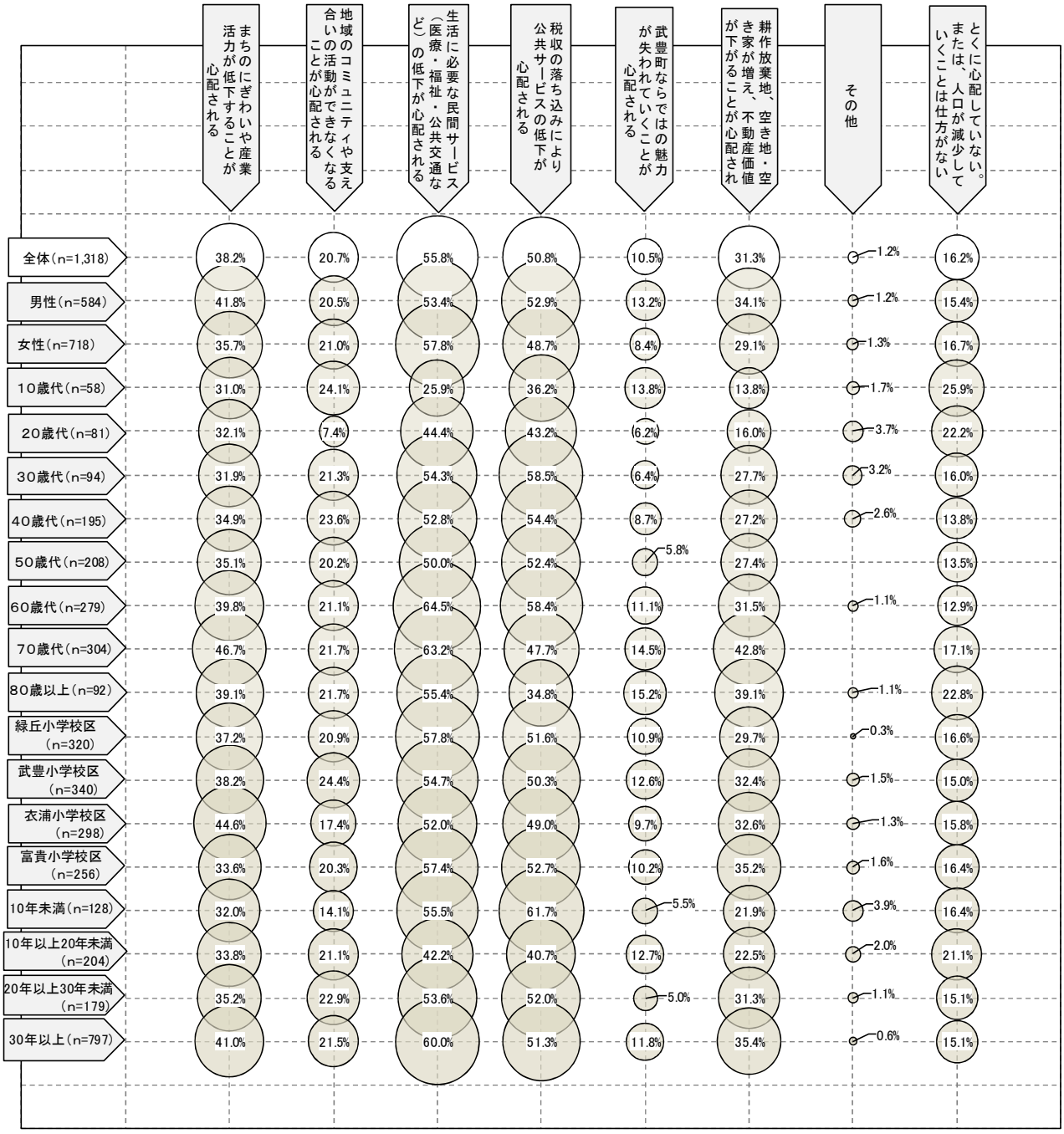
図表 1-8-1　人口減少で心配されること



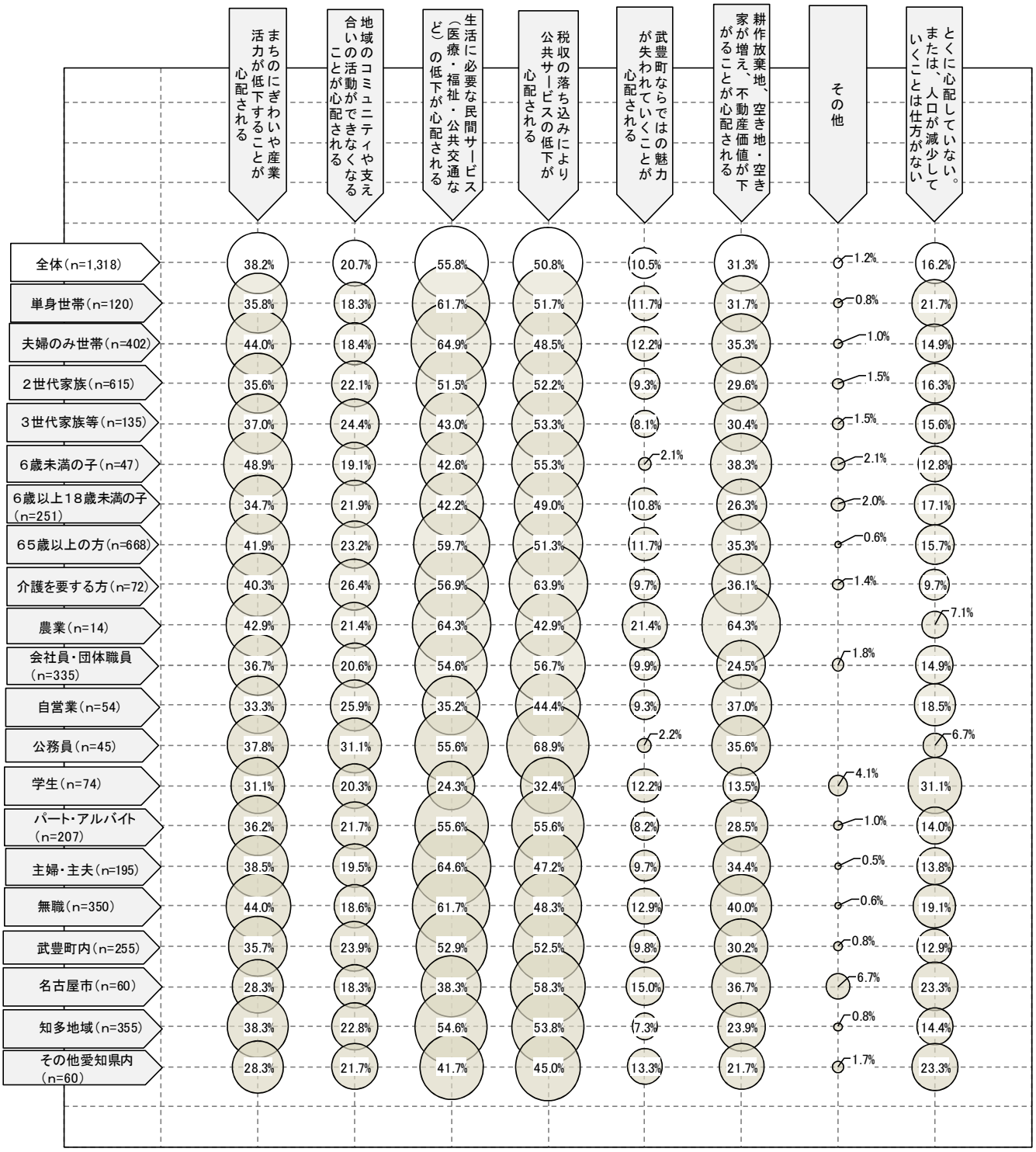
以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」は女性の方が 4.4 ポイント高く、逆に「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」は男性の方が 4.2 ポイント高くなっています。 ○「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」や「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」でも男性の方がそれぞれ 6.1 ポイント、5.0 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代、20 歳代では、「とくに心配していない。または、人口が減少していくことは仕方がない」が 25.9%、22.2%で相対的に多くなっています。 ○30 歳代、40 歳代、50 歳代では、いずれも「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が最も多く、順に 58.5%、54.4%、52.4%と５割以上となっています。 ○60 歳代、70 歳代、80 歳以上になると、「生活に必要な民間サービスの低下」が最も多くなり、順に 64.5%、63.2%、55.4%となっています。 ○70 歳代、80 歳以上では、「まちのにぎわいや産業活力の低下」や「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がる」も相対的に多くなっています。
居住地区	○衣浦小学校区で、「まちのにぎわいや産業活力の低下」がやや高くなっていますが、居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○居住年数 10 年以上 20 年未満では、「生活に必要な民間サービスの低下」が 42.2%、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が 40.7%で、全体と比べそれぞれ 13.6 ポイント、10.1 ポイント低くなっています。また、「とくに心配していない。人口減少は仕方がない」が 21.1%でやや高くなっています。
世帯構成	○夫婦のみ世帯と単身世帯では、「生活に必要な民間サービスの低下」がそれぞれ 64.9%、61.7%とやや高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「まちのにぎわいや産業活力の低下」が 48.9%で全体と比べ 10.7 ポイント高くなっています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が 63.9%で、全体と比べ 13.1 ポイントも高くなっています。
職業	○農業では、「生活に必要な民間サービスの低下」と「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がる」がともに 64.3%で最も多くなっています。 ○公務員では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が 68.9%で全体と比べ 18.1 ポイントも高くなっています。 ○主婦・主夫と無職では、最も多いのは「生活に必要な民間サービスの低下」で、それぞれ 64.6%、61.7%と全体と比べ 8.8 ポイント、5.9 ポイント高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が 58.3%とやや高く、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がる」や「とくに心配していない。人口減少は仕方がない」もやや高くなっています。 ○また、「生活に必要な民間サービスの低下」が 38.3%、「まちのにぎわいや産業活力の低下」が 28.3%と全体と比べかなり低いことも特徴的です。

図表 1-8-2　属性別、人口減少で心配されること　（1／2）



図表 1-8-2　属性別、人口減少で心配されること　（2／2）



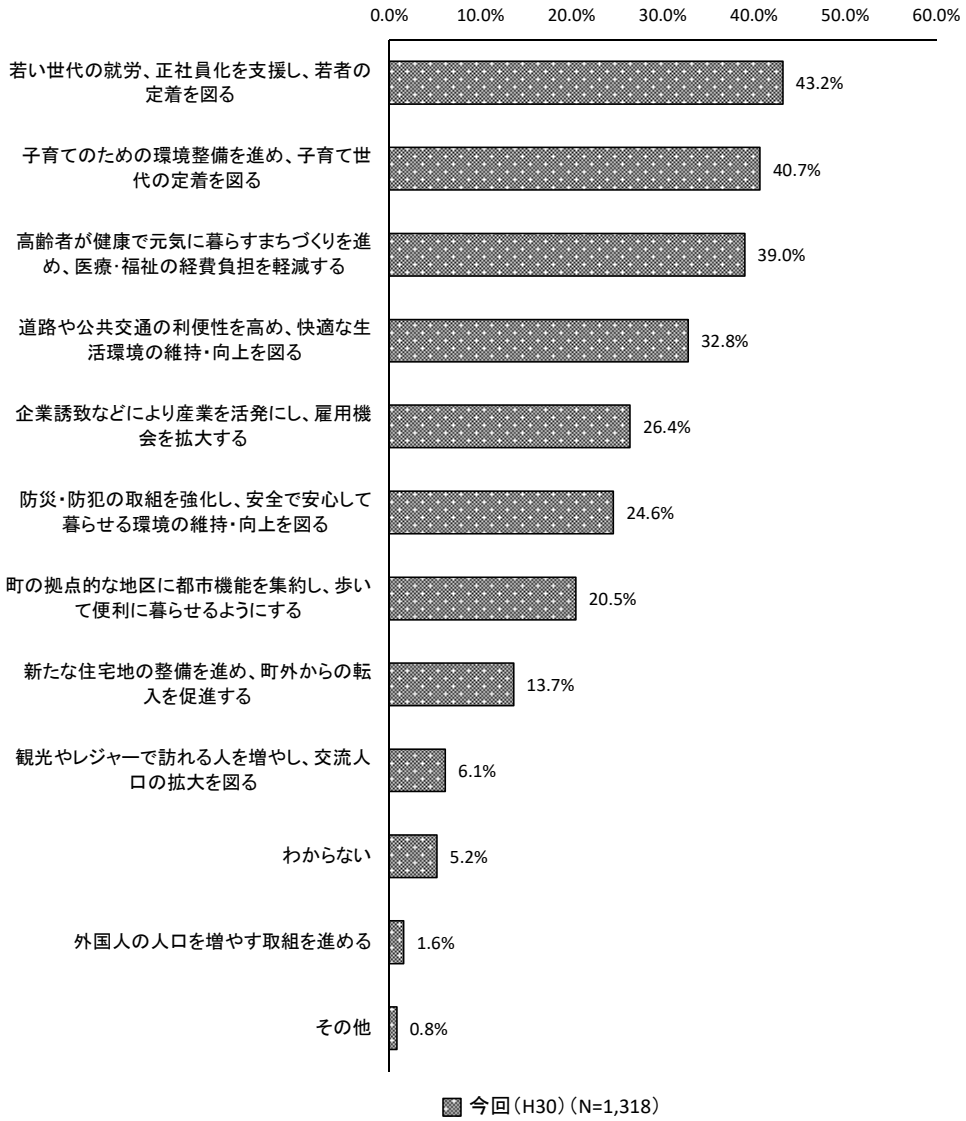
（２）人口減少に対応するための取組

問１５　武豊町において、「人口減少社会」に対応していくために、どのような取組が重要になると思いますか。（３つまでに○印）

人口減少社会に対応していくために重要となる取組としては、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 43.2%で最も多くなっています。次いで、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 40.7%、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療･福祉の経費負担を軽減する」が 39.0%となっており、この３つが概ね４割前後の回答を得ています。

さらに、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」が 32.8%、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」が 26.4%、「防災・防犯の取組を強化し、安全で安心して暮らせる環境の維持・向上を図る」が 24.6%と続いています。

図表 1-8-3　人口減少に対応するための取組



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」は女性 43.0%で、男性よりも 5.0 ポイント高くなっています。 ○「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」は男性 29.3%で、女性よりも 4.9 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代では、「わからない」が 19.0%とやや高くなっています。 ○20 歳代では、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 50.6%でもっとも高く、50 歳代、60 歳代でも 41.8%、47.0%で高い回答を得ています。 ○30 歳代、40 歳代では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が最も多く、それぞれ 61.7%、46.2%となっています。 ○60 歳代、70 歳代、80 歳以上では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療･福祉の経費負担を軽減する」が最も多くなり、順に 47.0%、52.3%、45.7%となっています。
居住地区	○富貴小学校区で、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 48.8%、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 46.5%で、相対的に高い割合を示しています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 52.3%で全体と比べ 11.6 ポイント高く、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」も 39.8%で 7.0 ポイント高くなっています。 ○居住年数 20 年以上 30 年未満では、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」が 40.2%で全体と比べ 7.4 ポイント高くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」が 29.2%で、他と比べ高いことが特徴的です。 ○夫婦のみ世帯では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療･福祉の経費負担を軽減する」が 48.5%で、全体と比べ 9.5 ポイント上回っています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 87.2%で全体の倍以上となっており、極めて特徴的です。
職業	○農業、自営業、公務員では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が順に 57.1%、50.0%、53.3%で最も多くなっています。 ○学生、パート・アルバイトでは、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」がそれぞれ 39.2%、51.7%で最も高くなっています。 ○主婦・主夫、無職では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療･福祉の経費負担を軽減する」がそれぞれ 48.7%、49.4%で最も高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 50.0%で、全体と比べ 6.8 ポイント上回っています。 ○武豊町内に通勤通学する者は、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」が 33.3%で全体と比べ 6.9 ポイント高くなっています。

図表 1-8-4　属性別、人口減少に対応するための取組　（１／２）

	町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする	新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する	企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する	若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る	外国人の人口を増やす取組を進める	子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る	高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する	道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る	防災・防犯の取組を強化し、安全で安心して暮らせる環境の維持・向上を図る	観光やレジャーで訪れる人を増やし、交流人口の拡大を図る	その他	わからない
全体（n=1,318）	20.5%	13.7%	26.4%	43.2%	1.6%	40.7%	39.0%	32.8%	24.6%	6.1%	0.8%	5.2%
男性（n=584）	18.5%	17.0%	29.3%	42.3%	2.6%	38.0%	36.8%	30.7%	26.9%	7.7%	1.0%	5.1%
女性（n=718）	21.7%	11.1%	24.4%	43.9%	0.8%	43.0%	40.7%	34.5%	22.8%	4.9%	0.6%	5.3%
10歳代（n=58）	13.8%	6.9%	17.2%	39.7%	5.2%	22.4%	20.7%	20.7%	13.8%	19.0%	3.4%	19.0%
20歳代（n=81）	14.8%	9.9%	18.5%	50.6%	3.7%	44.4%	27.2%	35.8%	21.0%	7.4%	2.5%	4.9%
30歳代（n=94）	19.1%	21.3%	31.9%	41.5%	4.3%	61.7%	18.1%	39.4%	21.3%	6.4%		2.1%
40歳代（n=195）	18.5%	12.3%	30.8%	37.4%		46.2%	27.2%	40.0%	21.5%	9.7%	0.5%	6.2%
50歳代（n=208）	16.8%	13.5%	23.1%	41.8%		38.5%	36.5%	37.5%	25.5%	6.7%		4.8%
60歳代（n=279）	19.7%	13.6%	26.2%	47.0%	1.4%	45.9%	47.0%	28.7%	23.7%	2.5%	1.4%	3.2%
70歳代（n=304）	26.3%	13.5%	28.3%	46.4%	1.6%	34.9%	52.3%	29.9%	29.9%	3.9%	0.7%	4.3%
80歳以上（n=92）	26.1%	18.5%	28.3%	34.8%	2.2%	23.9%	45.7%	27.2%	27.2%	5.4%		8.7%
緑丘小学校区（n=320）	20.6%	16.3%	26.9%	38.1%	0.9%	37.5%	39.1%	36.9%	24.1%	6.3%	0.9%	5.3%
武豊小学校区（n=340）	20.0%	13.5%	29.1%	43.2%	2.1%	40.0%	40.6%	30.0%	27.4%	5.3%	1.2%	4.4%
衣浦小学校区（n=298）	21.8%	9.7%	26.5%	45.0%	1.3%	36.9%	43.6%	32.2%	26.2%	5.0%	1.0%	5.0%
富貴小学校区（n=256）	22.3%	13.7%	24.2%	48.8%	1.6%	46.5%	34.8%	32.4%	23.0%	7.0%	0.4%	5.1%
10年未満（n=128）	21.1%	18.0%	25.0%	39.1%	2.3%	52.3%	25.8%	39.8%	21.9%	10.2%		3.9%
10年以上20年未満（n=204）	16.2%	15.7%	23.5%	39.7%	3.9%	43.6%	29.9%	27.9%	19.6%	12.7%	1.5%	7.8%
20年以上30年未満（n=179）	17.9%	10.6%	25.7%	42.5%	1.1%	41.3%	39.7%	40.2%	22.9%	3.4%	0.6%	5.6%
30年以上（n=797）	22.2%	13.3%	27.6%	44.9%	1.0%	38.0%	43.3%	31.5%	26.7%	4.4%	0.8%	4.8%

図表 1-8-4　属性別、人口減少に対応するための取組　（２／２）

	町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする	新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する	企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する	若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る	外国人の人口を増やす取組を進める	子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る	高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する	道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る	防災・防犯の取組を強化し、安全で安心して暮らせる環境の維持・向上を図る	観光やレジャーで訪れる人を増やし、交流人口の拡大を図る	その他	わからない
全体（n=1,318）	20.5%	13.7%	26.4%	43.2%	1.6%	40.7%	39.0%	32.8%	24.6%	6.1%	0.8%	5.2%
単身世帯（n=120）	29.2%	12.5%	22.5%	40.0%	2.5%	31.7%	37.5%	33.3%	29.2%	10.8%		8.3%
夫婦のみ世帯（n=402）	23.4%	12.7%	27.1%	43.0%	1.5%	40.3%	48.5%	29.9%	27.1%	4.0%	0.7%	4.2%
２世代家族（n=615）	17.9%	14.0%	28.9%	44.1%	1.3%	42.8%	33.2%	34.6%	24.1%	6.3%	1.1%	5.0%
３世代家族等（n=135）	17.0%	15.6%	17.0%	48.1%	1.5%	45.2%	40.7%	34.1%	14.1%	5.9%	0.7%	5.9%
６歳未満の子（n=47）	23.4%	14.9%	34.0%	42.6%		87.2%	17.0%	31.9%	17.0%	4.3%		4.3%
６歳以上１８歳未満の子（n=251）	17.5%	13.5%	22.7%	40.6%	2.0%	47.8%	28.7%	33.9%	19.9%	10.4%	0.8%	4.8%
６５歳以上の方（n=668）	21.1%	13.2%	27.7%	45.8%	1.2%	38.0%	45.8%	32.8%	26.5%	3.4%	0.7%	6.0%
介護を要する方（n=72）	20.8%	18.1%	23.6%	30.6%		50.0%	37.5%	40.3%	16.7%	5.6%	1.4%	6.9%
農業（n=14）	21.4%	14.3%	35.7%	50.0%		57.1%	28.6%	14.3%	35.7%	7.1%		
会社員・団体職員（n=335）	18.2%	17.0%	30.1%	41.5%	2.1%	41.5%	31.6%	35.8%	26.9%	7.8%	0.6%	3.3%
自営業（n=54）	11.1%	14.8%	24.1%	44.4%		50.0%	22.2%	29.6%	29.6%	13.0%		3.7%
公務員（n=45）	15.6%	17.8%	37.8%	37.8%		53.3%	31.1%	40.0%	26.7%	8.9%		
学生（n=74）	13.5%	8.1%	17.6%	39.2%	5.4%	29.7%	21.6%	24.3%	12.2%	17.6%	2.7%	16.2%
パート・アルバイト（n=207）	21.7%	13.5%	26.1%	51.7%		47.3%	37.7%	36.2%	22.2%	4.3%	1.0%	2.4%
主婦・主夫（n=195）	22.6%	10.8%	18.5%	46.2%	0.5%	45.6%	48.7%	32.8%	24.1%	2.6%	0.5%	4.1%
無職（n=350）	24.9%	12.6%	28.9%	39.7%	2.6%	33.4%	49.4%	29.7%	26.6%	4.0%	0.9%	7.1%
武豊町内（n=255）	18.4%	13.7%	33.3%	42.7%	1.2%	44.3%	30.6%	32.2%	23.9%	8.2%	0.4%	3.9%
名古屋市（n=60）	16.7%	15.0%	31.7%	50.0%		36.7%	30.0%	38.3%	18.3%	6.7%	1.7%	6.7%
知多地域（n=355）	18.9%	15.2%	23.9%	45.1%	1.4%	43.1%	35.5%	33.5%	23.4%	7.6%	0.8%	4.8%
その他愛知県内（n=60）	16.7%	18.3%	26.7%	36.7%	5.0%	40.0%	25.0%	40.0%	21.7%	15.0%	1.7%	5.0%

１－９　自由意見

（１）今後のまちづくりに向けた意見・提案

問１６　武豊町の住みやすい魅力あるまちづくりに向けたご意見・ご提案などについて、自由に記述してください。

今後のまちづくりに向けた意見・提案を自由に回答いただきました。

第５次武豊町総合計画後期戦略プランの体系（７つの基本目標・22 のめざすべきまちの姿）に沿って、意見を整理すると回答数は以下の通りとなりました。具体的な意見は別添の参考資料に記します。

図表 1-9-1　今後のまちづくりに向けた意見・提案

基本目標１　ともに創るまち［行政経営］	
めざすべきまちの姿	件数
１－１　住民がまちづくりに参画しやすいまち	4
１－２　情報が相互に発信されているまち	4
１－３　住民に満足される行政サービスが行われているまち	5
１－４　健全に行財政が運営されているまち	26
計	39
基本目標２　安全に暮らせるまち［安全環境］	
めざすべきまちの姿	件数
２－１　徒歩や自転車で安全に道路を通行できるまち	24
２－２　道路や公共交通を利用して気軽に移動できるまち	52
２－３　災害への備えや日常生活の安全性が確保されているまち	24
計	100
基本目標３　ふれあいのあるまち［地域交流］	
めざすべきまちの姿	件数
３－１　集い・憩える魅力的な場所があるまち	33
３－２　誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できるまち	6
３－３　地域活動が活発に行われているまち	6
計	45
基本目標４　子どもが健やかに育つまち［次世代育成］	
めざすべきまちの姿	件数
４－１　安心して子どもを生み育てることができるまち	6
４－２　働きながらでも子育てをしやすい環境が整っているまち	8
４－３　子どもが楽しく学校生活を送っているまち	8
計	22
基本目標５　いきいきと暮らせるまち［健康福祉］	
めざすべきまちの姿	件数
５－１　楽しく健康づくりができ、安心して医療を受けられるまち	14
５－２　高齢者や障がい者がいきいきと暮らしているまち	10
５－３　みんながお互いを理解しやさしい心を持っているまち	9
計	33

基本目標６　自然環境と生活環境が調和したまち［生活環境］	
めざすべきまちの姿	件数
６－１　みんなが自然環境を大切にしているまち	15
６－２　環境へ負荷をかけない生活環境になっているまち	14
６－３　快適で豊かな住環境が整っているまち	40
計	69
基本目標７　活力に満ち誇りをもてるまち［地域活性］	
めざすべきまちの姿	件数
７－１　中心市街地がにぎやかに活気づいているまち	38
７－２　産業が活性化しているまち	6
７－３　住民が誇りを持って生活しているまち	22
計	66
アンケートについて	
計	9
その他	
計	21

合計	404